

2024年度
登別市デンマーク友好都市
中学生派遣交流事業
研修報告書



目 次

○登別市デンマーク友好都市中学生派遣交流事業の概要・・・・・・・・・・ 1

- ・事業概要
- ・研修日程表
- ・派遣生徒・引率者・ホストファミリー名簿
- ・派遣日程表
- ・各学校独自の取組について

○研修テーマ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

日本とデンマークの移動手段、道路の違いについて

登別市立緑陽中学校 1 年 伊藤 諒

デンマークの音楽について

登別市立緑陽中学校 1 年 及川 さくら

日本とデンマークのスポーツについて

登別市立緑陽中学校 1 年 樋口 紬

デンマークでの SDGs の取り組み、リサイクルについて

登別市立緑陽中学校 2 年 杉山 愛空

日本とデンマークのスーパーマーケットの違い

北海道登別明日中等教育学校 1 回生 佐藤 希

デンマークの街並みについて

北海道登別明日中等教育学校 2 回生 土崎 有紗

デンマークと日本との食文化の違い

北海道登別明日中等教育学校 2 回生 花田 幸弓

自転車の利用環境や形状の違いについて

北海道登別明日中等教育学校 3 回生 谷村 清真

家や暮らしの違いについて

北海道登別明日中等教育学校 3 回生 船田 光希

○感想文・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 7

伊藤 諒：楽しかったデンマーク

及川 さくら：デンマークで過ごした日々

樋口 紬：デンマークで過ごした最高で貴重な夏休み

杉山 愛空：デンマークに行って思ったこと

佐藤 希：デンマークの人の温かさ

土崎 有紗：期待と不安を胸に飛び立つデンマークへの旅

花田 幸弓：デンマークでの思い出！

谷村 清真：デンマークの思いで

船田 光希：初めての海外

○引率者報告書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4 6

団 長：田中 健太郎 登別市市民生活部税務グループ 主査

引率者：西林 慶武 登別市立幌別中学校教諭

○帰国報告会資料[派遣生徒]・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7 8

○帰国報告会資料[引率者]・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 2 4

○友好都市協定書

事業概要



2024.07.03 結団式にて

○ 事業概要

1 目的

登別市の中学生を友好都市のデンマーク王国ファボー・ミッドフュン市に派遣し、青少年との交流や日本とは異なる生活・文化の体験を通じ、生徒の豊かな人間性と広い視野を育むとともに、ファボー・ミッドフュン市との交流を推進することを目的とする。

2 訪問国及び都市

デンマーク王国：コペンハーゲン市、オーデンセ市、
ファボー・ミッドフュン市

3 派遣期間

2024年8月8日（木）～ 16日（金）：8泊9日

4 交流内容

表敬訪問：ファボー・ミッドフュン市役所

学校訪問：リングフリー校

施設見学：アンデルセン博物館、レゴランド、イーエスコー城、
森の幼稚園 等

5 研修内容

(1)結 団 式：2024年7月3日（水）

(2)事前研修：2024年7月8日（月）～8月6日（火）計10回
デンマーク王国の概要の学習、研修テーマの決定、
英会話、デンマーク語、登別の紹介・歌・踊りの練習、
デンマーク人一家との交流、派遣者懇談会など

〔派遣者懇談会（第8回事前研修）講師〕

前回派遣者：秋葉 洋範〔R5年度：団長〕

舘崎 美久〔R5年度：引率英語教諭〕

宮崎 葵生〔R5年度：登別市立緑陽中学校〕

相澤 仁湖〔R5年度：登別市立鷺別中学校〕

竹田 耕太朗〔R5年度：登別明日中等教育学校〕

〔保護者懇談会（第8回事前研修）出席者〕

前回派遣保護者：中村さん、宮崎さん

今年度保護者：伊藤さん、及川さん、樋口さん、杉山さん、
佐藤さん、土崎さん、花田さん、谷村さん、
船田さん

(3)事後研修：2024年8月26日（月）～ 9月25日（水）計6回
研修成果まとめ、感想文提出、帰国報告会準備

(4)帰国報告会：2024年10月2日（水）

○ 研修日程表

月 日	内 容		会 場	時 間
07 月 03 日 (水)	結団式・第 1 回保護者説明会		市民会館/中ホール	18 : 00～19 : 30
07 月 08 日 (月)	事前研修①	デンマークの概要説明、昨年の様子紹介、リーダーの決定、アトラクション担当パート決定、研修テーマ検討、特技披露検討	市民会館/視聴覚室	16 : 30～18 : 00
07 月 10 日(水)	事前研修②	研修テーマ決定、英語・デンマーク語レッスン、アトラクション練習	市民会館/視聴覚室	16 : 30～18 : 00
07 月 16 日 (火)	事前研修③	手紙の書き方、英語・デンマーク語レッスン、アトラクション練習	市民会館/視聴覚室	16 : 30～18 : 00
07 月 18 日 (木)	事前研修④	英語・デンマーク語レッスン、アトラクション練習 (ヘレーネさん一家)	市民会館/小会議室	16 : 30～18 : 00
07 月 22 日 (月)	事前研修⑤	英語・デンマーク語レッスン、アトラクション練習	市民会館/視聴覚室	16 : 30～18 : 00
07 月 24 日 (水)	事前研修⑥	英語・アトラクション練習	市民会館/視聴覚室	16 : 30～18 : 00
07 月 26 日 (金)	事前研修⑦	英語・アトラクション練習	市民会館/大会議室	16 : 30～18 : 00
07 月 27 日 (土)	事前研修⑧	OB懇談会	市民会館/視聴覚室	09 : 30～12 : 00
07 月 31 日 (水)	第 2 回保護者説明会 (保護者)		市役所/第二委員会室	18 : 00～19 : 00
08 月 01 日 (木)	事前研修⑨	英語・アトラクション練習	市民会館/視聴覚室	09 : 30～12 : 00
08 月 06 日 (火)	事前研修⑩	総練習、最終打合せ	市民会館/視聴覚室	09 : 30～12 : 00
同 日	市長へ出発あいさつ (派遣者)		市役所/市長応接室	13 : 00～13 : 30
08 月 08 日 (木)	デンマークへ出発		市役所/裏駐車場	06 : 00
08 月 16 日 (金)	デンマークから帰国		市役所/裏駐車場	18 : 00 頃
08 月 21 日 (水)	市長へ帰国あいさつ (派遣者)		市役所/市長応接室	16 : 30～17 : 00
08 月 26 日 (月)	事後研修①	報告書作成	市民会館/視聴覚室	16 : 30～18 : 00
08 月 30 日 (金)	事後研修②	報告書作成	市民会館/視聴覚室	16 : 30～18 : 00
09 月 04 日 (水)	事後研修③	報告書作成	市民会館/視聴覚室	16 : 30～18 : 00
09 月 11 日 (水)	事後研修④	報告書作成・帰国報告会準備	市民会館/視聴覚室	16 : 30～18 : 00
09 月 19 日 (木)	事後研修⑤	報告書作成・帰国報告会準備	市民会館/視聴覚室	16 : 30～18 : 00
09 月 25 日 (水)	事後研修⑥	帰国報告会リハーサル	市民会館/視聴覚室	16 : 30～18 : 00
10 月 02 日 (水)	帰国報告会		市民会館/大会議室	18 : 00～19 : 30

○ 派遣生徒・引率者名簿

学 校 名	学 年	生 徒 名
登 別 市 立 緑 陽 中 学 校	1 年 生	伊 藤 諒
登 別 市 立 緑 陽 中 学 校	1 年 生	及 川 さくら
登 別 市 立 緑 陽 中 学 校	1 年 生	樋 口 紬
登 別 市 立 緑 陽 中 学 校	2 年 生	杉 山 愛空
北海道登別明日中等教育学校	1 回 生	佐 藤 希
北海道登別明日中等教育学校	2 回 生	土 崎 有紗
北海道登別明日中等教育学校	2 回 生	花 田 幸弓
北海道登別明日中等教育学校	3 回 生	谷 村 清真
北海道登別明日中等教育学校	3 回 生	船 田 光希

引 率 者	団 長	登別市 市民生活部 税務グループ 主査	田 中 健太郎
	引率教諭	登 別 市 立 幌 別 中 学 校	西 林 慶武

○ ホストファミリー名簿

派遣団氏名	ホストファミリー氏名・住所	家族構成
田中 健太郎	【アネさん】 Anne Helstrup(母) Torben Hansen(父)	共同生活している子ども: 男 Asbjorn 男 Jeppe
西林 慶武		
樋口 紬 土崎 有紗	Peter Fuglsang Jacobsen (男)	父 Christian Jakobsen 母 Kiki Jakobsen 姉 Sif 弟 Bjorn
伊藤 諒 及川 さくら	Tobias Bjorg Andersen(男)	父 Jesper Andersen 母 Mette Bjorg Hansen 姉 Caroline
杉山 愛空	Dicte Cecilia Horslev Reifling(女)	父 Ronnie Reifling 母 Anja-Isabell Horslev Jorgensen 妹 Kamille
船田 光希	Lauge Bruun Clausen(男)	父 Jesper Bruun Clausen 母 Ditte Bruun Clausen 妹 Signe
谷村 清真	Johannes Rosager Juul(男)	父 Bo Juul Troelsen 母 Sara Rosager Juul 妹 Ingeborg
花田 幸弓	Amalie Celina Rein-Ronvang(女)	父 Anders Jensen 母 Sandra Cacilia Rein-Ronvang
佐藤 希	Ida Baagoe Mikkelsen(女)	父 Allan Mikkelsen 妹 Liva
	Maja Johanne Nielsen(女)	父 Thomas Nielsen 母 Mette Nielsen

○ 派遣日程表

日付	時間	旅程	スケジュール	食事	宿泊施設
Day 1 8月8日 (木)	05:15	旅行団及び家族	登別市役所 本庁舎裏 駐車場集合	各自	
	05:30~	【市バス】 登別市役所⇒新千歳空港	市バスで新千歳空港へ空港到着後、搭乗手続き	各自弁当持参 または購入 (昼食) 機内食 (夕食)	ホテル
	07:30~09:05	【航空】【NH050便】 新千歳空港⇒羽田空港(T2)	羽田空港へ出発 羽田空港到着、出国手続き		
	11:45~18:15	【航空】【SK984便】 羽田空港(T3)⇒コペンハーゲン空港	コペンハーゲン空港へ出発 コペンハーゲン空港到着&入国・到着手続き、荷物受け取り、税関検査		
	19:30~19:40	【徒歩】	コペンハーゲン空港駅まで徒歩		
	20:00~20:15	【列車】コペンハーゲン空港駅【20:00発】 ⇒コペンハーゲン中央駅	コペンハーゲン中央駅へ出発・到着		
	21:00頃	【徒歩】 コペンハーゲン中央駅⇒ホテル	ホテルにチェックイン【コンフォートホテルヴェスターブロ】		
Day 2 8月9日 (金)	10:00~10:15	【徒歩】 ホテル⇒コペンハーゲン中央駅	チェックアウトしてコペンハーゲン中央駅まで徒歩	ホテル(朝食)	ホストステイ
	10:30~11:58	【列車】【70039便】 コペンハーゲン中央駅⇒オーデンセ駅	オーデンセ駅へ出発・到着【アネさんと合流】	オーデンセ市内 (昼食)	
		【徒歩】オーデンセ市内	オーデンセ市内を観光【アネさん案内】		
	15:52~16:19	【列車】【4649便】 オーデンセ駅⇒リンゲ駅	リンゲへ出発、到着【ホストファミリーと集合】		
Day 3~6 8月10日 (土) ~ 8月13日 (火)		ファボー・ミッドフン市内 (別資料)	・ホストファミリーと過ごす ・ファボー・ミッドフン市役所表敬訪問 ・森の幼稚園訪問 ・リンゲフリー校授業参加 ・イーエスコ城見学 ・レゴランド見学 ・お別れパーティ 等	ホスト	ホストステイ
Day 7 8月14日 (水)	9:00	ホストファミリー⇒リンゲ駅	リンゲ駅に集合	ホスト (朝食)	ホテル
	09:21~09:45	【列車】【4649/4618】 リンゲ駅⇒オーデンセ駅	オーデンセ駅へ向けて出発、到着	団体 (昼食)	
	10:26~12:09	【列車】オーデンセ駅【IC-70124 便】 ⇒コペンハーゲン中央駅	コペンハーゲン中央駅へ出発、到着		
	12:10~12:15	【徒歩】コペンハーゲン中央駅⇒ホテル	荷物をホテルに預ける【コンフォートホテルヴェスターブロ】		
		【徒歩】コペンハーゲン市内	コペンハーゲン市内を観光	団体(夕食)	
	18:00頃	【徒歩】コペンハーゲン市内⇒ホテル	ホテルにチェックイン【コンフォートホテルヴェスターブロ】		
Day 8 8月15日 (木)	9:00~9:15	【徒歩】ホテル⇒コペンハーゲン中央駅	チェックアウトしてコペンハーゲン中央駅まで徒歩	ホテル(朝食)	機内
	9:30~09:42	【列車】コペンハーゲン中央駅【9:30発】 ⇒コペンハーゲン空港駅	コペンハーゲン空港駅へ	空港で昼食	
		【徒歩】	コペンハーゲン空港まで徒歩、出発手続き	機内食 (夕食、朝食)	
	12:45~07:55	【航空】【SK983便】 コペンハーゲン空港⇒羽田空港	羽田空港へ出発 羽田空港に到着 到着手続き、荷物受け取り、税関検査		
Day 9 8月16日 (金)	13:00~14:35	【航空】【NH065便】 羽田空港⇒新千歳空港		団体(昼食)	帰宅
	15:00~	【市バス】新千歳空港⇒登別市役所	市バスで登別市役所へ出発、到着、解散		

※時差 デンマーク王国⇒日本のマイナス7時間

○ 各学校独自の取組について

デンマーク王国での貴重な体験を通して、生徒が現地で学んだことや感じたことを同世代の生徒に発表する場を設けていただき、国際性豊かな人材の育成や本事業のPRに寄与していただきました。

学 校 名	学 年	生 徒 名
登別市立緑陽中学校	1年生	伊藤 諒
	1年生	及川 さくら
	1年生	樋口 紬
	2年生	杉山 愛空
【取組内容】 9月6日（金）給食時間中のお昼の放送にて、デンマーク派遣の経験を報告した。 登別市立緑陽中学校から派遣された生徒4名全員で手分けして、事前研修から派遣期間中の思い出に至るまで、本事業の魅力を十分に語っていただいた。		

学 校 名	学 年	生 徒 名
北海道登別明日中等教育学校	1回生	佐藤 希
	2回生	土崎 有紗
	2回生	花田 幸弓
	3回生	谷村 清真
	3回生	船田 光希
【取組内容】 9月13日（金）に実施された校内の全校集会にて、派遣生徒全員がそれぞれ準備してきたパワーポイントの資料を用いて、本事業にて経験した出来事等をまとめた発表を実施した。		

研修テーマ



2024.8.6 市長へ出発挨拶にて

日本とデンマークの移動手段、道路の違いについて

登別市立緑陽中学校 1年 伊藤 諒

僕は「日本とデンマークの移動手段、道路の違い」について調べました。

最初は電車についてです。

電車はコペンハーゲンとリングエへの往復に利用しました。

右の写真は、デンマークの電車の中の様子です。

ローカル線も含め、席はボックス席になっていて、テーブルがついています。

また、全席にコンセントの穴やワイファイが備わっていて、とても便利でした。

その他にも、電車には自転車を置いてもいい車両があり、その車両を利用している人もたくさんいました。

僕は乗ってみて、日本より、電車内でしゃべっている人が多いなと感じました。

デンマーク人は喋ることが好きな人が多いけれど、電車の中でもたくさん喋ることにとっても驚きました。



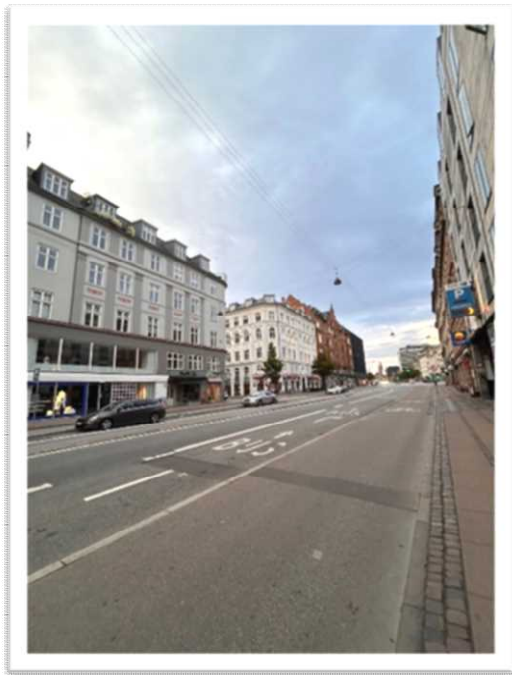
次は、道路についてです。

僕はデンマークに到着して、まず車が右側通行となっていることにとっても違和感がありました。

右側通行に慣れるまでは、道路を渡ったりするのが少し怖かったです。

信号機は日本とは違うところがとても多く、日本では信号の色が青→黄→赤の順に信号が変わりますが、デンマークでは、青→黄→赤→黄と赤信号から青信号に変わる間に黄色信号が点灯していました。

また、歩行者用信号機の中には、信号の色が変わるまでのカウントダウンがついた信号機があり、日本の横断歩道にも欲しいなと思いました。



次は、車についてです。

車は、ホストファミリーの家からリング駅までの往復やイーエスコー城へ移動するときに利用しました。

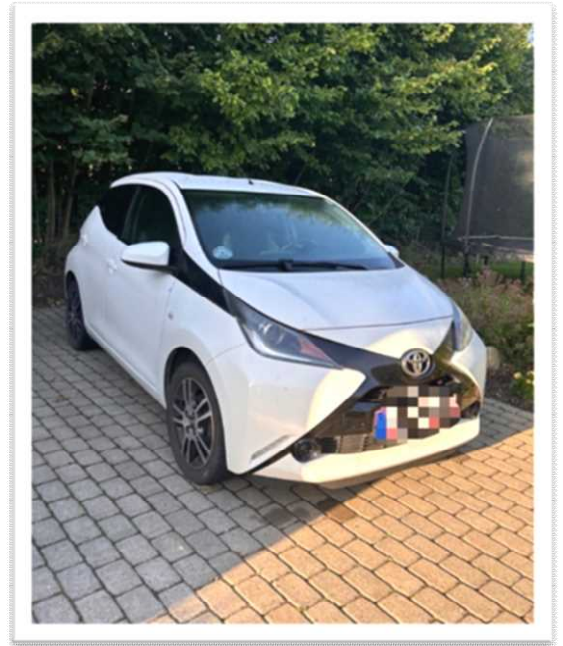
走っている車のメーカーは、フォルクスワーゲンやベンツなどのヨーロッパ車が全体の7割程度で、日本の車はトヨタや日産、ホンダ、スバルなどが走っていました。

僕のホストファミリーの家の車は、フォルクスワーゲンとトヨタでした。

ホストファミリーに聞いてみると「トヨタの車はとてもすばらしい」と言っていました。

ですが、デンマーク人はあまり車を使わずに徒歩や自転車などで移動することが多いようです。

デンマークにいる間は車に乗る回数が日本にいる時よりも少なくエコだなと感じました。



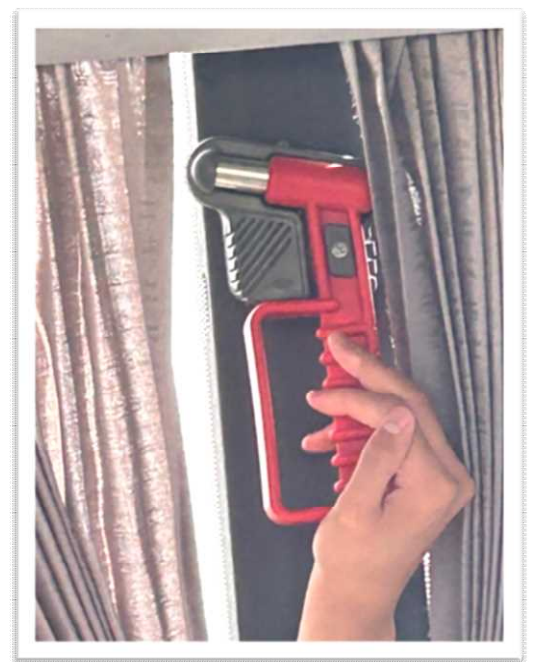
最後は、バスについてです。

バスは、リングフリー校とレゴランドの往復に貸し切りバスを利用しました。

日本の貸し切りバスは出入口が1つしかありませんが、デンマークの貸し切りバスには出入口は前と中央の2つがありました。

日本では路線バスは2つ扉がありますが、貸し切りバスにも扉が2つもあるのに驚きました。

また、脱出用ハンマーが多数設置されていて、緊急時の備えもしっかりされているなと思いました。



このように、デンマークの移動手段や道路は日本とデンマークの移動手段や道路は同じところや違う所がたくさんありました。

やっぱり日本の方が便利だなと思うことやデンマークの方が便利だなと思うこともあって面白かったです。

デンマークの音楽について

登別市立緑陽中学校 1年 及川 さくら

今回の派遣で私は音楽について調べてきました。

私は、音楽が好きで、日頃から、合唱の地域クラブで活動しています。

他の国の音楽にも関心があり、このテーマにしました。

デンマークでは、ホストファミリーから音楽の話を聞いたりしましたが、特に印象に残っているのは、リングフリー校の始業式の中で歌われていた曲です。

リングフリー校の始業式では、校歌とイギリスの有名なバンドの曲が歌われていました。

まず、校歌は、リングフリー校の生徒たちと、その家族が、みんな歌詞を見ながら歌っていました。

日本では、自分の学校の校歌を歌詞を見ながら歌う場面を見たことがなかったので、なぜ歌詞を見ながら歌うのか、少し疑問に思いました。

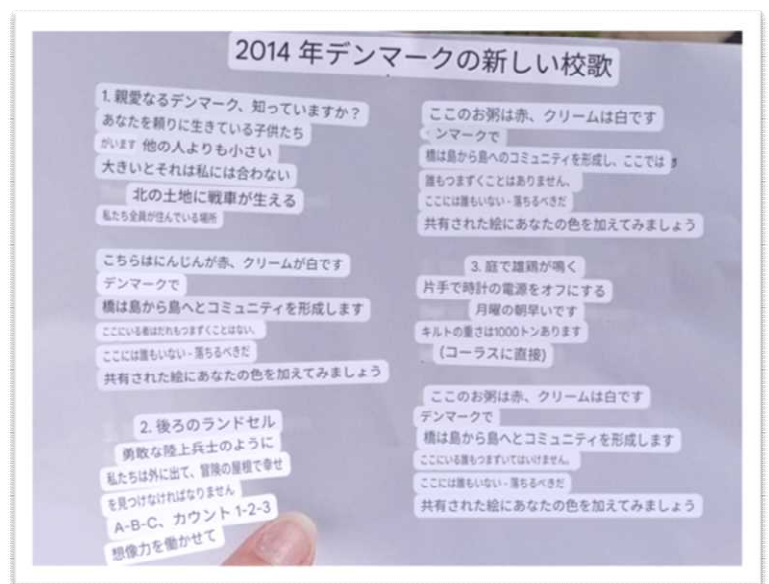
聞いてみたところ、リングフリー校の校歌は、10年前に新しくなったようで、先生たちが古い校歌と新しい校歌がごちゃごちゃにならないように、歌詞を見ながら歌っているのを、生徒が真似して、歌詞を見ながら歌うようになったみたいです。



そして、校歌の歌詞については、かなり意味の深い歌詞でした。

左の写真は、校歌を日本語に翻訳したのですが、具体的には、戦車や兵士など戦争を連想する歌詞や女性を連想する歌詞が書かれていました。

日本の校歌の歌詞は、植物のことに書かれていたり、情景について書かれていたりするものが多いと思うので、校歌の歌詞のつくりが、日本で私がこれまで見てきたものとは全く違うものだと感じました。



また、校歌の曲調はゆったりとした感じで、少し明るめな曲でした。

明るめな曲調なのに、戦争を連想することが書かれていたり、私にはよくわからなかった部分もあるので、いつかまたデンマークに行った時に、疑問を解消しようと思います。

その後に歌っていた曲は「jeg ved lærkerede」という曲で、日本語で「ヒバリの巣を知っています」という意味でした。

この曲はイギリスの有名なバンドの曲らしく、みんな歌詞を知っていました。

学校の始業式で、なぜイギリスの有名なバンドの曲を歌っていたのかはわかりませんが、日本と同じく、自分の国の音楽だけではなく、日本でK-POPが聴かれているように、デンマークでも、国や音楽性に縛りではなく、自由に好きな音楽が聴ける証拠だと思います。

また、ホストファミリーとビーチに行ったとき、ホストファミリーとその友達が BTS の話で盛り上がっており、K-POPはデンマークでも人気だということが分かりました。

日本の曲について、人気かどうか聞いてくることは忘れてしまったので、SNSなどを使って、いつか日本の音楽が人気なのかどうかについても聞いてみたいと思います。

デンマークの国歌についても調べました。

デンマークの国歌は「麗しき国」という曲名です。

1 番から 4 番まである曲で、歌詞には、自然や戦い、女神に関わる言葉がいくつか出てきます。

日本の国歌には、戦いや神様のことは一切出てこないのも、デンマークと日本の国歌は全然違うと思いました。

私は、デンマークで流行している曲や、国歌の歌詞の意味についてを調べましたが、まだまだ調べ足りないと思っています。

今回の派遣で、デンマークの音楽、曲について、さらに興味が沸きました。

またいつかデンマークに行って、ホストファミリーやその友だちと、デンマークで有名な曲と一緒に歌いたいです。

そして、日本の歌も一緒に歌ってみたいです。

また、私の将来の夢は、薬剤師と歌手で、どちらになるか、まだ迷っています。

もし歌手になったら、いつか私が歌っている曲をデンマークで流行させてみたいです。

私は「日本とデンマークのスポーツ」について、スポーツできる環境やスポーツをしている人のことなどを調べてきました。

最初に「屋外にバスケットゴールが多いな」と思いました。

私は、部活動でバスケットボールをしていることもあり、特に印象に残っています。

ホストファミリーと過ごしたリングという街では、大きな公園だけでなく、自宅の庭などバスケットゴールが多く見られました。登別市内には、屋外にバスケットゴールが1つしかないのて違いを感じました。

また、日本の公園のバスケットゴールにはネットが取り付けられているものばかり見ていましたが、デンマークの公園のバスケットゴールにはネットが付いていなかったです。

色合いは、グレーなどおしゃれな配色でした。

私のホームステイの家には、バスケットボールが設置されていて、兄弟と一緒にバスケットをしたりして、仲良くなれるきっかけになりました。

スポーツは、国が違っても、ルールややり方は同じなんだと感じ、少し安心しました。

デンマークは乾燥していて、とても日差しが強い日にトランポリンや追いかけっこなどの運動をしても汗は一度もかきませんでした。

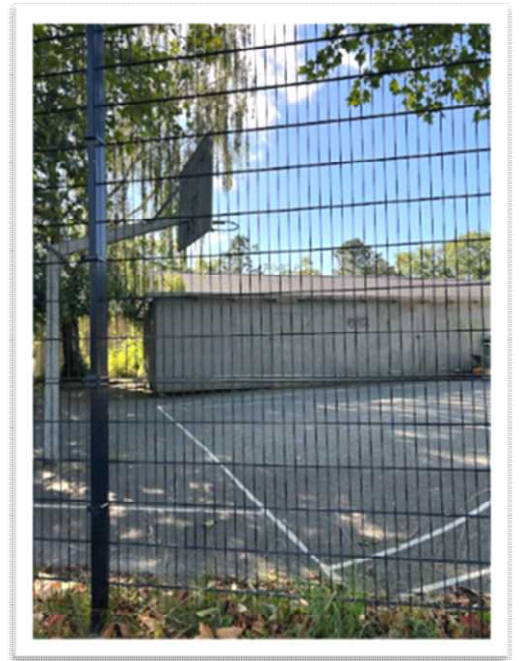
乾燥していて不便なことがなかったのと、日本は、気温と湿度が高く汗をかくことが多いため、とても運動がしやすい国だなと感じました。

デンマークの気候は、気温も湿度も登別より低く、とても過ごしやすかったです。

次に、スポーツをしている人についてです。

事前に、デンマークにはトランポリンが多いと聞いていましたが、思った以上にトランポリンがあったり、首都では自転車を使用している人が多く見られたりしました。

それに、小さい子でもとても運動神経が良く、トランポリンでバク転やバク宙をしている人も見られました。デンマークの人は積極的なので、「これやってみて」「一緒にやろうよ」とよく言われましたが、バク転やバク宙はできないので、断ってしまいました。



デンマークの学校にはこれまでに見たことのない、私にはできなさそうな遊具もありました。

デンマークの人は大人から子供までスポーツをしているのが素敵だなと感じました。

リングフリー校のグラウンドで遊ぶ機会があったときに野球みたいなスポーツをみんなでしていました。ルールはだいたい同じでした。

また、デンマークではアルゼンチンのメッシ選手など有名なサッカー選手の T シャツやデンマーク代表の赤い T シャツを着ている人をたくさん見かけました。

T シャツを来ている人に「サッカーをしているんですか？」と聞くと、その人は、日本語翻訳で「私は泳いでます。」と言っていました。デンマークをはじめ、ヨーロッパの国々ではスポーツで最も人気のあるスポーツはサッカーのようです。

しかし、インターネットでデンマークの国技を調べるとハンドボールでした。

ハンドボールとはサッカーから派生した競技ですが、ボールを手で扱う競技特性から、バスケットと類似したルールが追加されてきた特徴を持つそうです。デンマークが発祥の地と言われているそうです。

私は、スポーツを通して国の違いを感じずにとっても仲良くなることができることを実感しました。

スポーツを通して、コミュニケーションを取るきっかけになり、話しが弾んで、知らないことを知るきっかけになったりしました。

やはりスポーツは、国が違ってルールはだいたい一緒なので、あまり話したことがない人ととても楽しむことができました。

また、トランポリンの多さには本当に驚きました。ほぼ毎日トランポリンをしていて、日本ではなかなかできない体験だったと思いました。

実際にデンマークではスポーツを通じて、コミュニケーションを積極的にとってくれたり、「何か飲み物いる？」など声をかけてくれて、すぐリラックスすることができました。

このリングと登別の交流が長く続いてきてくれてよかったです。

これからもずっとデンマークとの交流が続いてほしいです。みなさんもデンマークに行ってみたいと思いませんか？



私の研修テーマは SDGs、リサイクルの日本との違いについてです。

デンマークに行くことになって、調べてみるとデンマークはどこよりも早くクリーンエネルギーに対しての取り組みを積極的に実施した国であること、SDGs が始まる前から環境問題やサステナブルへの意識が高かった事を知り、私はこの研修テーマを選びました。

私がデンマークで見つけたエコに対する取り組みをいくつか紹介します。

1つ目はレシートです。

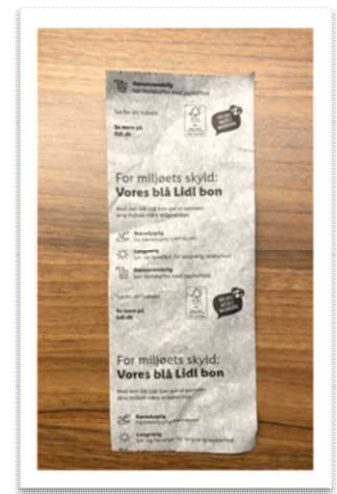
デンマークで買い物した時にもらったレシートの 1 つに左の写真のようなものがありました。

このレシートをもらった時、触り心地が違うことに気づきました。

これは環境のために作られたレシートです。

このレシートには、「持続可能な木材から作られていてリサイクルが可能」ということが書かれており、「FSC」という森林管理協議会という国際組織が関わっていることが分かります。

しかし、デンマークでもらったレシートの全てがこのようなレシートではなく、日本のレシートのようにツルツルした素材がほとんどでした。



2 つ目はゴミ箱についてです。

右の写真は私たちが最初と最後に泊まったホテルのゴミ箱です。

それぞれの色ごとにゴミを分別することができます。



また、左の写真はデンマークの街中に設置されていたゴミ箱です。

登別をはじめ、日本では街中にこのようなゴミ箱を見たことはありませんでしたが、デンマークでは所々にゴミ箱が設置されており、ペットボトルなどのゴミをお店の中に入らずに捨てることができ、便利だなと思いました。

日本でも所々にゴミ箱を設置した方が、より良い街にすることができるのではないかと思います。

3 つ目は物についてです。

機内食とサンドウィッチ屋さんのスプーン、フォーク、ナイフが木で作られていました。

そして、スターバックスでのストローは紙製のもので、ほかにも、紙パックのジュースなど、お店に並ぶ商品には紙を使ったものをよく見かけました。

日本でもこれらと同じ物があり、日本とデンマークで共通点もあることがわかりました。

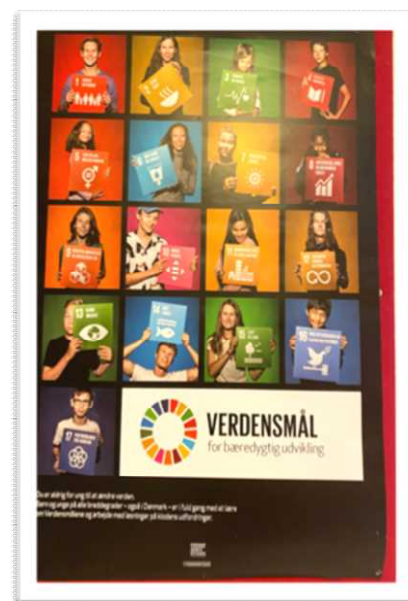


4 つ目は街の中でのポスターについてです。

コペンハーゲン中央駅のエスカレーターでは、SDGsに関するポスターが掲示されていたり、リングフリー校の中にも、SDGs のポスターが貼ってあり、住民や街の人へ環境を守ろうという呼びかけがありました。

このような呼びかけがナイフやフォークと一緒に入っていた紙ナプキンにも印刷されていました。

これらの取り組みは、自然を守ろうという意識を忘れないような工夫なのかなと思いました。



実際にデンマークに行って私はこのようなデンマークと日本の SDGs、リサイクルの取り組みの違いを学ぶことが出来ました。

そして今、世界的に問題になっている環境問題について、もっと自分が出来ることに積極的に取り組んでいきたいと思いました。

日本とデンマークのスーパーマーケットの違い

北海道登別明日中等教育学校 1 回生 佐藤 希

私はデンマークに行ってきたさんの経験をしてきました。

また、私はデンマークに行って日本とデンマークのスーパーマーケットの違いについて調べました。すると日本とは違った面白い点がたくさん見られました。

まずは店内と商品について紹介します。

店内に入ると、カートがありましたが、日本とは違い、大きなかごにタイヤがついていました。

店内には、およそ 20 人ほどのお客さんがおり、食べ物や日用品などいろいろな物を買っていました。その中で人気だった商品を 3 つ紹介します。

1 つ目は、サラミです。サラミは日本のハムのようにパックに入って売られていました。

そして、どのお客さんもサラミのコーナーに来ては何パックかを取っていました。

2 つ目は、フルーツ類です。

スーパーには日本と同じようにフルーツと野菜のコーナーがあり、フルーツ類は、洋梨やいちご、ライチ、マスカットなどたくさん種類がありました。特にその中で売っていたのはマスカットでした。私のホストファミリーも朝ご飯やお弁当などによくマスカットといちごを入れてくれました。

そのようなことから、マスカットはデンマークではポピュラーな食べ物なのかもしれないと思いました。また、他の派遣団の人のお弁当には、洋梨や桃なども入っていました。

また、謎の黒いフルーツも入っていたりしました。

3 つ目は、炭酸飲料です。

ざっくりとしていますが、炭酸飲料は絶大な人気がありました。

例えば、炭酸水、コーラ、ペプシなどは必ずスーパーにあると言ってもいいほどたくさん見受けられました。またお客さんもコーラを買っていたりなど炭酸飲料は人気がありました。

私のホストファザーはコーラが好きで勧めてきたりなどデンマークの方は炭酸飲料が好きな感じが見受けられました。

また、デンマークには人気のスーパーの Natto というスーパーがあるのですが、そこで売られていた飲み物の約 3 割が炭酸飲料でした。デンマークでは、日本で普通の水を飲むのが普通になっているように、炭酸水を当たり前飲む文化になっているそうです。

また、野菜コーナーについては気になった野菜が何個も見受けられましたので 3 つ紹介します。

1つ目は、キャベツです。

日本のキャベツは円球の形をしています。デンマークのキャベツは白菜のように細長い形をしていました。育った環境や種類が影響していると思ったのですが、味は日本のキャベツと変わりなく甘い味がしました。私はなぜこのような形の差が出たのか疑問に思いました。

2つ目は、トマトです。

日本では、トマトは袋入りやバラ売りなどいろいろな売られ方をしていますが、ほとんどがヘタのある丸いトマトが売られています。

しかし、デンマークでは枝付きのトマトが丸ごと売られていました。枝には3個から4個ほどのトマトがついていて全てバラ売りで売られていました。私は売るスタイルは文化によって変わりますが、どうしてこんなに差がついたのかが疑問に思いました。



3つ目は、ニンジンです。

日本ではニンジンもトマトと同じようにバラ売りや袋売りをして売られていますが、デンマークでは2種類売っていました。

1種類目は日本でも見るような普通のニンジンでしたが、2種類目はサイズが5センチほどの小さなニンジンでした。

また、1種類目はバラ売りで売られていましたが、2種類目はバラ売りではなく全て袋売りで売られていました。私はなぜ2種類のニンジンを売る必要があるのかということと、それぞれどのような調理法をしてどう食べるのかが疑問に思いました。

最後に主食についてです。

日本で主食のお米は、デンマークにもありました。デンマークのお米は日本より細長い形をしていました。味はあまり変わらない感じでした。ですが日本とは違ってスーパーマーケットに売ってはいませんでした。私はお米はどこで売っているのかが少し気になりました。そしてまた現地に行ったときにはお米を買ってみたいと思います。



また、デンマークでは、パンも主食の1つのように、私が行った3件のスーパーの全てのお店にパンコーナーがあり、ジャムパンやクリームパン、ドーナツ、バゲットなどいろいろな種類がありました。最後にまとめです。デンマークで私はスーパーマーケットを調べて食べ物の違いや現地でのカルチャーショックをいろいろ感じることができました。この経験を活かして日本のことをもっと世界に広めていきたいと思いました。

デンマークの街並みについて

北海道登別明日中等教育学校 2 回生 土崎 有紗

私は、デンマークに行き、街並みについて調べてきました。

日本で、登別市と他の場所では、建物や街並みが違うように、デンマークの中でも場所によって建物や街並みが違うことがわかりました。

訪問した場所で見た建物や街並みについて、いくつか紹介します。

はじめに、初日と最終日に滞在した首都コペンハーゲンについてです。

コペンハーゲンには、ニューハウンと呼ばれるスポットがあり、建物がとてもカラフルで、これまで日本では目にすることがない街並みでした。

有名な観光スポットであると聞いていましたが、多くの観光客が訪れておりました。

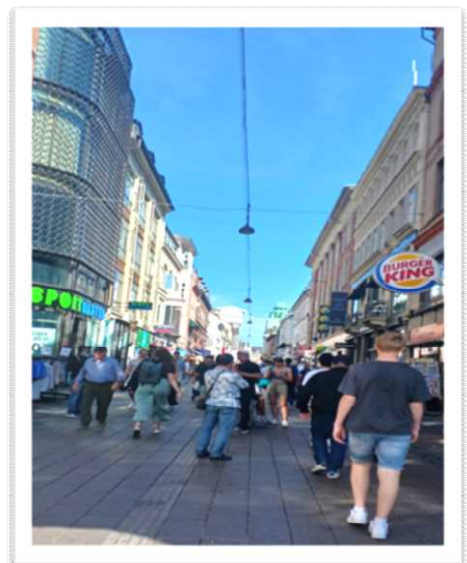
私達が訪れたとき、ちょうど晴れていたなので、とてもきれいな写真を取ることができました。



その後、ニューハウンから、コペンハーゲン中央駅までの約2～3kmを徒歩で散策しました。

コペンハーゲンには、ビルのような高い建物も多くあり、その中には、お土産店やファッションショップ、飲食店などが入っていました。

また、コペンハーゲン中央駅は、天井が高く、とても広々としていて大きく、その周りのホテルやショッピングセンターなどは、リングやオーデンセで見た建物と比べて、高い建物が多い印象を受けました。

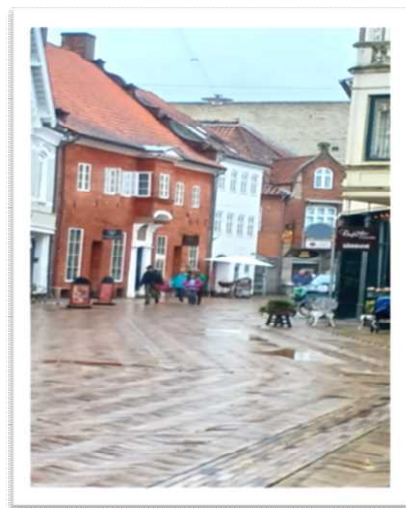


次に、オーゼンセと派遣中に5日間滞在したリングなどがあるフュン島についてです。

オーデンセには、アンデルセン博物館などの観光スポットが多くありました。どこを見渡してもきれいなところで、360°が私にとっての観光スポットでした。

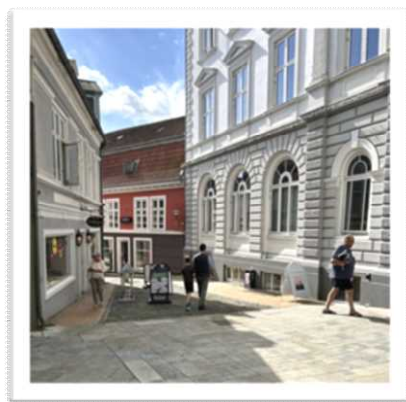
オーゼンセとリングの建物もニューハウンと似ていて、白色や赤茶色、黄色などのカラフルでした。

そして、オーゼンセやリングの建物は、日本やコペンハーゲンの建物と比べて、少し小さめだったので、まるでおとぎ話の中に入っているような感覚になりました。



次に、お店です。

私がこれまでに日本で見てきたお店は、一軒家で居住している建物は別にあるところが多いように感じていましたが、デンマークのお店の多くは一階にお店があり、二階からは自分の家となっているところが多く、日本とデンマークの建物のちがいを改めて感じました。



また、滞在中は色々なお店を見ましたが、その中でキャンドルを売っているお店をよく見かけました。

驚くことに、イーエスコー城の中にも昔の国王たちが使っていたとされる、いろいろな大きさ・形のキャンドルが展示してありました。キャンドルは、今も昔も愛されているものなんだなあ、と実感しました。



私は、デンマークの建物や街並みについて調べてみて、日本と少し似ている建物も多いと感じましたが、デンマークの建物には、綺麗な色の建物が多く、街並みが華やかで、とても新鮮な気持ちになれました。

また、今回の研修を通して私は、もっと他の国の街並みも調べてみたいと思うようになりましたので、これからも海外に行ける事業などがあったら参加してみようと思います。

デンマークと日本との食文化の違い

北海道登別明日中等教育学校 2 回生 花田 幸弓

私はデンマークに行き、日本との食文化の違いを見てきました。

まず、主食についてです。

日本ではお米が主食ですが、デンマークでは、パンが主食でした。

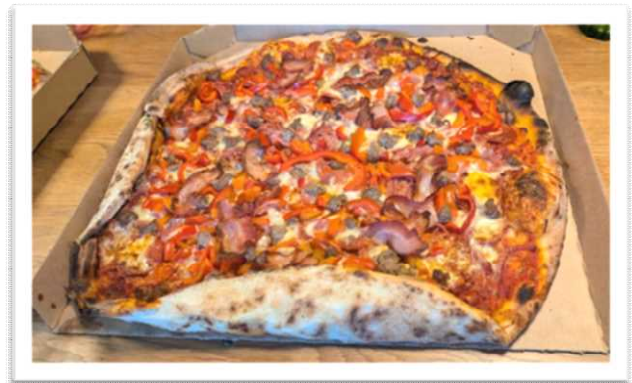
デンマークのパンは、日本のパンより硬く、食べているうちに、顎が疲れてしまったけど、とても美味しかったです。

機内食で、行きはお米を使った料理が出ましたが、その後、滞在したホテルやホームステイ先など、朝、昼、夜全部パンだったので、お米を食べたいなと思ったり思わなかったり…。

滞在中に、何度かピザを食べる機会がありました。

ピザの 1 カットが、顔よりも大きく、食べ切れるか不安でした。

実際、食べてみると、美味しすぎてあっという間に食べ終わってしまいましたが、とてもおなかいっぱいになりました。



ホームステイ先の朝ごはんでは、ほうれん草のワッフルをいただきました。ほんのり甘くてとても美味しかったです！

他の日の朝ご飯では、初めて「ヌテラ」をパンにつけて食べました。「ヌテラ」は、チョコレートのようなめらかさで口の中でとろけるような食感が、とても美味しかったです！

ホームステイ先で飲んだりんごジュースが、ちょうど良い酸味で、私が好きな味でした！



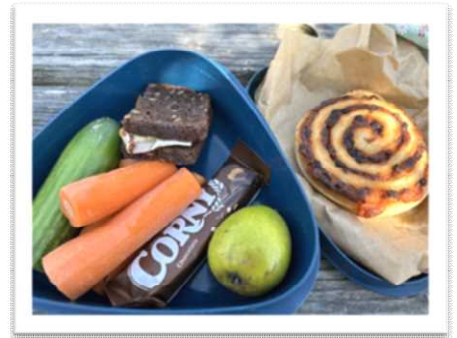
次に、お昼ご飯についてです。

日本の小中学生は、学校の日のお昼ご飯として給食が出ますが、リングフリースクールは、給食がなく、お昼はお弁当でした。

デンマークでは、冷めたお弁当を食べるのが好きでない人が多いようで、高校生になると、ほとんどの人がお金を出して昼食を食べるそうです。

滞在中は、ホストファミリーにお弁当を持たせていただきましたが、お弁当箱を開けたときに、梨・りんごなどの果物やきゅうり・にんじんなどの野菜が丸ごと入っていてビックリしました。

また、きゅうりが日本とは違い、とても太くて顎が痛くなりましたが、美味しかったです。



そのほかにも、現地の食にたくさん触れる機会がありました。

例えば、リングフリースクールで行われたパーティでは、ケーキやレモネードが出てきました。

ケーキは、日本で食べているケーキと比べて、とても甘く、喉が痛くなりました。

レモネードは、日本では黄色のレモネードを多く見てきましたが、デンマークで見たのはピンク色でした。



また、コペンハーゲン滞在中にもホテルや街中で、いろいろな食べものの違いを見つけることができました。

まず、ホテルでは、ゆで卵があったので食べようとして殻をむいた時に、卵がとても柔らかくて殻がなかなかむけませんでした。

コペンハーゲン中央駅には、スターバックスがあり、私は、海外のスターバックスに行ってみたかったので、行くことができてとても嬉しかったです。

日本のスターバックスのメニューと違う飲み物があり、私は、日本では見たことのない期間限定のドラゴンフルーツとマンゴーのフラペチーノを飲みました。

また、私は生ハムが大好きで、デンマークの生ハムを食べたかったので、食べれた時とても嬉しかったです。日本の生ハムと比べてみると、デンマークの生ハムはとてもしょっぱかったですが、とても美味しかったです！特に、野菜を巻いて食べるととても美味しかったです！

デンマークの食べ物は全部美味しかったです！

デンマークに行けて最高の思い出になりました！

自転車の利用環境や形状の違いについて

北海道登別明日中等教育学校 3回生 谷村 清真

私は普段から、通学するために自転車を使っています。

通学路には、道が狭い場所や夜になると暗くなってしまう前が見にくい場所など個人的に気になることがいくつかあります。

事前にデンマークのことを調べたとき、デンマークは平地が多いこともあり、自転車をよく使う国だということがわかりました。

今回の派遣を通じて、デンマークで自転車が通行できる道路がどのように整備されているのかなど、自転車の利用環境や自転車の形状の違いなどを、調べることにしました。

事前に、コペンハーゲンの人口は60万人くらいと調べていたので、登別との人口の差はありますが、コペンハーゲンに着いて、まず、感じたことは、登別と比べて明らかに自転車の量が多いということです。

コペンハーゲン中央駅に着くと、すぐに多くの自転車を見つけることができ、自転車の利用割合が多いことがはっきりわかりました。

また、車道と歩道との間には、右の写真のような自転車専用の道路が整備されており、道幅も広いことから、多くの自転車を通ることができます。

自転車に乗っている人を見かけましたが、走行している車との距離も保たれており、安全が確保されているため、とても快適そうでした。



このほかにも、街中で自転車の利用者が快適に移動することができる様々な工夫を見つけることができました。

例えば、電車には、車両と車両の間に自転車を乗せるスペースがあり、自転車を使う人はそこに自転車を止めることができるようになっていました。

実際に、私たちが電車に乗ったときにも、そのスペースを利用している人達を見かけました。

登別では、自転車を電車に乗せている人を見かけることはなかったので、大きな違いを感じました。

また、様々なニーズに合わせた自転車をいくつか見つけることができました。

右の写真のように、小さい子どもと荷物を運ぶことができるようになってる自転車を見つけました。

これまで日本では見たことがないような形状の自転車がありました。

また、荷物がたくさん載せられるような自転車もありました。



次に、駅の駐輪場も見ることができました。

右の写真は、コペンハーゲン中央駅の駐輪場です。

自転車の数がとても多く、このあたりでは、余り見るこのできない二段の駐輪場がありました。

この駐輪場はとても大きく、たくさんの自転車を止めることができそうでしたが、コペンハーゲン中央駅は、この駐輪場があっても自転車が溢れかえっており、止められない自転車がたくさんありました。



また、事前にデンマークには、平坦な土地が多いと聞いていましたが、実際に行ってみると、自転車の利用の妨げになるような坂は、ほとんど見かけませんでした。

そのため、自転車で長距離を移動するのも登別とは違いかなり楽なのではないかと感じました。



このように、デンマークと登別の自転車の利用環境は大きく異なっておりました。

自転車は、自動車と違い環境にとっても優しいので、いま問題になっている地球温暖化の対策に少しでもなると思います。

自転車の専用道路の設置状況や坂道が多い・少ないの違いがありますが、日本もいつかデンマークと同じように自転車を利用する方が増えるといいなと思いました。

家や暮らしの違いについて

北海道登別明日中等教育学校 3回生 船田 光希

僕は「デンマークと日本の家や暮らしの違い」をテーマにしました。

皆さんはニューハウンという場所を知っていますか？

ニューハウンとはカラフルな家が並ぶ港町のことを言います。

デンマークに行く前、様々なことについて調べていたときにこのニューハウンの写真が出てきて、僕はそのニューハウンの綺麗な風景に魅了されこのテーマにしました。

実際にデンマークに行ってみたら、写真で見たものよりも数十倍綺麗でヨーロッパらしさを感じました。デンマークに着いて一番初めに感じたのは、建物が大きく、家と家の間が全くないということです。



また、首都コペンハーゲンと田舎のリングでは、家の大きさや土地の広さなどが違いすぎてびっくりしました。

コペンハーゲンでは、一階がお店で二階が住宅になっていたり、アパートなどがたくさんあったりしました。

それに比べリングは、多くの人が農業をしていたり、豚や鶏など家畜を飼っていたりしました。

実際に僕のホームステイ先では、鶏を飼っていました。

また、外には大きなトランポリンが置かれていました。

デンマークでは、多くの家庭がトランポリンを持っていると聞きました。

実際、他の団員のホームステイ先にもトランポリンがあったそうです。



デンマークを訪問する前に、デンマークでの家の過ごし方について調べていたとき、靴のまま入っていいのか、それとも靴を脱いで入るのが曖昧でした。

実際に行ってみると、日本と同じように靴を脱いで生活していましたが、日本と違い、玄関がなく、家の中に入ったら、すぐに靴を脱ぎ、端に置いていました。

また、僕のホームステイ先では、帰ったあとに手を洗っていなかったのがびっくりしました。そのことについて聞いてみると自分たちもよく分からないと言っていました。

また、僕のホームステイした家は外がレンガになっており、中が木で作られていました。

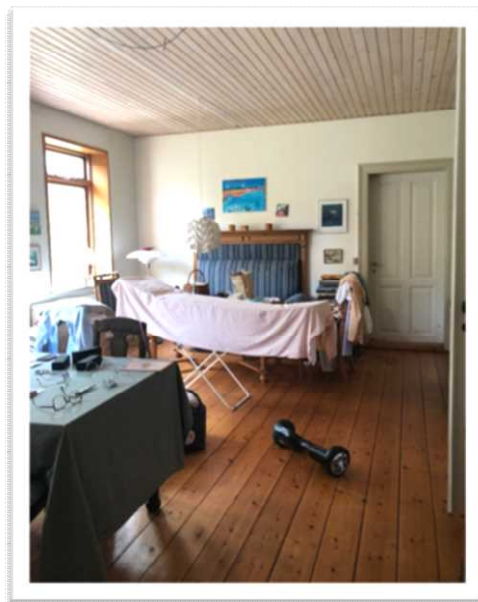
家の中に入ると木の独特な匂いがしました。

あまり得意な匂いではなかったので、大丈夫か不安でしたが、一日経つとその匂いにも慣れて普通に快適な生活をすることができました。

お風呂については、浴槽もありましたが基本はシャワーを浴び、寒い日には浴槽に浸かると言っていました。

シャワーの使い方は、日本と同じだったので使いやすかったです。

トイレに関しては、日本ではレバーで流すのが普通だと思いますが、デンマークでは押したら流せるような感じになっていました。



また、ホームステイ先の朝食は、硬いパンや柔らかいパンなど様々なパンを食べていました。

固いパンはパサパサしており、日本人には合わない味だと思いました。

また、朝食にも、夕食にも、ブドウやスイカ、スモモのような果物などが置かれており、昼食では、生のパプリカやキュウリなど野菜なども出されており、思っていた以上に健康的な生活をしていてびっくりしました。

このテーマを通して一番感じたことは、日本と違うところはたくさんあったけど、不便だったことや意外と住みづらさなどがなかったことです。

ホームステイ先の人も優しくしてくれてとても快適な日々を過ごすことができました。

デンマークだけでなく、他の国の家についても気になりましたので、他の国の家も見たいと思いました。

感想文



デンマーク王国 コペンハーゲン ニューハウンにて

楽しかったデンマーク

登別市立緑陽中学校 1年 伊藤 諒

デンマークでは英語が通じなかったり、聞き取れなかったりして困ったことがたくさんありました。ですが、交流を重ねるにつれて自分の英語力が上がっているなと思うことがたくさんありました。今回は、僕がデンマークで楽しかったことや学んだことをいくつか紹介します。

まずは、コペンハーゲンについてです。

首都のコペンハーゲンはとても都会でした。

右の写真はコペンハーゲン中央駅です。

駅の中には、いくつかのお店が入っていて、マクドナルドやスターバックス、セブンイレブンなど日本でも馴染みのお店がありました。

駅の構内は、ゴミが落ちていたりタバコのおいが臭かったです。

また、駅の周りには駐輪場があり、自転車の量がとても多かったです。

コペンハーゲンは、首都なので駅前には高層ビルが建っているのかなと思っていましたが、高い建物はあまりありませんでした。



コペンハーゲンは街並みがとてもきれいでした。

特に、左の写真のニューハウンの街並みがとてもきれいでした。

ここはコペンハーゲン中央駅から徒歩で15分ほどの場所にあり地下鉄でも来ることができるそうです。

僕は、コペンハーゲンに来たら絶対ニューハウンに行きたいと思っていたので、ニューハウンに行けてとても嬉しかったです。

近くには商店街やショッピングモールがあり、そこには土産店や飲食店などもありました。



リングフリー校は、校舎が二つ建っていて、校庭には右の写真のような遊具がありました。

他にも、トランポリンやバスケットボールのコートがありました。

学校の生徒もみんなフレンドリーに接してくれてとても優しかったです。

校舎は、一階建てで、ホームステイ先や幼稚園も一階建てでした。

デンマークは一般家庭も学校も一階建てが多いようです。



ホームステイ先は、家の中でも土足で過ごすスタイルでした。

庭が家の2～3倍あり、庭には右の写真のトランポリンやバスケットボールのゴールなどもありました。

トランポリンはとても楽しく、21時までトランポリンをしていた日もありました。

ホームステイ先では、一緒にオリンピックを見たり、日本の食べ物を食べたりしました。

車庫に大きな冷蔵庫があり、そこにはたくさんのお酒やジュースなどが入っていました。



ホストファミリーはとても優しく、一緒に過ごした時間はとても楽しかったです。

ホストファミリーをはじめ、今回、交流で関わったデンマークの人たちや、リングの皆さんは、とても優しく、英語が伝わらなくても嫌な顔せずに、翻訳するのを待っていてくれました。

今後、英語を勉強して、翻訳に頼らないでコミュニケーションがとれるようになったら、また、今回交流したリングの人たちと再会したいと思います。

私がこの派遣事業に参加したいと思った理由は、海外に行ってみたかったからです。

しかし、デンマークは全然知らない国だし、調べてみると人口が約 600 万人と少なかったため、デンマークに行くことについては少し抵抗がありました。

最初は、そういう気持ちでしたが、実際にデンマークに行ってみると、一緒に行った派遣生徒やホストファミリーとのたくさんの思い出ができ、初めての海外渡航がデンマークで良かったな、と思いました。

そんな派遣事業で体験してきた思い出を 7 つ紹介します。



1 つ目は入国審査です。

窓口の人と英語で、入国の目的や滞在期間などを話す時に言葉が伝わらなくて、別室に連れて行かれたらどうしようと、とても不安だったからです。

しかし、実際に行ってみると、「YES」というだけであっさり通過することができました。

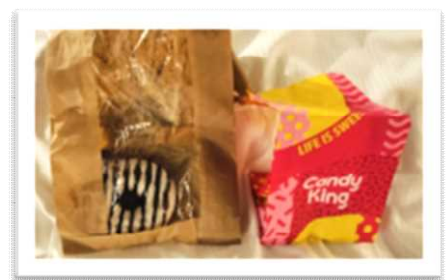
とにかく、みんな無事デンマークに入国することが出来て良かったです。

2 つ目はスーパーマーケットに行ったことです。

夜ご飯を買いに行った時に、美味しそうなパンが透明ケースにたくさん入っていて、隣にはトースターもありました。

また、お菓子の量り売りがとても充実して楽しかったです。

買い物が終わってホテルに戻った後、友達が買ったベーコンを「めっちゃしょっぱい」といいながら食べていました。



気になって 1 つもらったら、食べた瞬間、濃い味が襲いかかってきて、でも、捨てるのは気が引けたので頑張って食べました。とても大変でしたが、とても記憶に残っています。

3 つ目は「It's ok」という言葉です。

「大丈夫だよ」という意味で、ホストファミリーが忙しそうなのに頼み事をしたときや、忘れ物をして謝った時など、この言葉を笑顔で連呼してくれたので、とても安心しました。

言葉で言い表せられないけれど、「It's ok」はとても心地よく、私にとっては、魔法の言葉でした。

4 つ目はホストファミリーとその友達とビーチに行ったことです。

ビーチに公園みたいなところがあり、そのトラポリンで、みんなでスピンをしたり、すごい人はバク宙をしていました。

また、公園内には、ミニゴルフというものもあり、別のホストファミリーのところに行っていたのぞみちゃんとそのホストファミリーと一緒にプレイすることになりました。のぞみちゃんのホストファミリーとは、初対面でしたが、すぐに仲良くなることができ、楽しくプレイすることができました。公園には、他の派遣生徒とホストファミリーもいて、交流することができ、友達にもなることができました。



5 つ目は幼稚園を訪問したことです。

園児と対面してすぐに歌を歌ってくれました。とても一生懸命歌ってくれて可愛かったです。

歌が終わると、手を繋いでくれ、おすすめの場所に連れて行ってくれたり、追いかけっこをしたり、遊具で遊んだりしました。相手が幼稚園児で英語があまり通じなかったので、相手が何をしたいのかを考えることが大変でしたが、とてもたくさん遊んでくれてうれしかったです。

6 つ目はホストファミリーと家で過ごしたことです。

オリンピックを見たり、お土産で持っていったお菓子「ねるねるねるね」を食べたり、庭にあるトラポリンをしたり、とても充実して、心に残る時間を過ごすことができました。

7 つ目は帰りの飛行機でとても酔ったことです。

デンマークから日本に帰る飛行機は、台風の影響でとても揺れました。

私は酔う体質ではないのですが、長時間乗っていたことで酔ってしまい、大変でした。

私はこの派遣で、たくさんの楽しいこと、不安なこと、悲しかったこと、嬉しかったことを経験しました。

また、現地の人達が、とても積極的に話しかけてくれて、凄く優しくしてくれたので、また絶対にデンマークに行って恩返しをしたいです！

私は、デンマークに行って、たくさん英語に触れることができました。

これは絶対に日本では体験できない貴重な体験だったと思います。

私は英語を聞き取ることは得意なので、相手が話している内容は大体分かったのですが、自分から話すとなると自信がなくなってしまい、翻訳アプリや同じホームステイ先だった団員に頼ってしまったことが心残りです。

私は訪問前から、特に、幼稚園で園児たちと交流するのを楽しみにしていました。

実際に行ってみると、園児達は、思っていたよりも幼い子供たちでした。

園児たちに、英語が通じないので、とても簡単な単語だけを喋ってみたり、ジェスチャーや表情などでどうにか伝えようとするのが難しかったですが、とても思い出に残っています。

滑り台や鬼ごっこ、ブランコなどをしていたので、国が違っても遊ぶことは同じなんだということと、日本に比べて人見知りの子が少ないことを特に感じました。

幼稚園訪問の最後に、仲良くなった園児が全力で手を振ってくれて嬉しかったです。

滞在中の一番の思い出は誕生日の日です。学校で全校朝会が行われて、デンマーク語の誕生日のうたを歌ってくれたことが本当に嬉しかったです。

レゴランドは、事前に「レゴランドの本場はデンマーク」ということしか知りませんでしたが、思っていた以上に楽しかったです。

ジェットコースターがたくさんありましたが、怖そうだったので乗りませんでした。代わりに、初めてお化け屋敷に入り、私は人がおばけのメイクをして、驚かせてくる日本のお化け屋敷を想像していましたが、鏡の世界を進んでいるような感じで、最後は上下に動くアトラクションに乗って終わりました。思っていたのと全然違ってびっくりしました。



お化け屋敷の後に、一緒に行動していたリングフリー校の7年生の子が綿あめを買っていて、一口もらいました。ふわふわですぐなくなってしまうくらい美味しかったことも思い出です。

コペンハーゲン市内見学も思い出に残っています。

ニューハウンは、とてもデンマークらしい街並みで、建物がカラフルで、家と家の間がほぼないという日本では見たことのない街並みでした。

そこから買い物をして、チボリ公園に行きました。

チボリ公園は絶叫系のアトラクションが多いと聞いていましたが、ディズニーのモデルになった場所と聞いていたので、もともとすごく楽しみでした。

チボリ公園では、ジェットコースターに6回も乗りました。

これまで日本で経験したジェットコースターと比べて、安全バーがちゃんと下がらなかったり、運転しているスタッフは立っているという衝撃的ジェットコースターでしたが、スリルがあって楽しかったです。

他にも、観覧車や回る乗り物に乗ったり、初めて空中ブランコに乗りました。空中ブランコは2種類あって、1つは低くてまわるもので、もう1つは 65m以上あるものにも乗りました。

夕暮れで天気が良かったので、空中ブランコの一番高いところから見えた景色は最高にきれいでした。

私はデンマークに行くことができて、本当に良かったです。

デンマークに行く前は、海外に対してあまり関心がなく、治安も良くないイメージがあったのですが、実際行ってみると、安全だったので、今回のこの事業を通して考え方が変わり、大げさかもしれませんが、「世界はこんなにも広いんだな」と実感しました。

デンマークの方々は、カメラを向けたら何も言わなくてもピースをしてくれるなどとてもノリがよかったり、周りをとても気にかけていて優しくったりしたので、私はとても好きになりました。

現地で、スナップチャットやインスタグラムなどのSNSアカウントを交換することができたので、今後、コミュニケーションのきっかけにしていきたいと思います。

今回の貴重なこの体験を忘れずに、今後も生活していきたいです。最後に、私はまた必ずデンマークの「友達」に会いに行きたいです。



デンマークに行って思ったこと

登別市立緑陽中学校 2年 杉山 愛空

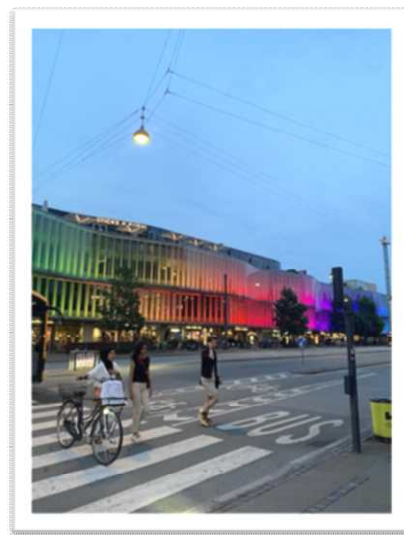
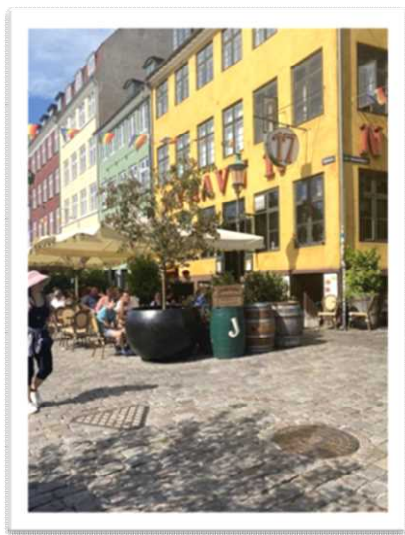
日本から出てみたい、色んな国に行ってみたいと思っていたことが私がこの事業に参加したいと思った理由です。

私は今までデンマークという国を知らず、行く前は、正直、アメリカとかももっとでっかい国が良かったなと思いました。でも、今ではデンマークが大好きです。初めての海外が他の国ではなく、デンマークで良かったと思っています。

私は、事前研修からデンマークに行き日本に帰ってくるまでに沢山の思い出があります。

デンマークでは日本で絶対にできないような体験をしました。

まず、街並みについて、日本とは違う素材で作られた家はとてもお洒落で、実際に目で見てみるとそれがもっときれいに見えます。建物の色使いや形など、とてもお洒落だったので、日本に帰りたくなかったです。



また、ホストファミリーと過ごした時間やデンマークの学校に行ったことはもっと貴重な経験でした。

デンマーク語や英語だけの生活は伝えたい事をすぐに言葉に出来なかったり、通じなかったこともあったけれど、お互い言語が違う中でコミュニケーションをとれたときがとても嬉しかったです。

デンマークの食べ物は美味しいものもありましたが、私の口には合わないものが多かったです。

デンマークには、お寿司屋さんなどの日本料理を提供するお店もあり、ホストファミリーが連れて行ってくれました。日本料理のお店ですが、料理がアレンジされていて、日本では見た事がないメニューもあり、新鮮でした。

ホストファミリーは普段のデンマークの食べ物に慣れているのに、違いの多い日本の食べ物が大好きと言ってくれたので、不思議に思いましたが、日本のことを褒められていて嬉しかったです。



レゴランドやチボリ公園では、生まれて初めてジェットコースターなどの絶叫系と言われるアトラクションに乗りました。それまで、ジェットコースターや怖い乗り物・アトラクションには乗れませんでした。が、激しすぎないアトラクションであれば、乗れるようになり、楽しいと思うようになりました。これからは遊園地でも楽しめると思うので、嬉しいです。

チボリ公園には、日本でこれまで見たことのない速さで回る観覧車に乗ることもでき、怖かったですが、とても楽しかったです。



また、すごく大きな綿飴を団員と一緒にはんぶんこして食べたことが思い出に残っています。

デンマークはどこでもお洒落で暮らしやすい街で明るくフレンドリーな人が多かったので楽しく過ごすことが出来ました。

コペンハーゲンにはタバコのゴミがいっぱい落ちていたり、駅のトイレを使うのにお金がかかったりと不便だと思ったこともありましたが、それ以上にいい所が沢山ありました。

デンマークに行くことができて本当によかったです。

いつかまたデンマークに行きたいです。

そして、私はこの経験を生かして生きていきたいと思います。

デンマークの人の温かさ

北海道登別明日中等教育学校 1 回生 佐藤 希

私はデンマークに行ったのが初めての海外経験でした。

実際、デンマークに行ってみるとカルチャーショックやイメージの違いに驚きました。

そして日本との違いを感じたと同時に日本のような人や街の温かさも感じることができました。

私はまずデンマークに着いてすぐ、異国情緒な感じを体験しました。

日本とは違った雰囲気があったり空気が違ったり虫が多かったりなど、違いがはっきりあったと感じました。

デンマークに到着してすぐに電車にりましたが、電車も日本とは違った形状をしていたりしました。

また、デンマークの電車には、つり革がありませんでした。

席は、座るところのみで車両によってはビジネススペースのような所もありました。つり革がない代わりに、自転車専用スペースなど自転車を使って移動する国ならではの仕組みがありました。

初日は移動がメインでしたが、移動の中でも異国情緒を感じたり、日本とのカルチャーショックを大きく体験したりしました。



次に、リングで滞在中のホームステイについてのことです。

私は Ida の家と Maja の家の2件のホームステイを体験することができました。

そこでは、デンマークの人の温かさに触れることができました。

私が、デンマークで体調を崩してしまったとき、ホストマザーの方が私の話をしっかり聞いてくれてケアをしてくれたりして、デンマークの人はとても親切で優しいと感じました。

また、ホームステイ先で私が好きになったトーストを毎日作ってくださったり、食事をするときに箸を渡してくださったりなど気遣いがすごかったです。

日本でも気遣いの文化はあります。けれども、デンマークの気遣いの仕方は相手の立場になって、より丁寧に対応しているよう



に感じました。

そういったエピソードがあり、私はデンマークの方は優しいなと思いました。

他の団員も、ホストファミリーは優しくとても気遣いを感じられたと話していました。

私が1番楽しかったことは、チボリ公園で空中ブランコに乗ったことです。

チボリ公園は遊園地のように、いろいろなアトラクションがありました。

その中でも空中ブランコは園内の真ん中にあり、これまで見たことのある空中ブランコよりも数倍高く、乗ってみると、景色も楽しむことができました。

チボリ公園のアトラクションは、絶叫系がほとんどで、ジェットコースターや360度回転プレーンなど日本にもあるようなものから、これまで見たことのないスリルのあるアトラクションまでたくさんの種類があり、とても魅力的でした。

また、チボリ公園は、夜遅くまで開園していたので、たくさん遊ぶことができ、夜にはライトアップされているなど夜景も綺麗だったのでとても楽しい日になりました。

私はこの派遣事業を通して人や街の温かさに触れることができました。

このような経験を活かして日本とデンマークのつながりを深めてもっと日本を世界に広めていきたいと考えました。

そして、今回の派遣でお世話になったホストファミリーや派遣にあたって、支えてくれた方々に感謝して生活していきたいと思います。



期待と不安を胸に飛び立つデンマークへの旅

北海道登別明日中等教育学校 2 回生 土崎 有紗

初めて海外に行くことが決まったとき、私は不安と期待が入り混じった気持ちでいっぱいでした。特にデンマークという、これまであまり馴染みのなかった国に行くということが、私にとって大きな冒険の始まりでした。

まず、デンマークに向かうときに 13 時間という長い時間飛行機にりましたが、飛行機の中でワクワクが止まりませんでした。

飛行機に乗ったことはありますが、長く 2 時間くらいだったので、こんなに長く飛行機の中にいることは初めてでした。

機内食を初めて食べましたが、さすが海外！パンがたくさんでした。



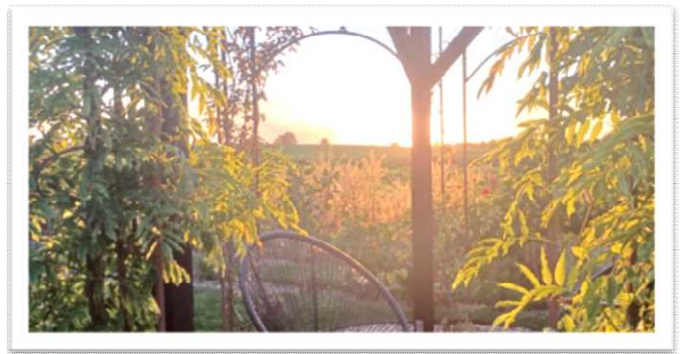
私がデンマークの中で一番思い出に残っているのは、ホストファミリーと過ごした時間です。

初めてホストファミリーと会ったとき、ホストマザーのキキと、ホストファミリーのピーターが私達をお出迎えしてくれました。ホストファミリーの温かい笑顔に緊張が少し和らぎました。

私が行った家はとても大きくて、お庭がとても大きかったです。

そしてここから見える夕焼けがとてもきれいでした。

滞在期間中、リングフリー校の始業式のパーティーがあり、ホームステイ先の家族と参加しました。



パーティーは、学校のグラウンドのようなところで行われ、始業式では、参加者全員で校歌などを歌っていました。デンマーク人が歌う歌はとてもきれいでずっと聞いていたかったです。

始業式と夕食の合間に学校がケーキを用意してくれましたが、沢山の種類があって迷っていました。パーティーはとても楽しかったので、日本でも始業式で、生徒全員と家族を含めてパーティーをしたら楽しそう、と思いました。

他にも、ホストファミリーと買い物に行ったりしました。

キレイな街並みを見ながら、買い物できてとても楽しかったです。

私は、紬と2人でホームステイをしており、2人でホストファミリーに日本食のそうめんを振る舞いました。

作る量が多すぎましたが、みんな美味しいと言って食べてくれてとても嬉しかったです。

また、箸を一生懸命使いながら食べている光景を見て、ほっこりしました。



デンマークに行き、デンマークの人たちと過ごしたことで、デンマークが世界一幸せな国と言われている理由が少しわかった気がします。

デンマークに行く前は、デンマークの印象は、みんな怖くて、会話が通じないんじゃないかととても不安でしたが、いざ行ってみるとみんなフレンドリーで、しかも、優しくて、かっこよい人が多くて幸せでした。

また、街中でも、みんな笑顔で挨拶したり、話したりしている姿が印象的でした。

私も日本ですれ違った人には挨拶をしています。デンマーク人のように当たり前知らない人と話すことはできていませんでしたが、今回、この経験を通して身近な近所の人から話しかけてみようと思いました。

また、デンマークの人は、英語とデンマーク語とドイツ語が話せて私達とは、英語でお話してくれました。私は英語で話したいことが話せない時があり、ジェスチャーを多く使っていました。

そんななかでも、みんなちゃんと話を聞いてくれていて、英語がとても好きになりました。

なので、いつか英検で1級をとれるように英語を勉強していきます。

そして、大人になったらもう一度デンマークを訪れて、今回お世話になったホストファミリーやリングフリー校の生徒に会いに行きたいです。

本当にデンマークに行けてよかったです。

デンマークでの思い出！

北海道登別明日中等教育学校 2 回生 花田 幸弓

私はデンマークに行って、デンマークの人たちはみんなとてもフレンドリーだなと感じました。

私のホストファミリーは静かでしたが、とてもいい人達でたくさんの思い出を私にくれました。

私は人見知りなところがあるので、最初は、仲良くなれるかとても不安でしたが、他の派遣団の人たちのホストファミリーもたくさん話しかけてくれてとても嬉しかったです。



ホームステイを体験して、最初は、ホストファミリーの人たちがデンマーク語を使って会話しているときに、何を喋っているのかさっぱりわからなくて、とても不安になってしまったこともありましたが、話していることを聞いているうちに、だんだん慣れていき、1 つでも分かる単語が入っていないときは、英語ではなく、デンマーク語で話しているんだなと思えるようになりました。

ホームステイ先で、デンマークに行く前にトイレとお風呂は同じ部屋にあると聞いていたので驚きはしなかったですが、お風呂場を見て驚いたことが一つありました、

それは、お風呂場のスペースがとても小さく、1 人分のスペースしかないということです。

私は2件のホームステイ先に滞在したのですが、1 件はトイレの方に水がいかないように仕切りがあったのですが、もう 1 件の方はトイレとお風呂場がつながっていました。

派遣期間中に、私が一番思い出に残っていることは、滞在期間の後半にリングエフリースクールの生徒たちと一緒に行ったレゴランドです。



レゴランドでは、ホストファミリーだけでなく、その友達とも一緒に行動しました。

私は、ジェットコースターに乗ることが怖かったので、これまで1度も乗ったことがなかったのですが、この機会に乗ってみようと思い、乗ってみました。

頂上まで行って、急に下るときに心臓が浮いた感覚がとても怖かったですが、上から見た景色がとても綺麗でしたし、とても楽しかったです。

また、同じアトラクションを体験したことで、とても仲が深まったと感じました。

そのほか、印象的だったのは、お化け屋敷の中にも乗り物があったことです。日本でこれまで見たお化け屋敷の中には乗り物がなかったので、とても驚きました。

レゴランドはとても楽しみにしていたところでしたが、想像以上に楽しかったです。



レゴランドの翌日には、コペンハーゲンにあるチボリ公園という遊園地に派遣団のメンバーで行きました。

チボリ公園は、レゴランドとは違って絶叫系がたくさんある遊園地でした。

日本では見たことのない上下に動く空中ブランコがあり、乗ってみたところ、下を見るのがとても怖かったですが、とても高いところまで行くことができ、コペンハーゲンの街並みをとてもきれいに見ることができました。



デンマークでホストファミリーと過ごした日々や滞在中の様々な経験は、毎日がとても刺激的で楽しく、貴重な思い出になりました。



デンマークの思いで

北海道登別明日中等教育学校 3回生 谷村 清真

デンマークの研修では不安に思っていたことや緊張もありましたが、不安や緊張がなくなるほどデンマーク研修では楽しかったことがたくさんありました。

その中でも今回のデンマーク研修で思い出に残ったことをいくつか紹介していきます。

1つ目はデンマークの街並みです。

日本とは違って建物自体がとてもカラフルで家と家の隙間がなく日本とは全く違う街並みでとても新鮮でした。

今まで日本の家はただ住むところという考えで、日本の街並みをきれいと思ったことはあまりありませんでした。

しかし、デンマークの街並みを見たときには、とてもカラフルな建物を見てとても驚くとともに、きれいだなと思いながら生活していました。



2つ目は食事です。

日本ではお米やパン等様々な種類がありますが、デンマークではほとんどパンがメインです。

たまにシリアルなどが出ましたが、牛乳の味も日本と違って少し苦手でした。

パンも日本と違って色が少し黒っぽく少し硬めなパンでした。

しかし、そのパンに生ハムやチーズをはさんだサンドイッチや、パンにヌテラや手作りのジャムなどを付けるものがとても豊富でとても美味しかったです。

特に、チョコレートクリームに似た色や味の「ヌテラ」が美味しかったので、家族に食べてもらいたくて、おみやげについ買ってしまいました。

もしデンマークに行くことがあったら、サンドイッチやジャムをつけてパンを食べてみてください。



3つ目はデンマークの人との会話についてです。

普段はデンマーク語を使って生活しているのですが、食事の時など、私達と会話をするときは英語を使って会話をしてくれました。

普段はデンマーク語なのに英語に変わっても何も不自由なく会話できていて羨ましかったです。

私は翻訳アプリを多用してしまったり、友達に聞くなど自分から発言することが殆どできなかったもので、もし次にこのような機会があれば今度は機械の力に頼らず自分の力だけで外国の人と話せるようになりたいです。



4つ目はデンマークの人の良さについてです。

たまたま足をけがしてしまったときにベットまで運んでいただいたり、怪我したところを診ていただいたり無茶なお願いをしても快く承諾していただけるなどのいろいろなお願いを聞いていただけてとても心の優しい方ばかりです。

最初は、言語が伝わらない不安を抱えていたので、デンマークに行くことを不安に思っていました。

しかし、デンマークに行ってみて、自分の知っている英単語でコミュニケーションがとれたり、翻訳アプリを使ったりしてコミュニケーションをとれることがわかり、また、デンマークの方々が優しく接してくれたので、不安なんてすぐに無くなりました。

もちろん大変なこともありましたが、それを気にするよりも楽しい思い出がいっぱいでした。

またいつかデンマークに行って、お世話になったホストファミリーに会いにいきたいと思います。



初めての海外

北海道登別明日中等教育学校 3回生 船田 光希

僕が、デンマークに行って一番感じたことは、全然英語が話せなかったということです。

もちろん初めて海外に行って新しい環境、街並み、食などいろいろなことを体験することができとても楽しかったです。

しかし、コミュニケーションで楽しめたかと言われると自信をもって「はい！」と答えることはできません。

元々人見知りなところもあり、あまり話しに行けなかったうえ、聞き取ることもあまりできなかったもので、会話にとっても苦戦しました。全て聞き取れなかったわけではないので、知っている単語やその場の雰囲気は何を話しているかはだまかに理解することができました。

しかし、聞き取れたところで自分の言いたい言葉がわからなく、ずっと翻訳機能に頼ってばかりいました。

今まで自分は英語が得意だと思っていましたが、今回実際に行ってみて自分は全然英語ができてなかったのも文法を復習することから始めたいと思います。

一番楽しかったことは、船に乗りエア島に行ったことです。

初めてのクルージングで船に乗せてもらったので、船酔いが心配でしたが、気持ちいい風が吹いており、とても涼しく、楽しかったです。

エア島についてからは、街を散歩しました。

街並みは歴史を感じるようなちょっと古びた家が並んでおり、坂の上から見ると、とても綺麗でした。

その後、ビーチに向かったのですが、歩いているときにウェディングフォトを撮っている現地の人が出て、自分たちも撮らせていただいたことがとても印象に残っています。

美男美女でとてもきれいでとても幸せそうでした。

その後、ビーチの近くで、昼ご飯を食べました。

オートミールみたいなものが入ったパンを食べたのですが、パサパサしており僕の口には合わなかったです。そのパンは、小さかったのですが、なかなか飲み込めずずっと噛んでいたのもそのパン1個でおなかいっぱいになってしまいました。



食べ終わった後に泳いだり釣りをしたりする予定でしたが、風が強く、足元しか海に入ることができなかったもので、少し残念でした。

海に入ったあとは、ミニゴルフをしました。

久しぶりにゴルフをしたのでなかなか入らなかったのですが、コースによって障害物が大きく変わり飽きることなく楽しむことができました。



ホームステイ先で一番心に残っていることは、お土産を渡した時のことです。

日本から持って行ったお菓子や扇子など様々なものをプレゼントしました。

その中で、一番喜んでいたものは扇子でした。

また、夕食にお土産でプレゼントしたインスタントラーメンと一緒に作りました。

3分を計っていなかったり、明らかにお湯が多かったりしましたが、ちゃんと完成しました。

しかし、作ってから 10 分くらい経っていたので冷たくなっていて、麺がのびていたのであまりおいしく作れませんでした。

けれども、ホームステイ先の人たちは、「美味しい。美味しい」と言って食べてくれたので、うれしかったです。

ご飯を食べた後は、家の中や敷地を案内してくれました。鶏舎に行ったり、豚の餌やりをさせてくれました。鶏舎の2階は、秘密基地的なところになっていました。そこには、ターザンやブランコがあり、ホストファミリーと一緒に楽しみました。



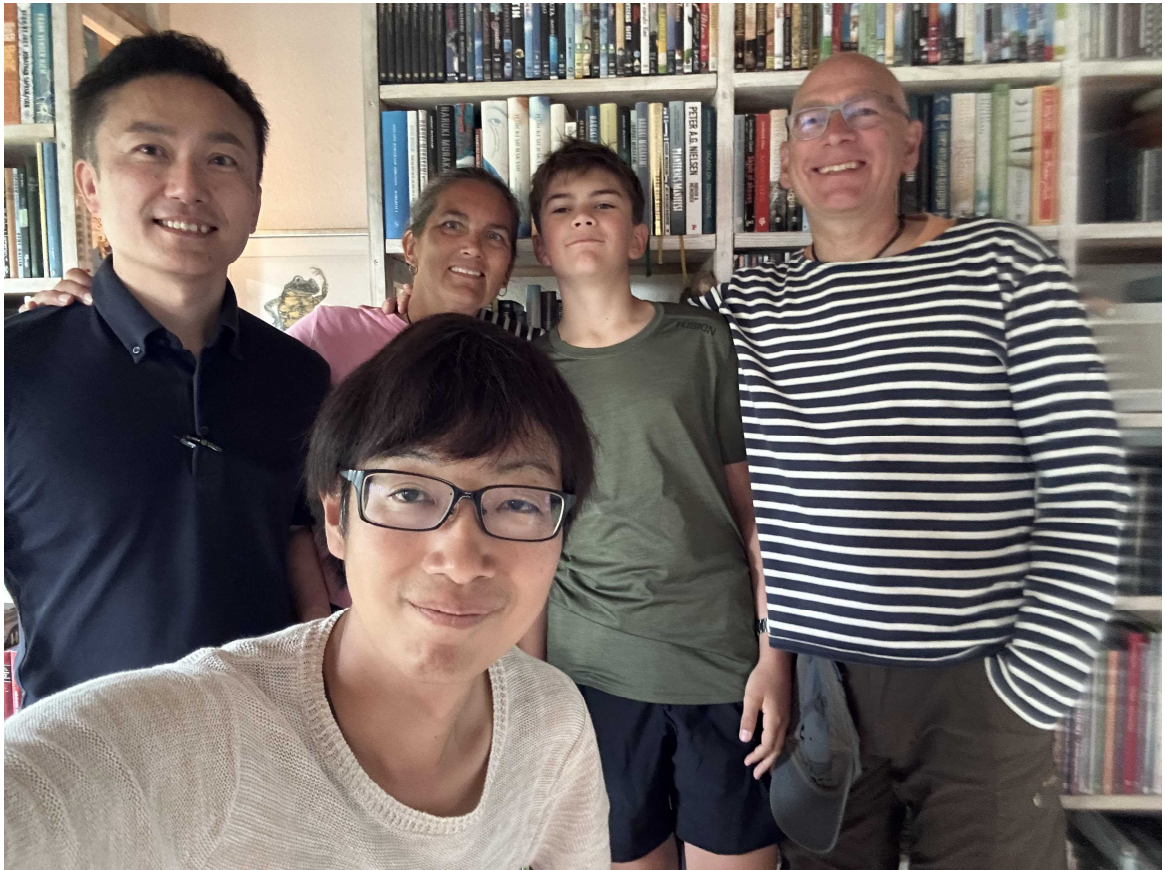
デンマーク滞在中は、それ以外にも、遊園地に行ったり、幼稚園で幼稚園児と遊んだり、日本ではできない様々な体験をしながら、現地の方々と交流しました。

デンマークでいろんなことを体験して日本との違いがたくさんあると感じました。

またデンマークにも行きたいし他の国にも行ってみたいと思うようになりました。



引率者報告書



デンマーク王国 ホストファミリー アネさん宅にて

令和6年度 登別市デンマーク友好都市中学生派遣交流事業を終えて

団長： 登別市市民生活部税務グループ

税外担当 主査 田中 健太郎

1日目 8月8日(木) 登別市からコペンハーゲンまでの移動

●集合～新千歳空港

出発の朝、登別市の天気は霧雨模様。

午前5時15分に市役所の裏駐車場集合となっていたため、10分ほど前に到着したが、ほとんどの団員達と保護者は到着していた。旅の準備や寝坊しそうなどの理由で、あまり寝ていない団員が多いようだった。

団員達は一度、企画調整グループの執務室に集合し、パスポートやイーチケット控え、財布など、特に重要な持ち物の確認のほか、ギリギリに決まったホストファミリーの情報を共有し、旅のしおりの差し替えなどを行った。

団員の1人が名札を忘れて不安がっていたが、企画調整グループの職員が速やかに作成してくれたので、とても安心していた。

その後、団員の保護者や兄弟姉妹、学校長、企画調整グループの職員らが見とどける中、学生リーダーが一言「いってきます！」と元気に挨拶し、バスに乗り込んだ。

バスでは、一部の団員は寝て過ごしていたが、ほとんどの団員が普段よりテンションが高く、好きな俳優や流行りの音楽、ドラマなどの話で盛り上がり、写真を撮ったりして過ごし、あっという間に空港が近づいた。

会話や写真に夢中で朝ご飯を食べるタイミングを逸した団員が数名おり、空港に着く直前に急いで残りの食事を頬張っていた。

新千歳空港には、企画調整グループの職員1名が見送りとチェックインのサポートにきてくれた。

企画調整グループの職員のまさかの登場に団員一同、驚きと喜びの声が上がっていた。

新千歳空港には、出発の1時間ほど前に到着したが、ANAのチェックインカウンターは、オープン時間と重なったことや、前日の荒天で欠航が出ていた影響などにより、長蛇の列となっていた。



係員に声をかけ、優先的に受付してもらえることになったが、国際線への乗り継ぎということや、訪問団の人数が多かったこともあり、チェックイン作業が複雑なようで、出発時刻が近づいても、なかなか手続きが終わらず、空港スタッフは作業を分担するなどしていた。

しかし、チェックインの手続きが終わらないまま搭乗手続き時間が締め切られ、空港スタッフもざわつきはじめ、明らかに焦りが見えたので、私もとても焦っていた。

結局、チェックイン完了は出発時刻の 5 分ほど前になり、派遣団全員がプレミアムラウンジに案内され、プレミアムチェックインカウンターで手荷物検査を受けた。

普段、VIPしか入れないような場所なので、貴重な体験だったが、プレミアムラウンジに入った時点で出発時刻ギリギリだったため、プレミアムラウンジを見渡すことも雰囲気を感じることもできず、さらに、見送りに来てくれた企画調整グループの職員との別れもままならないまま、全員で搭乗口まで走る事となった。

出発は定刻より遅れていたため、我々もなんとか飛行機に搭乗することができた。

飛行機の座席はバラバラ。初めて飛行機に乗るという団員もいたため、少し心配だったが、離着陸時にあまり大きく揺れることもなかったもので、問題なかったようだ。

●羽田空港～コペンハーゲンへの移動

新千歳空港を20分遅れで出発した飛行機は、さらに遅れ、約 45 分遅れで羽田空港第2ターミナルへ到着した。

出発まで 2 時間をきっていたので、トイレ休憩だけとり、足早に第3ターミナルへ移動することとした。

新千歳空港の手続きの際、ANAのスタッフの配慮のおかげで、荷物を羽田空港で受け取る必要がなくなったため、スムーズに移動することができたので、非常にありがたかったが、羽田空港は晴れで、クーラーが効いていないところはとても暑かった。

例年は、日本出国前に円をデンマーククローネへ両替するところだが、今回は、各家庭で事前に両替を済ませてくれていた。今回は、飛行機が遅延し、乗り換えの時間が十分になかったため、事前に両替を済ませていて本当に良かったと感じた。

スカンジナビア航空のチェックインカウンターでは団長が皆のパスポートを預かり、まとめて手続きを行い、手続き後、すぐに出国手続きに入った。

出国手続きといえば、以前は、カウンターにいる強面のスタッフにパスポートを渡して、パスポートの写真と顔を見比べられ、OK だったら、パスポートに出国のスタンプを押してもらえると記憶していたが、今回は、自動入国手続きができるレーンに案内され、パスポートの写真ページを開いて機械にセットし、顔をカメラが認証すると自動でゲートが開く仕組みになっていた。

私は、このシステムのハイテクぶりに感動したが、パスポートに、出国のスタンプが押されないことを残念がっていた団員もいた。

飛行機の座席は国内線の時とは異なり、みんな前後左右に固まったので、団員達は喜んでいました。

飛行時間は、約13時間。飛行ルートは、私も含めてほとんどの団員が、中国の上空を通過するのかと思っていたが、北海道の東側を通過し、北極→グリーンランド→イングランドなどの上空を通過してコペンハーゲンに入るルートだった。東京から北海道までは戻っているようなルートだったので、なんだか損した気分になったりもしたが、北極やグリーンランドを見れることを楽しみにしていた団員もいた。



飛行機の Wi-Fi は有料(クレジットカードでの支払いで、円で支払うことはできず、ドルやユーロ、デンマーククローネなどで支払いが可能。)だったため、誰も使用しなかった。

機内のドリンクサービスや食事(2回)の際のキャビンアテンダントとの会話は、全て英語だったので、西林先生が団員達のフォローをできるようにスタンバイしていたが、必要に応じて団員同士でフォローし合いながら、問題なく対応できていた。

団員達の機内のやりとりは、事前研修で学習していたので、その成果も出ていたと思う。

事前研修では、機内の食事は、魚や肉を選べる想定だったが、実際には選べなかったため、残念がっていた団員もいた。

そのような中、私は、英語が理解できず、緑茶にミルクをつけてしまい、キャビンアテンダントを困惑させてしまった。それを見ていた団員も、団長が本気なのか、緑茶にミルクをつける派なのか困惑した目で状況を見守っていた。

機内では、時差に対応できるよう睡眠をとるよう伝えていたが、ほとんどの団員はテンションが上がり、眠ることはほとんどせず、映画を見たり、ゲームをして過ごしていた。

ゲームのうち、UNOやテトリスは周りの人たちと対戦可能だったため、派遣団の仲間たちで対戦していたところ、途中で全然知らない人とマッチングして対戦するハプニングがあったり、誰が一番テトリスがうまいか、などで盛り上がっていた。

宿題を持ってきて、機内で済ませていた団員もあり、とても感心した。

●13時間のフライトを終え、コペンハーゲンに到着

団員全員が初の海外旅行ということもあり、初めて経験する長時間のフライトを終えて、飛行機から降りた団員達は、とにかく高揚感と開放感に満ち溢れていた。

今回、全員が携帯電話を海外でも使用すると聞いていたので、コペンハーゲン空港に到着してすぐに全員の携帯電話の通信設定を行い、日本とデンマークは8時間の時差があり、日本は真夜中であるが、保護者へ連絡するよう促した。

キャリアや契約プラン、機種の違いから、設定方法がわからなかった団員が何人かいたため、ホテルチェックイン後に設定することとし、まずは空港からホテルへ向かうこととした。

入国審査は、団体専用のカウンターに案内された。先頭をきることとなった私に対して、入国審査官が滞在日数や団体の人数、あとは、おそらく、滞在場所や何の団体なのかを聞いてきたが、とっさの英語が出てこず、なぜか、滞在日数は「セブン」、滞在場所は「デンマーク」、団体は「登別市役所」と答えてしまうなど、後ろで待っている団員達をドキドキさせたようだが、無事に入国することができた。

団員達は、英語での受け答えを事前研修で練習していたが、団長の対応のおかげもあり(?)、入国審査官からは、ほとんど何も聞かれず、あっさり入国できたようで安心していた。

入国審査を済ませると、現地ガイドと合流して、コペンハーゲン駅へ向かった。

電車に乗る際は、日本のような自動改札であったり、駅員の切符確認はなかった。

日本からバウチャーと思われる紙を持っていったので、現地ガイドがいなかったら、切符の引き換え場所などを探し回り、戸惑ったと思うが、現地ガイドのおかげで安心して乗ることができた。

バウチャーは、電車の乗務員が定期的に確認に来たときに見せるスタイルのようだった。

乗車する電車がホームに入ってくると、日本とは異なるデザインの電車にテンションが上がる団員もいた。私たちが乗った電車は、スウェーデンとデンマークを行き来しているようだったが、電車内のデザインや座席の配置、設備の違いなどの写真をとっている団員がおり、早速、研修テーマの報告を意識した行動をとっていたことに感心した。

コペンハーゲン中央駅は、レンガ造りで異国情緒と歴史を感じる駅だったため、電車から降りた団員達は外国に来た実感が一気に沸いたようでたくさん写真を撮っていた。

電車から降りたのは20時頃だったが、事前に聞いていたとおり、日が長く、外は明るかった。

現地ガイドから、この時期の日没は21時すぎということを知り、改めて驚いた。



宿泊先の「コンフォートホテルヴェスターブロ」はコペンハーゲン中央駅から徒歩で5分ほどのところにあった。

重たい荷物を抱えての長時間の移動や到着の安心感などで疲れが見える団員がいたため、まずはホテルにチェックインすることとしたが、ホテルに向かう途中は、初めて見る光景に目を輝かせて、足が止まり写真を撮りながら、15分ほどかけて移動した。

ホテルのチェックインを済ませ、現地ガイドと別れた後、一度、それぞれの部屋に荷物を置くこととなったが、そこで、数名の団員達が乗ったエレベーターでは、ボタン操作の仕方がわからず、自分の部屋の階に止まることができずに、3往復するハプニングが発生した。グランドフロアでエレベーターに乗っていた団員達と目が合う度に気まずそうに、焦っている姿が微笑ましかった。

一度、部屋に荷物を置いた後は、全員でホテルから最寄り(徒歩1分ほど)のスーパーへ向かい、日本のスーパーとの様々な違いを感じながらショッピングを楽しんだ。

団員の1人が会計時にクレジットカードをレジに置き忘れるハプニングがあったが、現地の方がそれに気づいて届けてくれたため、大事には至らなかった。

また、団員達は様々なお菓子やパン、生ハムなどを購入していた。

サルミアッキという黒い飴を買った団員が、親切に私にも1粒くれたが、一瞬で口に広がるアンモニアのような匂いと独特の苦みに驚いて、反射的に口から出してしまった。後から調べると、大変歴史のあるお菓子のようなようだったが、過去派遣された多くの団員がその味や食感を苦手とし、対応に苦慮していた、かの有名な「リコリス菓子」だったようだ。

スーパーを出たあとも、元気が有り余っていて散策したそうにする団員達もいたが、移動の疲れが出ている団員もいたため、ホテルに戻り、1日目の行程を終了することとした。

2日目 8月9日(金) コペンハーゲンからリングエまでの移動・ホストファミリーとの出会い

●コペンハーゲン駅周辺散策

2日目の朝コペンハーゲンの天気は曇り。午前中から夕方にかけて雨が降る予報が出ていた。

7時半からホテルで朝食をとることとなっていたが、時差の影響か、早起きしていた団員が多かったので、朝食前に希望者を募り、1時間程度コペンハーゲンを散策することとした。

コペンハーゲン中央駅には、スターバックスコーヒーやマクドナルド、セブン-イレブンなど日本でも馴染みの店があり、団員達からそこに行ってみたいという意見が出たので、駅まで散策することにした。

駅についた団員達は、スターバックスコーヒーで日本では販売していないフレーバーの飲み物を購入したり、セブン-イレブンのパンを購入したりして、日本との違いを楽しんでいた。

早朝にもかかわらずテンションが高い団員達が多く、ひと安心だった。

●ホテルでの朝食、コペンハーゲンからの移動

ホテルに戻り、予定どおり7時半から朝食をとった。

過去に派遣された団員からとても評判が良かったので、期待していたところ、ブッフェスタイルで、パンやチーズ、サラダ、ウィンナー・ハム、フルーツなど種類が豊富で、味も美味しく、期待どおりだった。

朝食後は、9時過ぎにホテルをチェックアウトし、コペンハーゲン中央駅へ向かった。

ほとんどの団員が早朝の散策に参加していたこともあり、景色にも慣れ、道順も覚えた様子で、すぐに駅に着いた。

朝の通勤時間とかぶっているのか、首都に人が集まるのか、駅のホームには、前日よりたくさんの人がおり、異国の言葉を話していた。

オーデンセ駅までの電車は、4人と7人で座席が2車両に別れていたもので、団長班と西林先生班で分かれて乗車することとなった。

電車が定刻通り運行していないようで、どの電車に乗るのか、乗る電車が合っているのか不安になりながら乗車した。車両の座席付近には、大きなキャリーバックをおけるスペースがないため、団長と団員の1人がデッキで荷物番をして過ごした。



●オーデンセ到着

1時間半ほど電車で揺られ、デンマーク第3の都市「オーデンセ」の駅に着くと、外は、ウィンドブレーカーや折りたたみ傘では対応できないほどの大雨になっていた。

オーデンセ駅の降り場のホームには屋根がなく、雨の中、必死にキャリーケースを下ろして運んでいると、レインコートを着たリングフリー校のアネさんと7学年の生徒ほか、ホストファミリーの方々が声をかけてくれて、運ぶのを手伝ってくれた。

キャリーケースは、リングフリー校のトラックに載せ、リング駅まで運んでくれることとなり、とてもありがたかった。お礼に、トラックの運転手となるホストファミリーに、お土産の「閻魔焼きそばせんべい」を渡したところ、とても喜んでくれた。



トラックに荷物を載せたあと、団員数名と団長で、オーデンセ駅内のトイレに行ったところ、有料トイレしか見つからなかったの、仕方がなくそこを使用することとした。コペンハーゲン中央駅にも有料トイレしかなかったの、トイレが有料というのは、デンマークでは一般的らしい。

有料トイレは、カード決済すると、鍵が開く仕組みになっており、トイレから一度出て、扉が閉まってしまうと、もう一度、決済しないと扉が開かない仕組みになっている。

そんな中、女子団員の1人が、手洗い用の水の出し方がわからず、手に石けんをつけたままトイレから出てきたが、その後、扉が閉まって中に戻れなくなってしまい、みんなで大爆笑。後の思い出話しても語り継がれるできごとの1つとなった。



●昼食・オーデンセ市内観光

アネの案内で、オーデンセ駅内の飲食店でリングフリー校の7学年の生徒たちと一緒に昼食を食べることとなった。

7学年の男子生徒たちがイケメンだったので、女子団員は大はしゃぎ。恥ずかしくて自分たちからは声がかかけられない、ということを話していたのが微笑ましかった。

昼食のサンドイッチはボリュームがあったためか、イケメンを目の前にした緊張のせい、食べきれなかった団員もいたが、とても美味しかった。



オーデンセは、デンマークを代表する童話作家「アンデルセン」が生まれた街であり、これまでの訪問団と同様、アネの案内でオーデンセ駅の周辺やアンデルセン博物館を見学することになった。

まちの至る所にアンデルセンにちなんだ独特の雰囲気のおブジェがあり、アンデルセンの精神を感じつつ、古さと新しさが調和した美しい街並みを歩いて、博物館に到着した。

博物館では、アンデルセンの生い立ちや偉大さを感じることができたが、展示物の説明が英語と中国語しかなかったため、内容が理解できなかったのが残念だった。

散策しているうちに雨が上がり、晴天の中、日本ではあまり見ることができない草花を見ながら、とても新鮮な気持ちで公園内を散策することができた。

●オーデンセからリングヘへの移動、ホストファミリーとの合流

夕方にオーデンセ駅に戻り、電車に乗って、ホームステイ先のリングヘに向かった。

リングヘは、オーデンセから列車で15分ほどののどかな町で、車窓から見える自然豊かな景色は、北海道の道東方面に近い雰囲気を感じた。

リングヘ駅に到着すると、ファボー・ミッドフュン登別友好協会のリズィ・サンダー会長をはじめ、ホストファミリーの皆さんがデンマークの国旗を持って、暖かく歓迎してくれた。



ホストファミリーと合流したらあっという間に団員達と別れるよ！と事前に聞いていたが、本当にそのとおり・・・団員達、ひとりひとりへの激励や連絡事項などもままならないまま、あっという間にそれぞれのホストファミリーに連れられて行った。

私と西林先生は、アネの家でお世話になることとなった。

アネの家は、リングヘ駅から電車で一駅隣の街にあり、夫のトーベンの車で向かった。

到着すると、2人の息子、犬1匹、猫1匹が出迎えてくれた。

アネが家の中を案内してくれたあと、トーベンが「金曜日はピザデー」と言って、夕食にたくさんの種類のピザを用意して歓迎してくれた。

1カット1カットが大きい、デンマークサイズのピザに驚愕しながら、地ビール「オーデンセ ピルスナー」とともにとても美味しい夕食をいただいた。



この日は、朝から団員の1人が体調不良で心配したが、夕方向かい徐々に回復してきたため、保護者と連絡をとった結果、予定通りホストファミリーと合流することができた。

その団員も含め、他の団員達も、それぞれの家庭で歓迎されたようでその様子をLINEで報告してくれた。

はしゃぎすぎて、遊んでいる中で、足を負傷してしまった団員もいたが、ホストファミリーからおいしいご飯でおもてなしをうけたり、ゲームで対決したり、キレイで広大な庭を案内してもらったり、ペットと触れ合ったり、トランポリンをして過ごしたことなど、各家庭で歓迎を受けている話を聞き、安心して休んだ。

3日目 8月10日(土) ホストファミリーとの交流

3日目の朝、朝食にほうれん草入りのワッフル生地のパンなどをいただいた。

この日は、ホストファミリーと1日過ごすことになっており、過ごし方は各ホストファミリーに委ねられていた。外は晴れていて、心地よい乾いた風が吹いていた。

私と西林先生の予定は事前にアネが考えてくれていて、一部のホストファミリーと合流して、リングエから車で30分ほど南に進んだ「スベンボー」という街から1時間ほど観光船に乗って「エア島」に行くことになった。

トーベンが運転する車で「スベンボー」へ向かい、スベンボーで一部の団員達とそのホストファミリーと1日ぶりの再会をした。

団員達は、お互いにホストファミリーとの写真を見せあったり、楽しかったできごとなどをたくさん話していた。滞在の滑り出しが順調な様子で、とても安心した。

エア島の観光船乗り場に到着すると、石畳の道とカラフルな建物が並ぶなど、フォトジェニックな風景が広がっていた。

カラフルな建物が並ぶ商店街を散策していると、結婚式の前撮りにも遭遇し、現地の方にとっても、人気のスポットであることがうかがえた。

この日は、天気も良く、青空とこれらの景色のコントラストがとてもきれいだったので、団員達のシャッターを押す指が止まらない様子だった。



散策の途中、休憩にホストファミリーが用意してくれたおやつをいただいた。

バナナやフルーツキャンディー、リコリス菓子などを用意してくれており、団員達は、喜んでいましたが、リコリス菓子はなかなか食が進まず、壮絶な譲り合いが行われていた。

商店街でショッピングや食べ歩きを楽しんだ後、ビーチまで歩くこととなった。

ビーチ沿いには、カラフルなビーチハウスと呼ばれる小屋が並んでおり、1日中ビーチで過ごすときに使うようだった。デンマークでは「ヒュッグ」と呼ばれるライフスタイルが定着しており、休日に居心地の良い空間でゆっくり話しをしながら、ほっこりした時間を過ごす人が多く、その中で、ビーチで過ごす方が多いと聞いた。このような休日の過ごし方が、幸福度の高い国民性に繋がっているのかと、西林先生とともに感銘を受けた。

15分ほど歩き、ビーチ前に到着した後、ビーチに設置されたテーブルとベンチで、ホストファミリーが用意してくれた昼食(パンやチーズ、生ハム、サバのトマト煮の缶詰など)をいただいた。

パンの中には、硬くて水分量が少ないパンもあり、団員達は、ここでも日本との食の違いを実感していたようだった。

食後は、少しビーチや海で遊んだ。海は、少し冷たく感じたが、バルト海に入るという貴重な体験ができて、団員達は喜んでいて。

その後は、パークゴルフに似たミニパターゴルフをして、ホストファミリーとの交流を深めるなど、夕方までエア島を楽しみ、盛りだくさんな1日となった。

また、エア島に行かなかった他の団員もフェン島のビーチに連れて行ってもらったり、同じようにミニパターゴルフを楽しんだり、公園で遊んだり、トランポリンをしたり、買い物に行ったり、家でオリンピックを見ながらお菓子を食べたりと、それぞれ充実した1日を過ごし、3日目の行程を終えた。



4日目 8月11日(日) イーエスコウ城見学

4日目は、リングから15分ほどの場所にあるイーエスコウ城を見学する行程となっていた。

天気は、前日に続いて晴れており、外で行動するには絶好の日よりとなった。

各ホームステイ先で朝食をいただいたあと、一度、リングフリー校に集合し、ホストファミリーの車に乗り合わせて、イーエスコウ城を目指した。

前日、エア島に行かなかった団員とは、2日ぶりに会ったが、生き生きとしており、環境に適応してきているのか、表情が明るく安心した。徐々に、英語でのコミュニケーションに慣れてきている様子も見受けられ、適応の速さにとても驚いた。

イーエスコウ城は広大な庭園の一角にあり、園庭の中には、子どもが遊べる遊具やアスレチックが何種類もあるほか、クラシックカーやオートバイの博物館、キャンプ用品の展示場などもあり、見どころ満載で大人から子供まで1日中楽しめそうな施設となっていた。



園庭に入ると、一度、全員で城の中を見学した。

城に入ると高い天井の部屋に甲冑や骨董品などが並び、屋根裏部屋では、事前研修でも話題になっていた「動かすと城が沈む」と言い伝えられている人形を見学した。「動かすと城が沈む」と言われているほどの大切な人形なので厳重に管理されていると想像していたが、1本のロープで仕切られているだけで、手を伸ばせば触れそうなくらい近くで見ることができたため驚いた。

城の見学のあとは、ホストファミリーが用意してくれたランチボックスを食べ、私と西林先生は、アネの案内で、園庭内の施設を見て回ることとなった。

私はキャンプが好きなので、キャンプ用品の展示場で、日本でも販売されている Nordisk(ノルディスク)という会社の様々な形状のテントやギアの展示があり、とてもテンションが上がった。

西林先生は、バイクが好きなようで、様々な国の懐かしい型のオートバイを見て懐かしそうに写真をとっていた。

団員達は、アイスクリームを食べたり、ホストファミリーと公園の遊具で遊んだり、お土産を選んだりして、とても楽しい時間を過ごし、夕方に、それぞれのホストファミリーのもとへ帰っていった。

この日の夕方、パリオリンピックでデンマークの国技と言われているハンドボールでデンマークが金メダルを獲得した。ホストファミリー達もとても喜んでいて、特に、アネの家ではトーベンが毎試合テレビにかじりついて応援しており、とても興奮して喜んでいて。



この日は、夕食の際に、アネが過去の派遣団の話しを聞かせてくれたり、アネが日本に来た時に撮影した写真を見せてくれた。以前上司だった職員や企画調整グループの同僚だった職員の若いころの写真があったので、帰国報告会で披露しようと写真を撮った。

夕食の後、アネが私と西林先生を散歩に連れて行ってくれることとなり、家の周りの湿地のほか、昔海賊の基地だった場所などを案内してくれた。

イーエスコウ城でも1日中歩いていたが、アネは本当に元気で、私は軽い気持ちで散歩に出たが、散歩時間は1時間半にもわたった。

散歩中、いたるところに日本では見ることができない大きさのナメクジを大量に見てとても気持ち悪かったが、自然あふれる風景は、北海道に似ているなど改めて実感した。

●リンゲフリー校訪問・校舎内の見学等

3日目、4日目に続いて天候は晴れていた。日本とは違う日差しの強さを感じて1日が始まった。

それぞれのホームステイ先で朝食をいただき、朝8時にリンゲフリー校に集まり、アネの案内で校内を見学させてもらった。

ロビーには、過去の訪問団が寄贈したお土産や登別の観光PRポスターが展示されており、リンゲフリー校がこの交流を大切にしてきたことや交流の歴史を改めて実感し、気の引き締まる思いがした。

体育館には、トランポリンやクッション性の高い床など、体操ジムを彷彿とさせる器具などが充実していた。過去の訪問団は、そこでトランポリンを体験したと聞いたが、今回は時間がなく、体験することができなかったのが残念だった。

校内の見学を終えた後、団員達は、7回生の生徒たちと「ラウンドボール」と呼ばれる野球に似たスポーツを楽しんだり、かくれんぼや鬼ごっこをして交流を深めていた。運動部に所属している団員が多かったが、デンマークの学生たちの運動能力が非常に高く、みんなとても驚いていた。

リンゲフリー校の生徒たちが、のびのびと過ごしている様子を見て、日本の学校の雰囲気とは全然違うと感じた団員が多い様子だった。

●市役所への表敬訪問

リンゲフリー校で交流を終えた後は、歩いて市役所へと向かうこととなった。

アネの案内で、石畳とレンガ造りの街並みを見ながら、きれいに手入れされた公園や教会、図書館に立ち寄りながら歩いた。

市役所に到着すると、登別市役所とは全く異なる雰囲気に、団員達は「おしゃれだし、全然違うね。」と話していて共感した。

玄関前のホールで、リズィさんとハンス市長が出迎えてくれて歓迎の言葉をいただいた。

ハンス市長からは、まちの人口動態や市役所の組織の紹介、事業化や予算決定の仕組み、議会の話しなど、30分以上お話しいただいた。団員達にとっては日ごろ聞くことのない話題が多く、難しすぎるようだったが、私にとっては大変興味深い内容だった。

ハンス市長からお話しをいただいた後、登別市長から預かった親書やお土産のTシャツなどを渡し、全員で写真撮影を行い、表敬訪問は無事に終了した。



●幼稚園児との交流

表敬訪問のあと、広場で各ホストファミリーが用意してくれた昼食をいただき、歩いて幼稚園へ向かった。

幼稚園に到着すると、30人ほどの園児たちと先生たちが出迎えてくれた。

園児たちは2歳～5歳くらいで、英語はもちろん、言葉での意思疎通はほとんどできない様子だったが、今回の訪問で一番楽しみにしているのが幼稚園訪問だと言っていた団員は特に積極的にかかわっており、追いかけてっこをしたり、身体や遊具を使っの遊びを通じて、どんどん仲良くなっていった。

他の団員達もデンマークの子供たちの容姿や行動に「かわいい、癒される」といった感想を連発し、積極的に園児達と関わっていた姿が印象的だった。

最初は園児たちとどのように接してよいか戸惑っていた団員もいたが、少し時間がたつと、みんな子どもたちと一緒に仲よく遊んでいて、とても感心した。



●リングフリー校の始業パーティーへの参加

約1時間にわたり、幼稚園児との交流を終えた後は、まちのスーパーに立ち寄って買い物をし、リングフリー校に戻り、始業パーティーへ参加することとなった。

リングフリー校では、毎年始業式の日、生徒とその家族が集まり、パーティーをすると聞いたが、あまりイメージが湧かないままリングフリー校に到着した。

到着すると、中庭に案内され、レモネードを飲みながら、始業式の開始を待った。

中庭には、各家庭で持参したレジャーシートが敷かれ、参加者たちは談笑しながら始業式が始まるのを待っていた。

日本の学校の始業式との雰囲気の違いに戸惑っていると、校長先生のあいさつがはじまり、その後、校歌や現地で有名な曲などを合唱し、10分～15分ほどの短い時間で、始業式は終了した。



その後は、一度、7回生の教室へ行き、先生の話を聞いた後、リングフリー校の生徒たちとその家族が青チームと赤チームの2チームに分かれて一緒に校庭でカードを使ったゲームをやることになった。日本の学校でいう、「親子レク」に近いものなのだろうと感じた。

団員達は、ホストファミリーと一緒にチームでゲームに参加することとなった。

見たことのないゲームだったため、説明を聞いただけではカードゲームのルールがよくわからなかったが、皆カードが配られるとルールを理解して、とても楽しんでいった。

ゲームのルールは、カードに数字が書いてあり、赤チームは青チームの人と対戦するが、カードには、持っているカードで勝てる数字と負ける数字が書いてある。ゲームに勝つと、相手からカードを回収することができ、最終的に多く回収したチームが勝ちというルールだった。

多くの数字に勝つことができる強いカードと、逆に、ほとんどの数字に勝てない弱いカードがあるため、強いカードを持った人は、たくさんの人と対戦するために対戦相手を追いかけて、弱いカードを持った人は、できるだけ対戦を避けるように逃げるため、たくさん走る必要がある。

晴天の中、団員達もたくさん走り、息を切らしていた。



30分～40分ほどゲームを楽しみ中庭に戻ると、全校生徒とその家族によるパーティがスタートした。各家庭ごとに持ち寄った食事をいただき、ビールも飲みながら食事をした。途中、ケーキもふるまわれ、団員達はとても喜んでいった。

夕方気温も過ごしやすくなっており、晴天だったので、とても心地よいパーティーだった。



パーティーが終了すると、それぞれのホームステイ先に戻り、盛りだくさんな1日が終了した。

私と西林先生は、アネの家に戻ってから、コペンハーゲンでの自由時間の使い方や見学先などについて遅くまで話し合いをしたり、交流を振り返ったりして過ごした。

●リンゲフリー校でのプレゼンテーション

前日と同じように、それぞれのホームステイ先で朝食をいただき、朝7時45分にリンゲフリー校のホールに集まった。

この日は、リンゲフリー校の朝の全校集会の中で、派遣団を紹介いただけることとなっており、その後、これまで練習してきた英語での登別市の紹介(プレゼンテーション)を披露することとなっている。

発言する順番に並んで待つ団員達は、台本が書いたしおりを手に、とても緊張した面持ちで全校集会が始まるのを待っていた。

無事に機材のセッティングが終わると、リンゲフリー校の生徒たちが順番にホールに入ってきて、ホールがほぼ満員になると、全校集会が始まった。

先生の話しを聞いて、全校生徒全員で歌を歌った後、派遣団が紹介された。

派遣団の中に、当日、誕生日を迎えた団員がおり、それを知っていたリンゲフリー校の先生が、全校生徒にそのことを紹介してくれて、お祝いの歌を歌ってくれた。

デンマークは、誕生日を大切にする国民性だと聞いていたが、全校生徒に祝ってもらって誕生日を迎えた団員は照れながらもとても嬉しそうだった。おそらく一生の思い出になることだろう。

その後のプレゼンテーションは、緊張のため原稿が頭からとんでしまったり、躓きながら話す団員もあり、終わったあとには悔しそうにしていた団員もいたが、練習の時より堂々と声を張って頑張っている姿に感動し、発表の頑張りを称えた。

プレゼンテーションが終わった後は、全校生徒から大きな拍手をいただき、校長先生からも「良い発表だった」とお褒めの言葉をいただいた。団員達は少し照れながらも達成感と開放感に満ちていたように思えた。

私も1つ大きなイベントが終わりー安心・・・しているのもつかの間。日本に接近している台風の影響で、帰国の日の羽田空港の発着便が欠航する可能性があるとの情報が入っていた。



●レゴランド・ビルンでの7回生の生徒との交流

プレゼンテーションが終わると、リングフリー校の7回生約 20 人と一緒に大型バスに乗り、約1時間半のところにあるレゴランド・ビルンを目指した。

バス車内では、車両前方に派遣団、後方にリングフリー校の生徒たちに分かれて座った。

滞在期間中は、団員全員で集まる場面が少なく、連絡事項を伝えるタイミングがとれていなかったため、この移動時間を利用し、研修テーマへの取組の進捗状況の確認や次の日のコペンハーゲンでの行程を決めるなどした。



そのあとで、台風の影響で帰国時の航空機の運行に影響が出る可能性が高いことを伝え、コペンハーゲンで滞在する場合の通信手段を保護者と話しておくよう指示をした。不安を感じる団員や混乱する団員がいるかと思って心配していたが、プレゼンテーションが終わった開放感とレゴランドが近づく高揚感で、雰囲気がとても明るく安心した。むしろ、デンマークでの滞在が延びることに期待している団員もいるほどだった。

1時間半ほどバスで移動し、レゴランドに到着すると、アネと私はチケットの購入カウンターへ向かったが、夏休みの終盤ということもあり、長蛇の列ができており、結果的にチケットの購入までに 20 分以上も並ぶこととなった。レゴランドには隣国ドイツからの来訪者も多いようだった。

レゴランドでは、団員達は、お世話になったホストファミリーとそのクラスメイト達と一緒に回るようになっており、入場チケットの配布後、それぞれのホストファミリーと足早に行動を開始した。

レゴランドは、広い敷地だったため、団員達を見つけることは難しかったが、それぞれ、色々なアトラクションのほか、レゴブロックで作られた精巧なオブジェや作品など、レゴランドならではの雰囲気を楽しんだようだった。

ジェットコースターなど絶叫系のアトラクションを初めて体験した団員もいたようだが、みんな楽しかったようで、興奮気味にその時の感想を報告してくれた。

11 時から 15 時半頃まで約 4 時間半にわたり滞在したが、まだまだ楽しみたかったという声が多く、後ろ髪をひかれながらレゴランドを後にした。



●ホストファミリーとのお別れパーティー

ホストファミリーとのお別れパーティーでは、受け入れてくれたお礼に日本の料理を振る舞うことが定番になっており、今回は事前研修でみんなで話し合い、お好み焼きを作ることを決めていた。

日本からお好み焼きの粉やソース、青のりなどの調味料を準備していき、キャベツや卵、豚肉、エビなどの生鮮食品は西林先生がレゴランドから近いスーパーで調達してくれたため、材料の準備は万端。しかし、レゴランドからリングフリー校に戻るバス車内で役割を決めたところ、お好み焼きを作った経験がある団員がほとんどいないことが判明し、若干の不安を抱えてお好み焼きづくりに挑むこととなった。

パーティーでは、誕生日を迎えた団員をサプライズで、お祝いする予定としていたため、バルーンやローソクをつけたケーキも準備することとなっていたが、バスは17時半頃にリングフリー校に到着し、お別れパーティーは18時から開始予定となり、タイトな時間の中で準備をすることとなった。

リングフリー校に到着すると、すぐに調理室を案内され、調理器具等は自由に使って良いこととなったが、ボウルやまな板、フライパンのふた、計量カップなど調理に必要な器具がなかなか見つけれず、IHコンロの使い方も日本のメーカーとは異なり操作がわからなかったりと、とても慌ただしかった。

このような状況ではあったが、これまでの行程でお会いできなかったコア会長が調理室に顔を見せてくれたため、あいさつと登別から持ってきたお土産を渡すことができた。

お好み焼きを焼き始めた時点で開始予定時刻の18時を過ぎてしまっており、アネに開始を待っていただけるようお願いしたところ、笑顔で「謝らないで。待っているから気にしないで」と言っただき、予定より遅れてお別れパーティーは開始されることとなった。

ある程度の量のお好み焼きが完成し、パーティー会場となるホールへ行くと、ホストファミリーが作ってくれた料理のほか、日本では見たことがないほど大きなピザが並んでおり、我々が作ったお好み焼きもそこに並べた。

参加者たちの前で、団員の1人と西林先生がお好み焼きに関して魅力的な説明をしたこともあり、パーティーの開始と同時に、参加者の多くがお好み焼きをとりききて、すぐになくなった。



参加者の中には、リズィさんとコア会長の姿もあり、アネさんを交えて、西林先生と私で話しをしていたが、お好み焼きをまだ食べたいという要望があったため、私と団員2名で追加でお好み焼きを作りに行くこととなり、残念ながらあまり話すことができなかった。

追加でお好み焼きを作り、その後、無事にサプライズで誕生日のお祝いを終えると、すぐにお別れのアトラクションの時間となった。

初めに、日本で放送していたアニメの曲で大ヒットした「Creepy Nuts」の「Bling-Bang-Bang-Born」を踊ったところ、ホストファミリーの中に曲を知っている人がいて、一緒に手拍子をしてくれるなど思った以上に盛り上がっていた。



次に、東京オリンピックのテーマソングとなっている「嵐」の「カイト」を披露した。歌い出しがスムーズにいかず、練習の成果が出せていなかった部分もあったが、最後まで歌いきると団員達は安心しているようだった。



最後は、「鬼踊り」を参加者で1つの大きな輪をつくって踊り、大盛り上がりでアトラクションを終えることができた。

発表が終わった後、参加者たちから、「最高の発表だった」とほめてもらったため、団員達は達成感と喜びをかみしめながら、ホストファミリーのもとへと帰っていった。

7日目 8月14日(水) ホストファミリーとの別れ・コペンハーゲン市内見学 等

●ホストファミリーとのお別れ・リング出発

ホストファミリーとの別れの朝、私と西林先生はアネからたくさんのお土産と電車内で食べるお弁当をいただいた。手厚く受け入れていただき、本当に感謝しかない。

朝食の時に、日本から持って行った「焼きそば弁当」をアネの息子と一緒に作り、記念写真をとって出発した。



リング駅につくと、団員達とそのホストファミリーが次々に集まってきて別れの時間が近づく。

毎年、涙のお別れになると聞いていたが、電車に乗る前は昨晚、既に泣いたという団員が1人いたほかは、みんな笑顔でお別れの握手やハグを交わし、ホストファミリーとの最後の時間を過ごした。

数名の女子団員に至っては、お気に入りの男子生徒と最後にハグしたい～と言って作戦を練っていたため、もしかすると、想像していたお別れシーンとちょっと違うのかな・・・とも考えていた。

しかし、電車が来るとなかなかホストファミリーから離れない団員や窓越しに手を振るホストファミリーを見て涙を流す団員、それらを見てもらい泣きする団員達の姿があり、本当に良いホストファミリーに受け入れてもらえたのだと改めて感じた。



●リングからコペンハーゲンへの移動、コペンハーゲン市内観光(ニューハウン、チボリ公園)

リングからコペンハーゲンへの電車での移動中、ホストファミリーとの思い出などを振り返りながら、最後の食事(ランチボックス)をそれぞれ食べて過ごした。

移動の途中、台風の影響で搭乗を予定していた国内線(羽田空港から新千歳空港便)の欠航が決定したメールが届いたため、団員達にそのことを伝えたが、前日と同様、東京で1泊できるかもしれないことにウキウキしている様子だった。

昼過ぎにコペンハーゲンに到着したあと、1度荷物をホテルに置いて、多くの団員達の希望で、カラフルな建物が軒を連ねる人気観光地「ニューハウン」を観光した。

ニューハウンのあとは、コペンハーゲンで約2時間の自由行動の時間を設け、ショッピングやカフェ、食べ歩きなどをそれぞれ楽しんだ。



自由時間の途中、団員の1人のデビットカードが使えなくなるハプニングがあり、銀行のATMでお金をおろすことになった。最初に使用した最寄りのATMではお金をおろせなかったため、西林先生も合流して、別の銀行のATMを探した。結果、Danske銀行のATMで、お金をおろすことができた。初めて海外のATMを操作することとなったため、とても緊張したが、非常に貴重な体験となった。

自由時間の後は、世界最古のジェットコースターがあると言われている遊園地「チボリ公園」の入口に集合した。これからチボリ公園を楽しむという状況であるが、団員達は、両手にお土産を抱えていたため、全力で遊べないと考え、西林先生と2人で全員分のお土産をホテルに運ぶことにした。

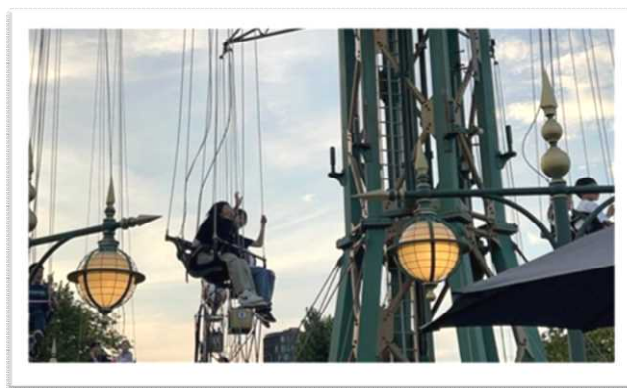
前日にレゴランドに行っていたため、2日連続の遊園地となったが、団員達は、全員が乗り放題チケットを購入し、様々なアトラクションに繰り返し乗って、旅の最後の思い出づくりをしていた。

アトラクションの中で、特に空中ブランコ「スター・フライヤー カルーセル」が人気で長蛇の列ができていた。高速回転しながら、地上 80 mまで上昇する空中ブランコからは、コペンハーゲン市内が360度一望でき、夕暮れで晴天だったため、見えた景色は絶景だった。

外が薄暗くなるまで、チボリ公園を楽しんだ後は、ホテルの近くにあるスーパーで買い物をしてホテルに戻った。

団員達は、行きより荷物が多くなっていたため、翌日に荷造りが間に合わない団員や空港でチェックインした際に、荷物の重量超過が出ないように、ホテルに戻って、まずは荷物整理をして、ホテルのはかりで重さを計ることとした。

全員がスムーズに荷造りを終えた後は、ホテル内で最後の夜を自由に過ごすこととしたが、団員達は疲れもあったためか、全員が割と健全な時間に就寝していたようだった。



●コペンハーゲン国際空港への移動、デンマークからの出国

前日の昼に、台風の影響で国内線が欠航となっていたため、台風に関する情報収集や、振替便の検索、羽田空港から新幹線など他の移動手段で登別へ帰る方法、東京に宿泊する場合のホテル、スカンジナビア航空の運航状況などを検索しているうちに、ほとんど眠ることなく8日目の朝を迎えた。

そのような中、朝6時頃に、企画調整グループから国内線の振替ができたという連絡があり、とても安心した。国際線から国内線への乗り換えの時間が短くなるため、国際線の到着時間が遅くなると搭乗できない可能性がある時間帯の便ではあったが、多数の便が欠航になり、多くの航空機利用客が振替便を探す中、11席を確保するのは容易ではなく、本当によく予約してくれたと感服した。

朝食は朝7時30分からとしていたが、団員達は疲れがたまっているのか、数名が朝食の集合時間に少し間に合わなかった。朝食時に、国内線の振替が完了したことを伝えたとこ、東京に泊まらないことを残念がっている団員もいたが、多くの団員は安心していただった。

チェックアウトは、前日のうちに荷造りを終えていたので、朝食後も時間に余裕をもって行うことができた。

団員達は、旅の疲れに加えて、来たときよりも荷物が重くなっており、足取りは少し重いように感じたが、駅までの道のりには慣れており、スムーズに移動していた。

コペンハーゲン駅では、ホストファミリーの保護者の1人と偶然再開することができた。コペンハーゲンでの仕事のために、リングから来ていたとのことで、奇跡の再会を皆で喜んだ。

コペンハーゲン駅で乗車予定の電車が定刻通りの運行ではなかったことや、行きと同様2つの車両に分かれて乗車することとなっていたこと、乗車した車両が違って移動しなければならないハプニングなどもあったが、現地ガイドの誘導のおかげもあり、無事に空港に到着することができた。

空港でチェックインし、キャリーケースを預け、そのまま出国手続きを終えると、免税店が広がっていた。お土産屋も多く、搭乗開始まで時間もあったため、最後のショッピングの時間を確保した。

免税店で買い物している途中に、団員の1人が搭乗券を紛失するハプニングがあり、団員はとても焦っていたが、西林先生の経験と英語力でスカンジナビア航空のスタッフに事情を説明し、搭乗券を再発行して乗り切ることができた。



飛行機搭乗前には、デンマーククローネを円に両替することとしたが、1万円以上から、かつ、デンマーククローネのお札の分しか円に両替することができなかったため、多くの団員は、デンマーククローネを記念に持ち帰ることとなった。

飛行機は、台風の影響で無事にコペンハーゲンを出発できるかどうか心配していたが、定刻より遅れてはいたものの無事に搭乗が始まり、まずは一安心。羽田空港へ予定通り到着することを信じて機内に乗り込んだ。

●日本への移動

飛行機の座席は、行きの国際線と同様、団員が皆固まった席だったので安心感があった。

飛行機の飛行ルートは、行きとは違い、ポーランドや黒海、ウズベキスタン、中国などの上空を通過して日本へ向かうルートとなっていた。最初は、現在地や残りの飛行時間、到着予定時間などを気にしながら過ごしていたが、前日にほとんど寝ていなかったこともあり、気がついたらとても長い時間寝てしまっていた。

機内では、なぜか長時間鼻血が止まらなくなった団員がいたほかは、キャビンアテンダントとの英語での会話にも慣れていたので、特に団長の出番もなく、長時間のフライトは順調に進み、無事に羽田空港に着陸できることとなった。

9日目 8月16日(金) 日本へ到着・帰宅

●日本への到着

台風の影響で、着陸時に飛行機が揺れたため、揺れに弱い私や一部の団員は酔って具合が悪くなったが、乗り換えまでの時間が短いため、急いで荷物を受け取り、入国審査場へと移動した。

行きと同様、出入国手続きは、自動化ゲートのレーンもあったが、パスポートにスタンプを押してほしい団員が多かったため、全員が対面式のカウンターで手続きした。

入国手続きが終わると、小走りでバス乗り場へ向かった。バス停につくと、ちょうどバスが来ていたため、荷物が重く、移動に時間がかかっていた団員は、乗り遅れそうになったが、運転手の配慮で何とか全員乗せてもらうことができた。

羽田空港チェックインカウンターに到着すると、ほとんどの飛行機が欠航しており、我々の乗る便が最終便(午前中の便ではあったが、午後の発着便は全て運休)ということもあり、空港は閑散としていた。便の振替手続きが煩雑な様子ではあったが、待ち時間なく手続きすることができたため、ギリギリの時間ではあったが、無事にチェックインを済ませることができた。

足早に保安検査場を通過し、搭乗口に向かうと多くの方が我々の乗る便と同じ便に乗るために搭乗口前の待合場所で待っていた。ここまで来ればもう登別へ帰れる・・・と西林先生と肩をなでおろした。

団員達もここまで来て安心し、周りから日本語が聞こえて「帰ってきた～！」「日本語聞こえる～！」といった感嘆の声をあげ、トイレに行って戻ってきた団員は、ウォシュレットが使えることに感動するなど、「デンマークも良かったけど、やっぱり日本は良いね！」ということを話しながら搭乗時間を待っていた。

しかし、搭乗時間を過ぎても案内されず、外は雷雨が強まり、搭乗中止になるハプニングが発生。

最初は、東京に泊まれないことをがっかりしていた団員達も、さすがにもう帰宅する気持ちになっていたのか、疲れた表情や不安な表情を浮かべていたが、数十分が経過し、搭乗が始まると安堵の表情を見せていた。

飛行機の席は、バラバラだった。私は3名ほどの団員の近くだったが、3人とも疲れていて、機内のドリンクサービスにも気づかないほど深い眠りについていて。

新千歳空港に到着すると、企画調整グループの担当者と新千歳空港で別れる団員の保護者が迎えてくれた。3人の団員とはここで別れ、他の団員はバスに乗り込む。バス車内では、疲れを見せることも無く、デンマークでのできごとなどを楽しく話しながら登別市役所に戻った。

登別市役所に到着したのが業務時間内だったこともあり、市役所では、たくさんの市職員や保護者が出迎えてくれた。団長として、一言挨拶と、一本締めを行い、8泊9日の旅は幕を閉じた。

派遣を終えて

今回、職員研修の位置づけで団長を務める運びとなったが、現在の部署では経験することができない貴重な体験であった。

特に、団員達が事前研修から徐々にお互いのことを理解しあいながら成長していく姿を間近で見ることができたほか、派遣期間中は、現地で起こった様々な出来事へ対処していくことで、新たな気づきや知見が広がったと感じている。

今回派遣に参加した団員達については、これからも海外に関心を持ち続けるとともに、ホストファミリーと交換したInstagramやスナップチャットなどのSNSで、未永く交流が続くことを期待したい。

最後に、現地に行って改めて、交流の歴史とその深さを感じ、これまで30年以上にわたり、本事業に関わっているデンマーク協会をはじめとする関係者の皆さんに敬意を表するとともに、団を支えてくれた引率教諭の西林先生や派遣交流団の結団式から事前研修・派遣期間・事後研修・帰国報告会と3ヶ月間にわたり尽力してくれた市役所企画調整グループの職員をはじめ、協賛して下さった事業者、参加してくれた団員の保護者など、今回の派遣事業に関わった全ての関係者に感謝の気持ちを伝えたい。

登別市デンマーク友好都市中学生派遣交流事業における生徒の成長

登別市立幌別中学校 西林 慶武

1. はじめに

ICTの革新により、自国に居ながら世界の情報を入手することや、遠く離れた場所にいる人とも簡単にコミュニケーションをとることは、もはや当たり前の状況になってきています。しかし、どれだけICTが進んでも、実際に現地に行って五感を活用するからこそ得られる感覚や、対面で人と会い言葉を交わすという体験に勝るという段階にはまだ到達していないと思います。ましてや、多感な中学生という時期に、英語を使ってコミュニケーションし、およそ1週間ホームステイして過ごすという経験の大きさは計り知れません。

今年度の引率者として生徒たちの様子を見守りながら、生徒一人ひとりが大きく成長する様子に大きな感動を覚えました。ほぼ全員が初めて海外に行くということや、およそ1週間のホームステイと現地校との交流が設定されていることから、一人ひとりの外国語学習への必要感や意欲は非常に高いし、デンマークの公用語は英語ではないものの多くの人が英語を第二言語として使用することもあり、日本人中学生との共通言語が英語になることも参加者の英語学習に良い影響を与えると考えました。以上のことに加え、事業を終えた後に成果発表会が設定されていることもあり、英語を用いて情報収集することを通して、各自のコミュニケーション能力や言語へ気付きなどが高まることを予想しました。

また、この事業をただの旅行的行事にしてしまうのではなく、一人ひとりの海外交流体験や外国語学習意欲の向上と、派遣団の交流事業への参画意識の涵養の機会として位置付ける必要がありました。そこで、参加者の不安や自信などの心の動き、そして驚きや感動などを通して学んだことを、生徒たちの生の声を記したラベルから情報を得ることが有効であると考えました。

2. 派遣生徒の成長を見とる具体的な視点と成長過程



今回の事業では、海外研修後に研修参加者一人ひとりが、研修を通じて学んだことを振り返り、報告会でプレゼンテーションする機会が設定されていました。派遣生徒全員が初めての海外で生活をするので、当然ながら派遣交流中は情報過多になることが予想できたので、事前指導の段階から自ら学んだことやその時感じたことを、忘れないように記録す

るためにラベルと日記に記録することを提案しました。学んだことや感じたことなどを、振り返りとして記入することは、今の教育に求められている主体的に学習に取り組む態度の向上や学習の自己調整力の向上につながると考えました。

3. ラベルを通した派遣団および一人ひとりの成長過程

派遣生徒自身が記入したラベル（ピンク）と、引率者が感じたことを記入したラベル（黄色）を掲載するとともに、状況について記載することで、派遣団及び派遣生徒一人ひとりの成長の過程を明確にしていきたいと思います。

事前研修 前半

7/8 事前研修①

人見知りなので、みんなと仲良くなれるか不安だし、緊張をとてもしています。 S.H

7/8 事前研修①

デンマークの概要説明で、みんなの期待度アップ。
ラベルの取り組みがスタート！

交流事業の初日は、まさに期待と不安のスタートになりました。幸弓さんのラベルに代表されるように、多くのメンバーが派遣団のメンバーとの出会いやデンマークに行けるという期待と、さまざまな不安が入り混じったような気持ちだったようです。当初派遣団メンバーは、お互いにひどく遠慮をしながら話しているように見ましたが、企画調整グループの黒井さんの「生徒自身に考えさせて、決定する」という働きかけにより、少しずつ集団としての団結力が高まると共に、集団としての参画力が高まっていきました。

事前研修 後半

7/8 事前研修⑤

リーダーとしてみんなを引っ張っていけるようにがんばります。 K.F

7/22 事前研修⑤

英語での会話練習やスピーチなど、少しずつ不安なことが増えてきました。 K.T

7/24 事前研修⑥

久しぶりに研修に参加。光希リーダーを中心に、チーム感がアップしてきている!?

8/6 事前研修⑩

出発前最終練習の内容をリーダーが中心となって決めるスタイル Good!

派遣団の集団としてのまとまりを感じられるようになってきたのは、団が発足してから3週間ほど経った頃です。しばらくぶりに事前研修に参加してみたところ、リーダーの光希くんを中心に団の一体感がアップしていることに驚きました。背景として、①何かを決める

際に、生徒自身が話し合いを持って決めるというスタイルが確立してきたということと、②デンマークでのアトラクション練習をみんなで行ったことの2つの要因が大きいようです。どちらも、派遣生徒一人ひとりを事業に巻き込み参画させるという効果と、全員で共通の問題について考え、1つの目標に向かって努力したことが影響を与えていたと思います。

また、企画調整グループの遠藤さん、黒井さん、蔣さんの派遣団への働きかけに加え、前年度派遣引率者である鷺別中学校の舘崎先生の生徒へのご指導と援助は、生徒たちの英語力はもちろん、派遣生徒としての意識の向上に大きな影響を与えてくださいました。全くのボランティアで、ご尽力くださった舘崎先生にこの場を借りて心からお礼を申し上げます。

Denmark Day1

8/8 Day1

みんなの意識向上・本気モード！
飛行機からどんどん意思表示。入国
審査も一人ずつ Challenge!

8/8 Day1

初海外！黒髪の人が少ない！ホテル
に到着！これから本当に楽しすぎて
寝れるか不安…S.H

出発前は、正直私も保護者の方々も不安が非常に大きかったと思われましたが、いざ出発すると派遣生徒の意識が一気に向上したように感じました。個人差はあるものの、飛行機の中から積極的に英語を用いて意思表示できるようになったことや、事前研修での練習の成果が発揮された入国審査などの際にそれぞれの成長を伺うことができました。コペンハーゲン駅に降りた時に生徒たちが実感した「初海外の感動」や、「生で感じる海外の雰囲気」への喜びの表情は輝いていました。

Denmark Day2

8/9 Day2

初海外！最初は何をすればいいか分からないこともあったけど、コミュニケーションも取れました。 N.S

8/9 Day2

ホストファミリーと博物館に行っ
て、とても楽しかったです。いっぱい
写真取りました。 M. S

8/9 Day2

ホストファミリーと初めての夜を過
ごすので、ドキドキしたが沢山話し
かけてくれたので安心した。 S.O

8/9 Day2

アンネフランク博物館→Odense の
駅に帰る途中、おばあちゃんに話し
かけられ、手を引いて道路横断★

今回の派遣団の最大の目標と言っても過言ではないのが、英語やデンマーク語を用いたコミュニケーションです。実は、デンマークに渡った後に聞いたのですが、デンマーク人は

ヨーロッパの中でもシャイな人が多く、そういう意味では日本人と友好関係を築きやすい国民性だと言えると感じます。実際にデンマークの方達と接する中で、打ちとければ非常に話好きであるが、最初は奥ゆかしさを感じる人柄から、非常に好感を感じました。

また、デンマーク人は非常に英語が堪能な人が多いようだが、デンマーク人同士はデンマーク語でコミュニケーションをとることからもわかるように、デンマーク人にとっての「英語」は、日本人と同じ第二言語ということであり、両者がコミュニケーションをとる場合、英語を使う必要性が非常に高くなります。

Denmark Day3

8/10 Day3

トビアスの友達のオスカーとビーチに行った。2人」とても優しくあった。 S.O

8/10 Day3

今日はホームスティ1日目でした。写真よりもイケメンなピーターで嬉しかったです。 A.T

ホームスティが始まり少し落ち着くと各自が各ホストファミリーと過ごす時間が増えてきたこともあり、引率者に入る情報は、全員で集合する際に彼らとの会話から得ることが多くなった。「ホストファミリーにラーメンを作ってあげたよ…自己採点は28点だったけど、みんな美味しいって食べてくれた」や「スーパーに行ったら面白くて沢山写真をとった」など、ホストファミリーと充実した時間を過ごしたことが彼らの表情から見てとれました。

Denmark Day4

8/11 Day4

今日はイーエスコウ城に行った。昼ごはんは、にんじんが入ってなくてよかった。 T.H

8/11 Day4

イーエスコウ城では、気になっていた、触ってはいけない人形が見られたのでとても良かったです。 K.F

実際に海外で生活するということは、多くの体験から「日本との違い」や「デンマークの文化」を知ることだと考えています。その中でも、特に「食文化」については、多くのことを感じたり学んだりしたようです。個人的には、デンマークでの食事は、ヨーロッパ同様パン（少し酸味がある黒パンも多い）を主食としていること以外は、ハムや野菜の調理については日本人の口に合いやすいようです。しかしながらお弁当に入っている野菜や果物については、基本生で素材の味を楽しむというものが多い（デンマークの隣国ドイツでは kalt Essen と呼ばれる）ため、派遣生徒は食文化の違いに驚いたのかもしれません。

食事の時はもちろん、移動中もデンマーク人はおしゃべりをしながら穏やかに時間を過ごすことを好みます。デンマーク人の特徴の一つとして挙げられる「ヒュッグ」という生き

方や時間の使い方から、自分自身の休日にも観光地の行列に並び、リフレッシュどころかかえって疲れるような日本人の典型のようなあくせくした生き方との違いに愕然としました。

Denmark Day5

8/12 Day5

リングフリー校に行って、小学1年生と遊んだり、7年生とかくれんぼやおにごっこをしました。 T.H

8/12 Day5

幼稚園では英語が伝わらず大変でしたが、ジェスチャーなどでがんばりました。 K.F

8/12 Day5

今日はリングの街をたくさん歩いた。幼稚園に行ったのがとても楽しかった。 R.I

8/12 Day5

幼稚園に行くと日本にはない遊具があった。やっぱり小さい子はとても元気だった。 K.T

この日は、リングの街を歩いて回り、多くの人と交流することで、今回の事業のねらいの一つである「交流」に対して大きな成果がみられました。リングフリー校で生徒と交流することができた後、「教会」「図書館」「市役所（表敬訪問）」「幼稚園」そしてリングフリー校に戻り、始業式に参加しました。ちなみに、ヨーロッパでは、8月か9月に新年度が始まるころが殆どであり、リングフリー校の始業式は日本であれば1学期の始業式、つまり年度の始まりということになります。日本の学校では、4月に行われる年度のはじめの始業式や学活は、その一年のルールや雰囲気を示す非常に大切な時間になります。当然ながら文化の違いもあると思いますが、ルールの徹底という意味でもデンマークの学校のおおらかさと、日本の学校の堅苦しさを少し感じました。

派遣生徒たちにとっても、この日が最も交流らしい1日になったように感じました。そうなった理由としては、大きく2つが挙げられると思います。1つ目は、それまでのホストファミリー単位での交流で、ある程度コミュニケーションが取れるという手応えにも似た自信を持った上で、学校や市役所といういわゆる「実社会」で、デンマーク人の中学生や大人と英語を用いて意思疎通をする機会を持つことができたこと。2つ目は、全く言葉が通じない幼稚園児との交流を通して、コミュニケーションで大切なのは、正しい英語表現ではなくて、伝えたいという気持ちだということや、言葉を使わなくても意外とお互いの意思疎通は可能であるということ、嫌が上でも気付かされたことが影響していると考えられます。

Denmark Day6

8/13 Day6

誕生日でリングフリー校のみんなに歌を歌ってもらいHappy。プレゼンは緊張したがミスなく言えた。 T.H

8/13 Day6

みんなで鬼踊りやダンスと歌をしてめっちゃ楽しかった！お好み焼きも楽しすぎました！レゴランドも！ M.S

8/13 Day6

レゴランドに行った。アトラクションはそんなにうまく行かなかったけど楽しい一日だった。 R.I

8/13 Day6

レゴランドのジェットコースターで気絶しかけた。ホストファミリーとの最後の夜でとても悲しい。 S.O

リングでの滞在5日目も、アトラクションが盛りだくさん1日になり、朝から全校生の前で登別の紹介をするプレゼンテーションを行いました。日本を出発する前は、発表する英文をほぼ100%暗記していたのですが、デンマークでの初めての海外滞在経験で英語による情報が過多であったことと、発表が行われたのがリングフリースクールの新年度の始業式のあとという緊張感もあり、力を発揮できなかったことが少し残念でした。しかしながら、プレゼンテーションには、事前に企画調整グループが準備してくださった写真や原稿があったので、概ね内容は伝ったと感じました。

レゴランドは、非常に多くの来園者がいたことやリングフリースクールの生徒たちもレゴランドの乗り物に夢中になってしまっていることもあり、はぐれてしまう生徒たちもいましたが、途中昼食前に点呼をとる機会があったので、再度合流することができていたように思います。レゴランドから戻り、大急ぎで好み焼きの準備にかかりましたが、慣れない環境での調理に加え、同時進行で「紬さんの誕生日セレモニー」の準備が行われたので、準備に1時間以上かかってしまったのは少し失敗でした。しかし、団長が日本から持っていった好み焼きの粉と好み焼きソースに、現地で調達したキャベツや豚肉が合わさり、仕上げにとろけるチーズとマヨネーズでのデコレーションをトッピングして美味しそうな好み焼きが完成しました。デンマークサイズの特大ピザに、交流生徒が作った好み焼きが加わり、やっとお別れパーティのスタートに漕ぎ着けました。諒くんのお好み焼きについての上手な説明も手伝って、好み焼きの周りは、あっという間に人だかりになり、すぐに品切れてしまったので、生徒たちは慌てて追加のお好み焼きを作りに行くことになりました。

紬さんのサプライズ誕生日セレモニーも大成功で終わり、最後にアトラクションの披露の時間になりました。愛空さんがラベルに書いているように、会場にいたすべての人たちが一つの大きな輪になって踊った「鬼踊り」を通して感じた一体感は、交流の成功を象徴するような素晴らしい時間になりました。

Denmark Day7

8/14 Day7

ホストファミリーの子とお別れして本当に悲しかったです。絶対にまたデンマークに行きたい。 T.H

8/14 Day7

ホストファミリーとお別れはとても悲しかったです。みんな号泣。本当に楽しかったです。 Tak! S.H

8/14 Day7

ホストファミリーとお別れしてとても悲しかったです。ホストマザーの最後の弁当…おいしかった A.T

8/15 Day8

日本に帰らずにデンマークにずっといたいと思いました。I love デンマーク A.T

ほんの数日のリングでの滞在でしたが、ラベルにも見られるように、ホストファミリーとお別れは本当に悲しいものであると同時に、一人ひとりが「またデンマークに、リングに帰ってきたい」と思わせるような感動的なものになりました。あるホストマザーが伝えてくれたのですが、「自分の息子と同じ年の子どもが、異国の地で1週間近く過ごすのは、どれだけ不安で勇気のいることなのかを考えると、健気に頑張る生徒たちが我が子のように感じられた」と仰っていました。きっと生徒たちの勇気や頑張りの姿は、周りの人たちへも感動を与えてくれるのだと再確認しました。リング駅のホームで最後の最後まで各家族と別れを惜しみ、電車に乗ってからも涙を流しながら手を振る姿から、生徒たちの交流がホストファミリーたちとの絆になったことが実感され、感動しました。

リング〜オーデンセ〜コペンハーゲンの列車の中でも、ホストファミリーのことを振り返ったり、列車の乗客に日本のお菓子を渡して交流したりと、行きの列車の中の様子とは大きく変化し、一人ひとりの表情からコミュニケーションに対する「自信」のようなものを感じられました。コペンハーゲンに到着した後は、前日にミーティングをして決めていた通り、ほぼ全員が希望していたニューハウンにいき、その後お土産を買ったり散策をしたりする自由時間となりました。コペンハーゲン駅前にある「チボリ公園」というディズニールンドのモデルとなった遊園地へ行きたい生徒たちがいたこともあり、自由時間と移動箇所の枠のみを決めたところ、リーダーを中心に上手に話し合いを行って、時間を上手に使ってコペンハーゲン観光を楽しめたようです。デンマークに到着した時にも、チームワークの芽のようなものを感じていましたが、ホームステイを通して一人ひとりが成長し、それぞれの成長が再びチームとしての大きなまとまりにつながっていることを実感しました。デンマークで過ごした数日の間で、一回りも二回りも大きく成長し、強い一体感を感じられるチームに成長した派遣生徒たちを頼もしく感じました。

Denmark Day8

日本に向けて出発する前日から「台風が関東地方に接近しているために、羽田から乗り換える千歳便が欠航する可能性が大きい」という連絡が企画調整グループから入ってきました。台風が接近しているということは、飛行機も大きく揺れることになることが予想されたとし、デンマーク滞在の疲れも見え始めていた生徒たちに不安な夜を過ごさせる必要はないと考え、出発時の朝食時に生徒たちへ状況を伝えました。生徒たちはあまり深刻に受け止め

ている様子は見られませんでした。帰国日の朝の段階ではコペンハーゲンから離陸した飛行機が羽田に着陸する保証はなく、正直わからないことだらけの状況に少なからず、不安がありました。

まさに、綱渡りの状況を切り抜けられたのは、さまざまな事態を想定して、複数のプランを粘り強く立ててくださった企画調整グループの皆さんと、時差の影響で不安な夜を過ごしながらも、献身的な連絡調整をしてくださった田中団長の貢献があってこそでした。

4. 報告会に向けたまとめの様子と全体を振り返って

帰国後しばらくして新学期が始まったこともあり、デンマークで過ごした日々がまさに夢だったような気さえしました。そういう意味では、報告会に向けて準備する時間が、一人ひとりのデンマークでの日々を振り返り、派遣団全員で共有するような時間になったように思います。報告会に向けた準備を行いながら「こんなことがあったね」「あの時はこう感じていた」というそれぞれの思い出を語りあう時間は、一人ひとりが派遣団と一緒に過ごす時間を惜しんでいるのが伝わり、派遣団への帰属意識や共通体験を持ったことによる一体感を生み出しているように感じました。

中学生という多感な時期に、異国で生活するという体験は、一人ひとりの大きな成長につながり、今後の人生に少なからず影響を与えたいと思います。事実、帰国報告会では生徒たちから「またデンマークに行きたい」や「英語力を向上させたい」という言葉を多く聞くことができました。しかもこの素晴らしい経験を、派遣団のメンバーたちと共有できたということが、より記憶に深く刻み込まれることにつながったと感じました。

中学生という時期は、様々なことがきっかけに、心も体も驚くほど大きく成長すると思いますし、彼らのそんな姿はたくさんのエネルギーを周囲にも与えてくれます。デンマーク派遣を通して生徒一人ひとりが何を感じ、どう考え、そして一人ひとりとしても派遣団全体としても成長する様子を、ラベルを通して見取り、ともに活動することで詳らかに共感させて頂いたことは、教員冥利に尽きる感動を与えてくれました。

末筆になりますが、ともに濃密な時間を過ごした派遣生徒の皆さん、田中団長、そして本事業を支えてくださった全ての方に感謝します。ありがとうございました。



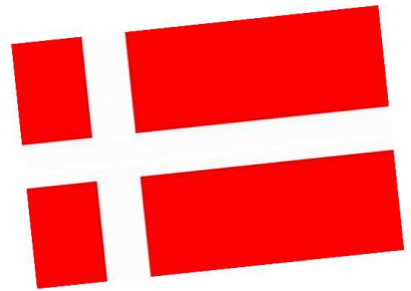
帰国報告会資料 (派遣生徒)

※帰国報告会に向け生徒が実際に作成し、使用したスライドをそのまま掲載しております。



2024.10.02 帰国報告会にて

私たちの デンマークでの思い出



これから、私たちデンマーク派遣参加生徒の発表を始めます。

先ほど、西林先生が発表したとおり、私たちは8泊9日の日程で、デンマークに行ってきました。

デンマークでは、事前に決めた研修テーマに沿って、ひとりひとり現地で調査をしました。

その内容については、後日研修報告書として、登別市の公式ホームページに掲載される予定なので、よかったらそちらもご覧ください。

それでは、さっそくこれまでの派遣団を振り返っていきましょう。

7月3日 結団式

- ・1人1人デンマークで学びたいことを述べました
- ・最初はみんな緊張していました！
- ・違う学校の人とはまだ喋っていませんでした

これからみんな
で頑張りましょう！



まず、7月3日は結団式を行いました。

今年は、明日中等教育学校と、緑陽中学校に二校から学生が集まりました。

最初はみんなが緊張していて、学校が違う仲間とは、まだうまく話せなくて、デンマークに行く実感もあんまり無かったです。

ちょうど3ヶ月くらい前のことですが、とても懐かしく感じる反面、振り返ってみると、派遣団の仲間と出会って3ヶ月しか経っていないことに驚きを感じます。

事前研修のようす

- ・英語、デンマーク語を猛勉強
- ・学校関係なく仲良く研修ができた。
- ・他にも、プレゼンテーションの発表の練習なども頑張りました

英語&デン
マーク語を
勉強中



デンマークで披露
するダンスを練習
中



事前研修は、全部で10回やりました。

最初は、少し多いかな、と思ったけど、終わってから考えると、もう少し回数があってもよかったな、と感じます。

事前研修では、英語とデンマーク語のレッスンをしたり、デンマークで披露するプレゼンテーションや歌、ダンスの練習をしました。

事前研修の最初の方は、みんなが敬語で話したり、仲間との距離感がありましたが、研修の回数が重なるにつれて、どんどん仲良くなっていきました。

仲間たちとコミュニケーションが取れたので、事前研修も大切な思い出です。

DAY1 新千歳空港から羽田空港へ✈

- ・時間ギリギリで飛行機に乗れた！
- ・みんな席離れちゃった！
- ・羽田到着後セブンで最後の日本食

乗った飛行機



ここから、派遣当日の日程について発表します。

まず1日目、出発日の朝は午前5時頃に市役所に集合しました。

市役所のバスで新千歳空港に向かい、羽田空港に向かう飛行機に余裕で間に合う時間には着きましたが、新千歳空港は大混雑していました。

飛行機も遅れ、私たちは本来の搭乗時刻を過ぎても案内されず、本当に飛行機に乗れるのか少し不安になりましたが、結果的にはVIPしか使うことのできないラウンジに案内され、無事に搭乗手続きを済ませることができました。

羽田空港に到着した後、ほんの少しだけ自由時間があったので、みんなでセブンイレブンに行き、出国前に最後の日本食を買いました。

ちなみに、私がここで買ったのは「さけるチーズ」です。

羽田空港からコペンハーゲン国際空港へ✈

- ・コペンハーゲン遠い！
- ・ワイファイ有料
- ・モニターでウノやテトリスなど色々なゲームができた

乗った飛行機



違う席の人とも対戦できました。これがなかったら暇でたまらなかったと思う。



いよいよ羽田空港からデンマークのコペンハーゲン空港に向かう飛行機に乗りましたが、約13時間もぶっとおしで移動した経験なんてありません。

しかも、飛行機の中のWi-Fiは有料だったので、持って行ったスマートフォンも使えず、とってもひまな時間になるかも・・・

と思っていましたが、飛行機には各座席にモニターが付いていて、映画を見たり、UNOやテトリスをして遊ぶことができました。

派遣団の仲間たちで対戦しようと思い、通信機能の対戦モードを使ってみたら、全然知らない人とマッチングして対戦することになったのも思い出です。

機内食タイム



↑一食目(夕食)



↑二食目(朝食)

全体的に美味しかったけれど、パンがすごい硬かった。

緑茶、紅茶、コーヒーマービスがありました！



ドリンクサービス
色々な種類のジュースがありました

最初は長いかもしれない、と不安に思った13時間でしたが、2回の機内食を食べて、仲間とお話したり、仮眠を取ったりしていたら、飛行機の時間はあっという間に過ぎていきました。

機内食は、味も良かったのですが、何より驚いたのが、使い捨てのスプーンやフォークがすべて木製だったことです。

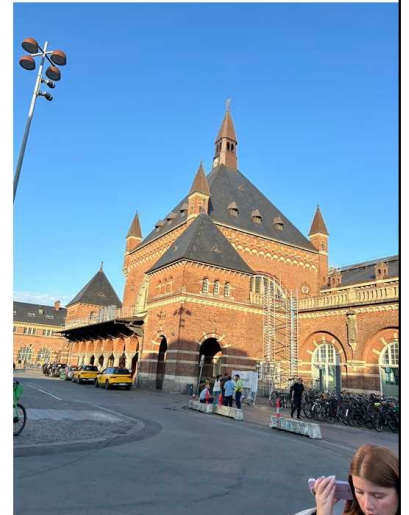
全部の飛行機がこうなっているのかはわかりませんが、環境に配慮したSDGsの取り組みなのかな、と思いました。

飛行機内は、お茶やコーヒー、ジュースなどのサービスがとても充実していて、とても快適に過ごすことができました。

コペンハーゲンに到着

- ・みんな一瞬で入国 ・ホテルに移動
- ・ホテルの隣のスーパーで夜ごはん購入
- ・駅にセブンが二つもあった！
- ・外国にきたという実感が湧いてきた！

コペンハーゲン
中央駅



コペンハーゲン空港に到着して、みんな緊張しながら入国審査を受けましたが、思ったよりあっさりと入国審査が終わりました。

空港から電車でコペンハーゲン駅に行き、着いたらセブンイレブンやスターバックスがあり、日本でも見かけるお店だったので、少し親近感が湧きました。

DAY2 電車でオーデンセへ→アンデルセン博物館

- ・オーデンセ、なかなかの大雨
- ・オーデンセ駅で一部のホストファミリーと合流
- ・オーデンセ駅アンデルセン博物館へ
- ・その後リングで全員のホストファミリーと合流



オーデンセ
駅での昼食



博物館、英語と
中国語しかなく
つまらない人々

2日目は電車でオーデンセに向かいましたが、けっこうな大雨でした。
オーデンセで、みんながお世話になったホストファミリーのうち、複数の家庭が
迎えに来てくれて、合流しました。

この日お昼ごはんはサンドイッチのようなものと、シェイクを飲みました。
お昼ごはんを食べ終わった後は、アンデルセン博物館を見学しました。

博物館では、展示物の説明をヘッドフォンで聴くことができたのですが、残念な
がら日本語は用意されていなくて、英語と中国語しかありませんでした。

事前研修で学んだ英語のおかげで、内容を完璧に理解・・・
できればよかったのですが、残念ながら私たちにはまだ少し早かったです。

展示物は雰囲気のある物ばかりで、とても感動しましたが、説明を理解するこ
とができなかったことが心残りです。

いつか大人になって、またデンマークに行った時は、しっかり理解できるように
勉強を頑張りたいです。

博物館を後にした私たちは、また電車に乗り、ホームステイで滞在した町、リン
ゲに向かい、ホストファミリーの家に行きました。

DAY3 ホストファミリーと過ごしました



ホストファミリーとの交流の様子を後で1人1人発表してもらいます！

3日目は、それぞれのホストファミリーと過ごす時間でした。

ホストファミリーと過ごした時間は、派遣団の仲間9人それぞれの思い出があるので、後ほどひとりひとり発表したいと思います。

DAY4 イーエスコウ城

- ・マリパークニクスのモデルになった城
- ・大きさもマリパークと同じ！



この人形を動かすとイーエスコウ城が崩れる！？
という言い伝えがあるらしい

木と木の間にこんな遊具があった！
5メートルくらいで結構高かった！



4日目は、ここ登別市にあるマリパークニクスの、ニクス城のモデルとなったイーエスコウ城に行きました。

実際のお城の大きさも、ニクス城と同じだと聞いていたので、初めて見た時はニクス城の再現度の高さに驚きました。

もちろん本物はイーエスコウ城ですが、登別で生まれ育った私からすると、ニクス城が近くにある環境だったので、初めて見たお城でも、なんだか懐かしく感じました。

お城の外観はそっくりでしたが、中は全然違って、魚はいませんでした。

魚の代わりに、ドレスが展示されていたり、ちょっとでも動かしたらお城が崩れるという言い伝えがある人形がありました。

また、ニクス城の外には観覧車がありますが、イーエスコウ城の外には木と木の間を渡るような遊具があったり、お土産屋さんがあったりと、ニクス城もイーエスコウ城も、外観がそっくりなだけではなく、私たちを楽しませてくれる場所という意味でもそっくりなことがわかりました。

イーエスコウ城での交流のようす！



ホストファミリー
ーにアイスを奢
ってもらった
よ！



ホストファミリ
ーたちとお昼ご
はん！

イーエスコウ城では、お昼ごはんを食べた後にアイスを食べたり、トランポリンなどをしました。

イーエスコウ城を見学した時は、ホストファミリーにお世話になったので、もし私たちがお世話になったホストファミリーが日本に来る機会があれば、次は私たちがニクス城を案内してあげたいです。

DAY5 リンゲフリー校で遊ぶ

- ・野球っぽいスポーツをして遊ぶ
- ・楽しい遊具がたくさんあった！
- ・みんなでかくれんぼしたけれど、一瞬でみんな見つかった



5日目は、リンゲにあるリンゲフリー校という学校に行きました。

リンゲフリー校では、野球のようなスポーツをしたり、みんなでかくれんぼをしたりして遊びました。

特に、かくれんぼのレベルは日本と全然違い、私たちはすぐに見つかりましたが、一緒に遊んだデンマーク人の男の子は、木の上に隠れている子がいてびっくりしました。

学校では、みんなのびのびと過ごしていて、日本の学校とは全然違うと感じました。

市役所表敬訪問

- ・団長、無事プレゼントを渡せました！
- ・市長の話難しい&英語が難しい
- ・市役所の内装がとてもきれい



市長とみんな仲良く集合写真



リングフリー校を後にした私たちは、登別市と友好都市であるファボー・ミッドフン市の市役所に表敬訪問しました。

市役所は、登別市役所とは違い、おしゃれで綺麗なところでした。

私たち派遣団は、登別市役所の方から、日本のお土産を預かっていて、向こうの市長にはお土産として、派遣団の団長からTシャツを渡しました。

向こうの市長から、色々なお話を聞かせていただきましたが、内容が難しかったことと、英語の聞き取りが難しかったことが記憶に残っています。

初めて海外に行きましたが、英語でコミュニケーションが取れると、もっと有意義な時間になったかもしれない考えると、これからの英語の勉強に力が入る気持ちになりました。

幼稚園訪問

- ・園児に英語が伝わらなかった
- ・日本の幼稚園より結構自由だった
- ・みんなかわいかった。
- ・幼稚園児と一緒に遊んだ



市役所訪問の後には、デンマークの幼稚園に行きました。

私たちも、用意園児くらいの頃は、日本語ですら簡単なものしか使えなく、英語なんて全くわからなかったと思います。

デンマークの幼稚園児も一緒に、英語は全く通じなかったです。

きっと、デンマークの幼稚園児から見たら、私たちは変な言葉を話す集団に見えたことでしょう。

言葉は通じなくとも、みんなとても元気で、何よりかわいかったです。

みんなで滑り台をしたり、ブランコに乗ったり、追いかっこをしたりして遊びました。

DAY6 プレゼンテーション

全員とても緊張したけれどいい発表になってよかった！



6日目は、事前研修で練習したプレゼンテーションを、リングフリー校の生徒の前で発表しました。

デンマークに出発する前に、たくさんの方の前で発表すると聞いていましたが、言葉どおりたくさんの方がいました。

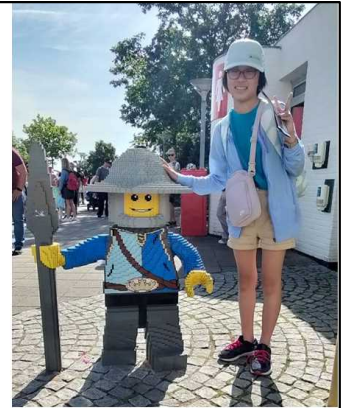
今年は、登別のことについて、英語でプレゼンテーションをしましたが、とても緊張しました。

それでも、発表が終わると、リングフリー校の校長先生から「良い発表だった」とほめてもらえて、とても嬉しかったです。

発表が終わった後、みんなが楽しみにしていたレゴランドに行きました。

レゴランド

- ・めっちゃ楽しかった！
- ・とにかく広い！
- ・楽しいアトラクションがたくさんあった！



レゴランドは、とても広く、楽しいアトラクションがたくさんありました。

絶叫系のトラクションもたくさんあって、みんなで色々なアトラクションに乗って楽しみました。

また、レゴランドの中のオブジェもレゴブロックで作られた作品だったり、お土産もレゴに関係するもので、他では見られないものばかりで、とても楽しい時間でした。

お好み焼きづくり！

・フライパンがみつけれなくて、一時大混乱

{裏ではつむぎの誕生日サプライズ準備中！}



レゴランドでたくさん楽しんだ私たちは、再びリンゲフリー校に戻り、お別れパーティーの準備に取りかかりました。

パーティーに日本の料理を出そうと思い、日本を出発する前にみんなで話し合い、お好み焼きを作ると決めていました。

日本国内では、団長がお好み焼きのソースや粉を準備してくれて、西林先生はデンマークの現地で、豚肉やキャベツなどを準備してくれました。

そして、実は今年の派遣団の「ひぐち つむぎ」さんが、派遣期間中にお誕生日を迎えることがわかっていたので、こっそりサプライズの準備もしました。

お好み焼き作りに、サプライズの準備で、時間が全然なくて忙しかったです。

パーティー開始！

- ・お好み焼き大人気！
- ・つむぎの誕生日サプライズ大成功🎵
- ・ピザ超デカかった



いよいよ、お別れパーティーが始まりました。

ホストファミリーが作ってくれた料理が並び、私たちが作ったお好み焼きが並び、日本じゃ見たこともないくらい大きなピザも並び、たくさんの料理がありました。

なかでも、私たちが作ったお好み焼きが、デンマークの人に大人気で、追加で作ったくらいです。

そして、無事につむぎさんの誕生日サプライズも成功し、パーティーは最後の発表に入りました。

アトラクション発表

- ・「Bling-Bang-Bang-Born」知っている人が結構いた。
- ・「カイト」は少し失敗しちゃったけど最後まで歌えた
- ・鬼踊りみんなで楽しく踊れた！
- ・最高の発表だったねと褒めてくれた。



私たちがアトラクションと呼んでいた、感謝の気持ちを伝えるための歌とダンスを披露しました。

今年は、日本で放送していたアニメの曲で、「ブリンバンバンボン」を踊りましたが、デンマークでも知っている人が結構いて、盛り上がりました。

歌は、東京オリンピックの時に使われていた「カイト」という曲を歌いましたが、歌い出しがスムーズにいかず、少し失敗した部分もあったけど、無事に最後まで歌いすることができました。

最後は、登別の地獄まつりでみんなが踊る「鬼踊り」を、デンマークの人たちと一緒に踊りました。

みんなに鬼のお面を配り、大きな輪になって踊ったことは、忘れられません。

発表が終わった後、最高の発表だったとほめてもらったことも、今までの練習の成果がしっかり出たと感じられて、嬉しかったです。

DAY7 お別れ

- ・駅でみんな見送りに来てくれた
- ・乗車後、電車内で大号泣



7日目の朝、いよいよ、ホストファミリーとのお別れの時間になりました。

リングゲ駅を出発する時、ホストファミリーのみんなが駅まで見送りに来てくれて、別れの時間を惜しみました。

私たちがデンマークでホームステイをしたのは、たったの数日です。

今までの人生や、これからの人生の時間で考えると、0.1%に満たない時間かもしれません。

ですが私たちは、この経験を、この0.1%の時間を一生忘れることはないでしょう。

感動だったり、さみしさだったり、みんなそれぞれ思うことはあったと思いますが、みんながリングゲから離れる電車の中で泣きました。

素敵な時間を過ごしたリングゲを後にして、私たちはデンマークで初めて降り立った地、コペンハーゲンに再び向かいます。

ニューハウン

- ・久々のコペンハーゲン
- ・ニューハウンめっちゃキレイ！
- ・街並みはきれいだけどところどころにタバコの匂いが…



川からボートに乗って見る
ことも可能！

道中にて



コペンハーゲンの市役所。市役所に見えない

電車の中で涙も引っ込み、無事コペンハーゲンに到着しました。

ニューハウンという港に行きましたが、建物がとてもカラフルで、日本では見かけない光景でした。

せっかく綺麗な街並みでしたが、ところどころ、タバコの臭いがしました。

日本では、街を歩いてもタバコの臭いがすることはほとんど無いので、こういったところも日本との違いなのかな、と感じました。

お買い物タイム

- ・グループにわかれて買い物タイム
- ・みんな爆買いしてました

日本のお菓子も
売っていまし
た！



スタバがと
ても高かつ
た！



コペンハーゲンでは、みんな思い思いに買い物をする時間を取りました。

いくつかのグループに分かれて買い物をしましたが、どのグループも、たくさん買い物をしたみたいです。

ちなみに、日本のお菓子も売っていました。

チボリ公園

- ・日本ではあまり見ない上下に動く空中ブランコがあった！
- ・とても早く回る観覧車があった
- ・とても広くとても楽しめた！



買い物を終え、夕方からはチボリ公園という、世界最古と言われている遊園地に行きました。

日本ではあまり見ないタイプの、上下に動く空中ブランコがあったり、ちょっと早く回る観覧車や、ジェットコースターなどに乗りました。

チボリ公園は、レゴランドと比べて、絶叫系のアトラクションが多い印象でした。

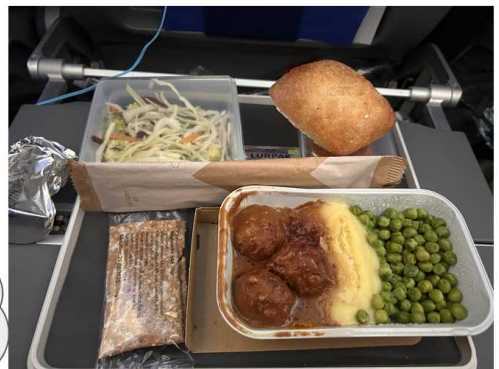
この日はチボリ公園で遊んだ後、ホテルでデンマーク最後の夜を過ごしました。

DAY8 飛行機で羽田へ

- ・ みんな疲れて寝てる
- ・ やっぱり遠い。暇。

帰りもパン
硬かった...

おいしい！



8日目、この日がデンマーク最終日でした。

コペンハーゲン空港から飛行機で日本の羽田空港に向けて移動でしたが、デンマークに来る時、13時間のフライトをしたということは、日本に帰る時も13時間のフライトが必要になります。

行くときは、疲れありませんでしたし、わくわくした気持ちがあったので、そんなに長いとは思いませんでしたが、帰りの飛行機は長かったです。

みんな疲れていて、寝ていましたし、デンマークで慣れない生活をした疲れと、飛行機の中で長時間過ごすことの辛さをみんな知っているの、行きよりもだいぶ長く感じました。

羽田→新千歳→登別

- ・日本に着いた安心感&疲れ
- ・新千歳で三人が離脱
- ・市役所でのお迎え職員がたくさん来てくれた！



ただいまー！

日本に無事到着し、羽田空港から新千歳空港に帰ってきました。

新千歳空港まで迎えに来てくれた市役所の方もいたり、なんとなくですが、帰ってきたんだな、という気持ちになりました。

新千歳空港から、直接自宅に帰る人もいたので、全員で登別市役所に向かうことはできませんでしたが、登別市役所では、たくさんの職員の方に出迎えていただきました。

ここからはまとめになりますが、私たちはデンマークに行き、たくさんの貴重な経験をすることができました。

国というか、文化や生活の違いを、自分の肌で体験できたことは、私たちにとって大きな影響がありました。

デンマークの人は、みんな優しく、気遣いができて、明るく楽しいという印象が強いです。

私たち派遣団は、デンマークでお世話になったホストファミリーのみんなと、SNSなどの連絡先を交換してきました。

今後も、デンマークの方々と連絡を続け、もっと、もっと仲良くなり、また必ずデンマークに会いに行きます。

ここからは、1人ずつホストファミリーとの思い出を発表してもらいます！！

続けて、ここからは、ひとりひとりホストファミリーとの思い出を発表してもらいます。

最初は学生リーダーの「ふなた こうき」さん、お願いします。

船田 光希 ホストファミリーとの思い出

- ・家の鶏舎の2階に秘密基地があり、そのブランコやターザンでたくさん遊んだ。
- ・ごはん中に日本とデンマークのことを質問しあった。

たくさん交流できました！



僕は、自分のホストファミリーと清真のホストファミリーの家にホームステイしました。

一番驚いたことは、敷地のでかさです。

清真のホストファミリーの家では、ニワトリと豚を飼っており、鶏舎の2階には、ブランコやターザンロープがある秘密基地がありました。

やる前は怪我しそうで怖かったですが、一度やってみるととても楽しかったです。

ご飯を食べる時は、日本語を教えてあげたり、デンマークの特徴などを聞いたりして、たくさん交流することができました。

- ・ レゴランドやイーエスコウ城などで色々奢ってもらった
- ・ 他のホストファミリーとも一緒に焼きマシュマロを食べた。
とても美味しかった。



レゴランドやイーエスコウ城では、一緒にアイスやわたあめを食べました。

アイスの上にはいちごジャムが乗っていて、びっくりしました。

他のホストファミリーとも食事をし、食べ終わったらみんなでトランポリンをしました。

お別れパーティーでは、発表の後、「ユー・アー・レジェンド」と言われたことが印象に残っています。

今は、スマホを使ってホストファミリーと連絡をしています。

これからも交流を続けていきたいと思います。

伊藤 諒 ホストファミリーとの思い出

- ・庭で肉を焼いてくれた
- ・オリンピックを一緒に見て、日本やデンマークの選手を応援した！



- ・朝食のパンを朝食直前にパン屋に買いに行った！

僕は、ホストファミリーとのたくさんの思い出がありました。

行った初日、庭のコンロで肉を焼いてくれました。

デンマーク産の豚肉で、肉汁が多くてとても美味しかったです。

ホストファミリーの家に滞在している間に、ちょうどオリンピックをやっていたので、一緒に日本の選手とデンマークの選手を応援しました。

朝食は基本パンで、朝パン屋に買いに行った日もありました。

・トランポリンが家にあった！
夜遅くまでやった日もあった



・飼い犬と広い庭で遊んだ！す
ごく元気な犬だった。



庭には、トランポリンがあって、夜の２１時くらいまでやっていた日もありまし
た。

デンマークは日本よりも緯度が高いので、夜の２１時くらいまでは明るかったで
す。

犬を飼っていて、一緒に遊んだ時もありました。
とても足が速くて驚きました。

これで終わります。

佐藤 希 ホストファミリーとの思い出



・家で、「エルサ」という猫を飼っていた。とっても可愛かった



ホストファミリーの家に着くと、ホストファミリーたちと、猫のエルサが迎えてくれました。

エルサはとてもシャイで、近づくとすぐに逃げてしまいました。

・ホストファミリーと寿司を食べた。テリヤキソースで食べて、米が酢飯じゃなかったけれど、美味しかった。



そして、ホストファミリーの家に着くと、ホストファミリーが寿司を出してくれました。

寿司はデンマークではテリヤキソースで食べるのが一般的だそうです。

私は自分で持ってきていた醤油を使ってたべて、その醤油を干すとファミリーにプレゼントすると、とても喜んでくれました。

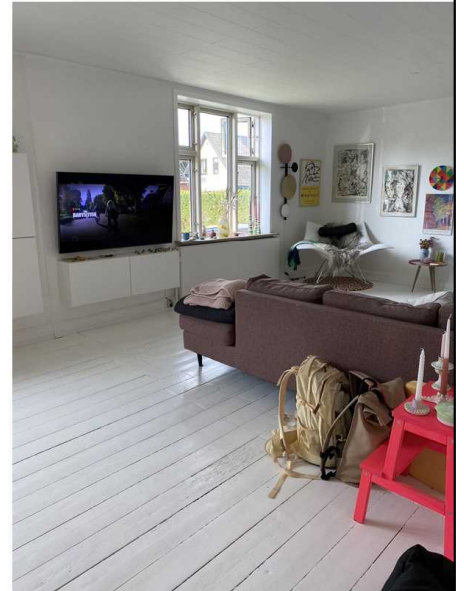
また、寿司を食べながら、ちゃぶ台や座布団などの日本語を教えてあげることもできました。

杉山 愛空 ホストファミリーとの思い出

・家の中がおしゃれすぎた ✨



トイレにハンドクリー
ムがあった。
美意識高めだなあ



私のホストファミリーのお家は、家具や絵が全ておしゃれで、バスタオルが全部ヴィトンだったことにびっくりしました。

トイレの、手を洗うところにはハンドクリームが置いてあって、美意識も高めだなと思いました。

庭には、りんごの木が植えてあって、みんなで食べました。
美味しかったです。

・グミがとっても甘かったけれど、美味しかった！

・ホストファミリーと周ったレゴランドがとっても楽しかった！



金曜日の夜には、姉妹で映画を見ているそうで、私も一緒に映画をグミをお皿に入れて食べながら見ました。

すごい甘いグミだったけど、とても美味しかったです。

レゴランドでは、日本には無いような水をかけ合うアトラクションもあり、ホストファミリーの人たちととても楽しむことができました。

及川 さくら ホストファミリーとの思い出

- ・ビーチに行ってジャンピングというもので遊んだ。
- ・他のホストファミリーもいて友達がたくさんできた。
- ・ビーチにミニゴルフというものがあって
のぞみちゃんとそのホストファミリーと同じチーム
で楽しんだ。



ホストファミリーと1日過ごす日に、ビーチへ行きました。

「ジャンピング」というトランポリンみたいなもので遊びました。

他のホストファミリーとも一緒に遊んで、友だちがたくさんできました。

最後に、のぞみちゃんとそのホストファミリーで「ミニゴルフ」というものをしました。

いろんな仕掛けがあって面白かったです。

- ・湖へ鳥の餌やり行ったら、鳥が陸にあがってきた。
とても怖かった。



- ・湖に鳥の餌やりをしに行った。
そしたらどんどん陸地に上がってきた。



イーエスコウ城から帰った後、湖で鳥のエサやりに行きました。

エサをあげたら鳥が湖から陸地へ上がってきたので、怖かったです。

ホストファミリーとたくさんの思い出を作ることができました。

また絶対に会いに行きたいです。

樋口 紬 ホストファミリーとの思い出

・ホストファミリーの家でバスケットボールをした🏀



・デンマークの伝統的なデザートを出してもらった



私のホストファミリーとの思い出は、まずホストファミリーと、その兄弟とバスケットをしたことです。

家の庭にバスケットゴールが置かれていて、シュートを打って楽しみました。

他にも庭を紹介してくれたり、リコリスの素となる草を食べさせてくれたりしました。

次に、デンマークで伝統的なデザートを出してくれたことです。

ベリーが入っていて、すっぱかったけど、クリームをかけると少し甘くなっておいしかったです。

日本では感じられない味でした。

・ホストファミリーにも誕生日を祝ってもらえた！



・ホストファミリーとても優しくて、喋りやすかった。
絶対また会いたい！



最後に、誕生日の日です。

お別れパーティーが終わって、家に帰ってきた時に誕生日プレゼントでレゴをもらいました。

私のホストファミリーは、家族みんな優しくて、しゃべりやすく、本当に最高の思い出になりました。

必ずまたデンマークに行って会いに行きたいです。

土崎 有紗 ホストファミリーとの思い出

- ・ みんなで猫と遊んだ。可愛かった
- ・ 美味しいご飯がたくさんあった!!



私のホストファミリーとの思い出は、とてもたくさんありすぎて、数え切れないほど幸せな時間を過ごせました。

その中でも、特に思い出に残っているものを紹介します。

まずは、ホストファミリーの家で飼っていた猫と遊んだことです。

人懐っこい猫で、おもちゃのねずみで遊びました。

おもちゃも猫も可愛くて、幸せな気持ちになりました。

次に、ご飯です。

デンマークには美味しいご飯がたくさんありました。

家ではパンをたくさん出してくれて、アレンジがとても楽しかったです。

伝統的なデザートを作ってくれて、とってもとっても美味しかったです。

・ホストファミリー優しすぎた

・家がとてもきれい



次に、ホストファミリーが優しすぎたことです。

デンマークに旅立ち、親と離れて不安な私を、笑顔で受け入れてくれました。

一緒に遊んだりしてくれて、笑顔が絶えませんでした。

最後に、家がとてもきれいだったことです。

お家が広くて、ご飯を食べる時にスピーカーからジャズが流れていて、とてもおしゃれでした。

お庭がとても広くて、花がたくさん咲いていて、きれいでした。

私が行ったホストファミリーのみんなは優しくて、英語で話すのがとても楽しかったです。

花田 幸弓 ホストファミリーとの思い出

- ・最初のご飯はピザだった！
- ・家族みんなフレンドリーで楽しかった！



私は、ホームステイ先が2軒でした。

最初のホームステイ先では、最初のご飯はピザで、とても大きい1カットで、とても驚きました。

2軒のホストファミリーたちは、みんなとてもフレンドリーで、とても楽しかったです。

ホストファミリーとの思い出

- ・ ホストファミリーが変わった！
- ・ アイス食べに連れてってもらった！
- ・ お揃いのキーホルダーを作った！



⇒



このスライドでは、2軒目のホストファミリーたちについて紹介します。

家の近くの海に連れて行ってもらい、海の近くにあるアイス屋さんに行きました。

日本では食べたことのないレモンとチョコ味を食べました。

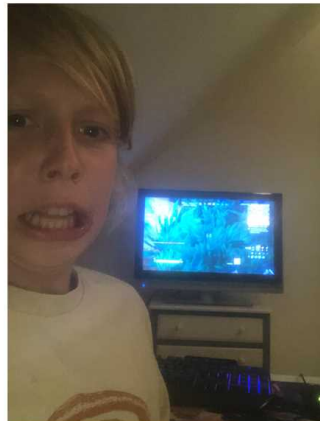
とても美味しかったです。

お揃いのキーホルダーを作って、仲を深めました。

とても良い経験になりました。

谷村清真 ホストファミリーとの思い出

・ホストファミリーといっしょに卓球とゲームをした！



ホストファミリーの家に着くと、僕と同じゲームが好きだということがわかりました。

なので、ホストファミリーの部屋でゲームを楽しみました。

次の日には、本格的な道具を使って卓球をしました。

家にこんな本格的な道具があるのかと驚きました。

卓球の勝負は、ぼろ負けしました。

・ゴーカートの的なやつで一緒に遊んだ



公園に行った時には、様々な道具を使って遊んでいました。

様々な道具がありましたが、本格的なゴーカートがあって遊びました。

ホストファミリーと一緒にゴーカートに乗りましたが、早すぎてジェットコースターに乗っているのかと勘違いしてしまいました。

終わり

これで、私たちデンマーク派遣団の生徒発表を終わります。

私たちがデンマークで過ごしてきた時間や、学んだことについて、少しでも伝わったでしょうか。

今回の派遣団は、よい仲間たちに恵まれ、とても楽しく過ごすことができました。

また、楽しいだけではなく、それぞれが決めた研修テーマに沿って、探究を深めることもできました。

最後までご静聴いただき、ありがとうございました。

帰国報告会資料 (引率者)



デンマーク王国 リンゲブリー校にて

引率者視点からの派遣報告

- ①中学校教員（学級担任）としての視点
派遣中学生の団（集団）としての一体感の向上
- ②英語教師としての視点
派遣中学生一人ひとりのコミュニケーション能力の向上
- ③派遣団員としての視点
デンマーク派遣事業を通して学んだこと

Day 1 8 月 8 日 (Thu)

時間	スケジュール
5:30-	登別市役所集合
7:30- 9:05	新千歳空港→✈→羽田空港
11:45-18:15	羽田空港→✈→コペンハーゲン空港
20:00-21:00	コペンハーゲン空港→🚉→コペンハーゲン駅
21:00-21:30	夜食・水を買いにホテル隣のスーパーへ

Day2 8月9日 (Fri)

時間	スケジュール
6:30-	早朝の散歩
10:30-11:55	コペンハーゲン駅→  →オーデンセ
12:30-15:30	アネさんと合流→アンデルセン・ミュージアム
15:52-16:20	オーデンセ→  →リング駅
16:30-	駅で大歓迎を受けてホームスティ先へ

Day3 8月10日（Sat）

時間	スケジュール
引率・幸弓	（ランニング）→朝食→エーア島→
紬・有紗	エーア島→スヴェンボー→釣り
光希・清真	
さくら・希	近くの海岸でピクニック＆ミニゴルフ
諒	ホームスティ先

Day4 8月11日（Sun）

時間	スケジュール
10:00-	リンゲフリースクールに集合
10:00-10:30	自家用車に分乗してイーエスコウ城へ
10:30-11:00	城見学（伝説の人形）→博物館→お弁当
13:00-16:00	迷路・遊具＆アスレチック・木の上の道・各種博物館
16:30-	解散してホームスティ先へ

Day5 8月12日（Mon）

時間	スケジュール
8:00-	リンゲフリースクールに集合→校内案内見学
8:30-10:00	フリースクールの生徒と交流：ラウンドボール・鬼ごっこ
10:00-17:00	教会→図書館→市長表敬訪問→お弁当→森の幼稚園
17:00-19:00	始業ピクニック
19:30-	解散してホームスティ先へ

Day6 8月13日 (Tue)

時間	スケジュール
7:45-	リンゲフリースクールに集合
8:00- 8:40	フリースクール全校生徒の前でプレゼンテーション
9:00-17:00	学校🚌→レゴランド🚌→学校
17:00-19:00	お別れパーティ準備（お好み焼きづくり）
19:00-20:00	お別れパーティ・アトラクション

Day7 8月14日 (Wed)

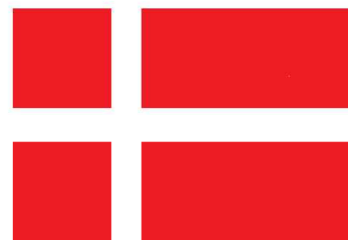
時間	スケジュール
9:00-	リングゲ駅に集合
9:21-12:00	リングゲ🚆→オーデンセ🚆→コペンハーゲン
13:00-	ホテル→ニューハウン→ストロイエ
14:30-17:30	お土産＆買い物タイム
17:30-20:30	チボリ公園

Day8 8月15日 (Thu)

時間	スケジュール
9:30-	ホテル出発
9:30- 9:42	コペンハーゲン駅🚆→✈コペンハーゲン空港
12:45- 7:55	コペンハーゲン空港→✈→羽田空港
11:00-13:35	羽田空港→✈→千歳空港
13:45-14:30	千歳空港→🚗→登別市役所

令和6年度登別市デンマーク友好都市 中学生派遣交流団帰国報告会

《団長あいさつ》



登別市市民生活部税務グループ

主査 田中 健太郎

本日はこのような場を開いていただき、ありがとうございます。

7月3日にこの団が結成して、約3ヶ月、無事にデンマークを訪問し、本日まで活動できたことは、皆さま方の支え・ご協力のおかげです。

先ほど、生徒達が非常に良い発表をしてくれたので、最後に重責を感じているとともに、3ヶ月前からの動画も見させていただき、今は、様々な思い出がこみ上げてきまして、非常に感慨深い気持ちです。

団長としての最後の挨拶ということですが、報告も交えながら進めさせていただきたいと思います。



01 自己紹介

02 交流の歴史を実感！

03 生徒達の成長を実感！

04 まとめ

05 関係者の皆様へ

まず、本日、関係者が多くご参加いただいておりますが、本日、私が初めてお会いする方もいらっしゃいますので、簡単に自己紹介させていただきます。



01 自己紹介

02 交流の歴史を実感！

03 生徒達の成長を実感！

04 まとめ

05 関係者の皆様へ

次に、派遣期間中に特に印象に残ったこととして、
「交流の歴史を実感！」したこと・・・



01 自己紹介

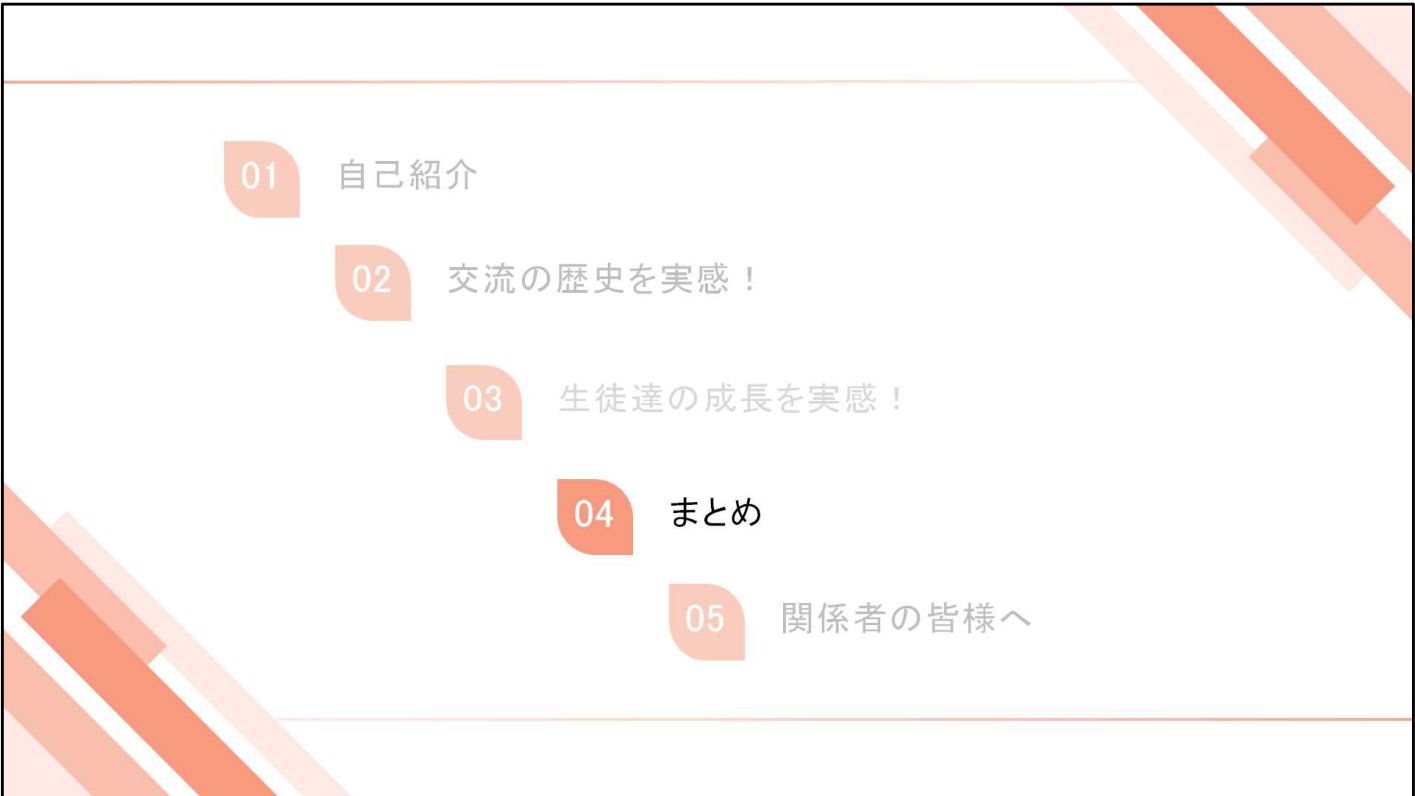
02 交流の歴史を実感！

03 生徒達の成長を実感！

04 まとめ

05 関係者の皆様へ

そして、「生徒達の成長を実感！」したことをエピソードを交えて、少し紹介させていただき・・・



01 自己紹介

02 交流の歴史を実感！

03 生徒達の成長を実感！

04 まとめ

05 関係者の皆様へ

最後に、本研修事業の「まとめ」の報告として、成果などをお話しさせていただきます。



01 自己紹介

02 交流の歴史を実感！

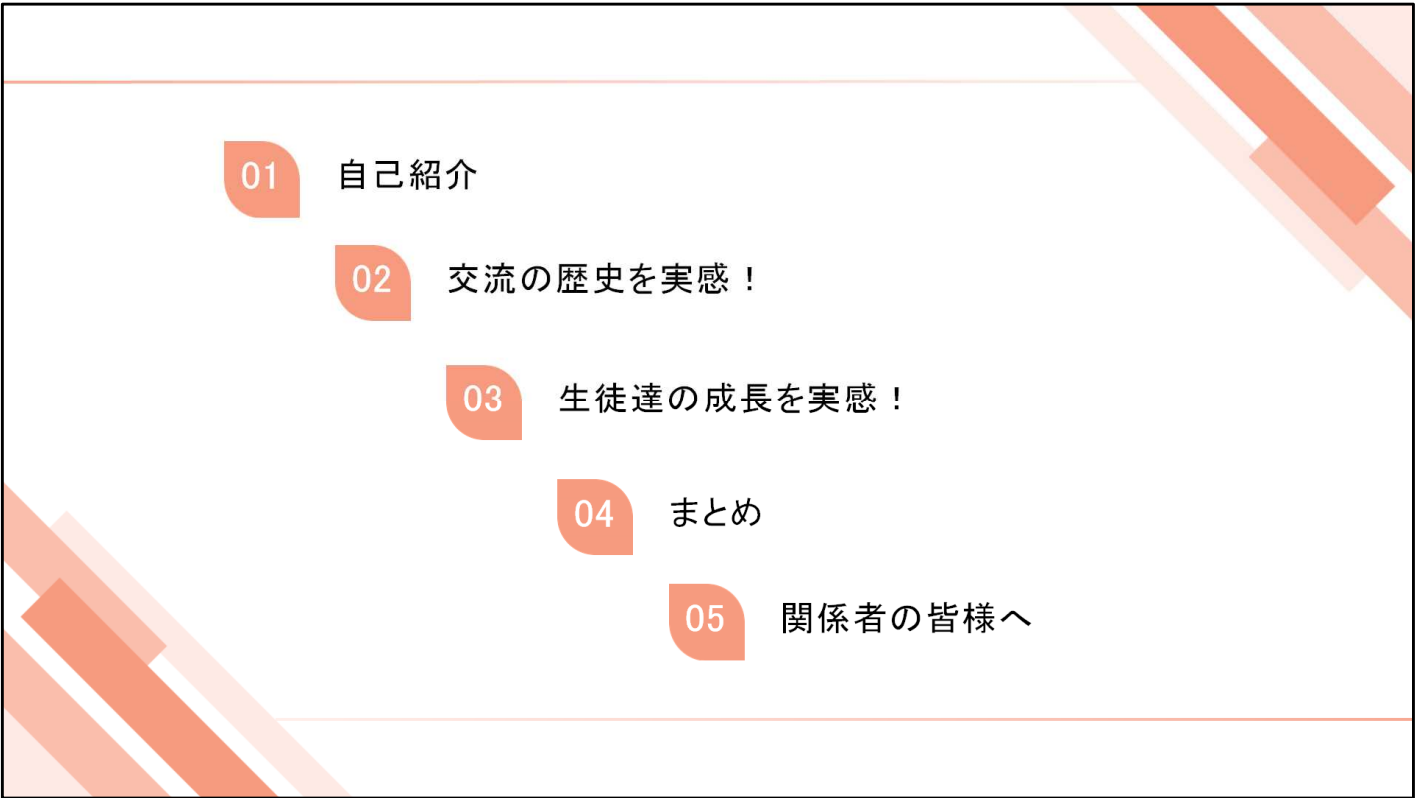
03 生徒達の成長を実感！

04 まとめ

05 関係者の皆様へ

ここまで長時間でしたが、あと少しの時間お付き合いいただきたくお願いいたします。

（団長視点の報告ですので、真面目な話しが多いですけど、ぜひリラックスしながら聞いていただければと思います。）



01 自己紹介

02 交流の歴史を実感！

03 生徒達の成長を実感！

04 まとめ

05 関係者の皆様へ

どうぞよろしくお願いいたします。

自己紹介

はじめに、自己紹介ですが、
改めまして、今年度の団長で 登別市役所税務グループに所属している「田中 健太郎」と申します。

私は、市役所に20年くらい勤務させていただいております。
そのうち、7年間は、観光客の誘致などを担当する部署に在籍しており、海外から観光客を登別市に誘致するためにターゲットとする国や地域の情報収集したり、実際、国外にプロモーションに行っていました。そういった経緯で、海外に興味を持ち始めまして・・・

本事業につきましても、10年以上前になりますが、企画調整グループに在籍していた頃にスポット的に関わらせていただいたこともあり、いつかこの事業に参加できたら良いなと思っておりました。

今回、派遣されたことを色々な方に話すと、職員を含め、「税務グループの職員がなんで今回派遣されてるんですか？」とよく聞かれたのですが、職員研修という位置づけで今回、団長を務めさせていただくことになりました。

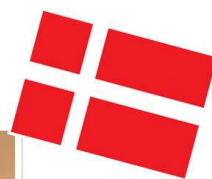
交流の歴史を実感！

さて、西林先生や派遣生徒の皆さんが、行程や思い出について、詳しく話してくれました。

私もたくさん話したいことがあるのですが、限られた時間ですので、少しだけお話しさせていただきたいと思います。

まずは、30年以上続いてきている本事業ですが、現地に行って、「登別とリングが育んできた交流の歴史」を実感できるエピソードが2つほどありましたので、ここで紹介させていただきます。

交流の歴史を実感！



リングフリースクールには過去に贈呈した
ポスターやお土産品が！

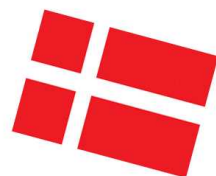
1つ目は、リングフリー校に行ったときに、過去に本市の派遣団が贈呈したポスターや特産品が展示されていました。

ガラスの展示ケースの中にキレイに並べられて保管されていたり、生徒達の目に付きやすい場所に設置されていたりしました。

リングフリー校がこの交流を大切にしてきたことを感じつつ、派遣交流がなかった歴史の深さを目で感じることができました。

交流の歴史を実感！

永年にわたり本市との交流に尽力されてきた
「リズィ・サンダー」さんとの交流



【リングゲ駅】



【市役所訪問】



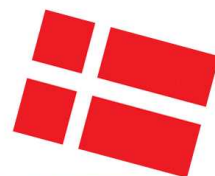
【お別れ会】

2つ目は、本市との国際交流の推進に大きく関わり「登別市功労者」や「北海道社会貢献賞」などの表彰を受けている「リズィ・サンダー」さんにもお会いしました。

既に90歳を超えていると伺ってましたが、滞在2日目のリングゲ駅でのお迎え、滞在5日目の市役所訪問、滞在6日目のお別れパーティーと、全部で3回も顔を見せてくれるなど、とても元気そうでした。

交流の歴史を実感！

昨季までリングフリースクールの校長であり、
本事業のキーパーソン「アネ」さんとの交流



【現在】



【20年前のアルバム】

また、私と西林先生のホームステイ先は、昨季までリングフリー校の校長を務め、本事業の交流のキーパーソンでもあります「アネ」さん宅でした。

20年近く前に登別を訪れたときのアルバムを見せてくれて、当時のことを懐かしそうに話してくれました。

リズィさんやアネさんは、以前から交流のあった方々が今どうしているのか、とても気にかけていました。

名前が出てきた方の中には、残念ながら、亡くなってしまった方もいましたが、過去に団長を務めてきた職員の名前や、本日お越し下さっている、鈴木さん、東さんなどの名前が出ていました。

アネさんやリズィさんから聞く名前は、私にとっても懐かしく、共通の話題としてお話しできたことがとても嬉しかったです。

また、交流が永年続いてきているということをととても実感できました。

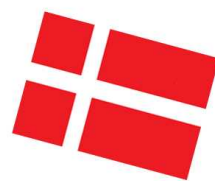
生徒達の成長を実感！

次に、生徒達の成長について、先ほどの、生徒達の発表や動画にもありましたが、

団の結成から少したった頃までは、日本人同士で、しかも、普段使っている日本語で会話できるのに、どこかぎこちなく話していたように見えたが、事前研修の回を重ねる毎に、事前研修も盛り上がるようになり、お互いのキャラクターを理解し合い、学年の垣根を越えて「個」から「団」に変わって行く姿が見て取れました。

生徒達の成長を実感！

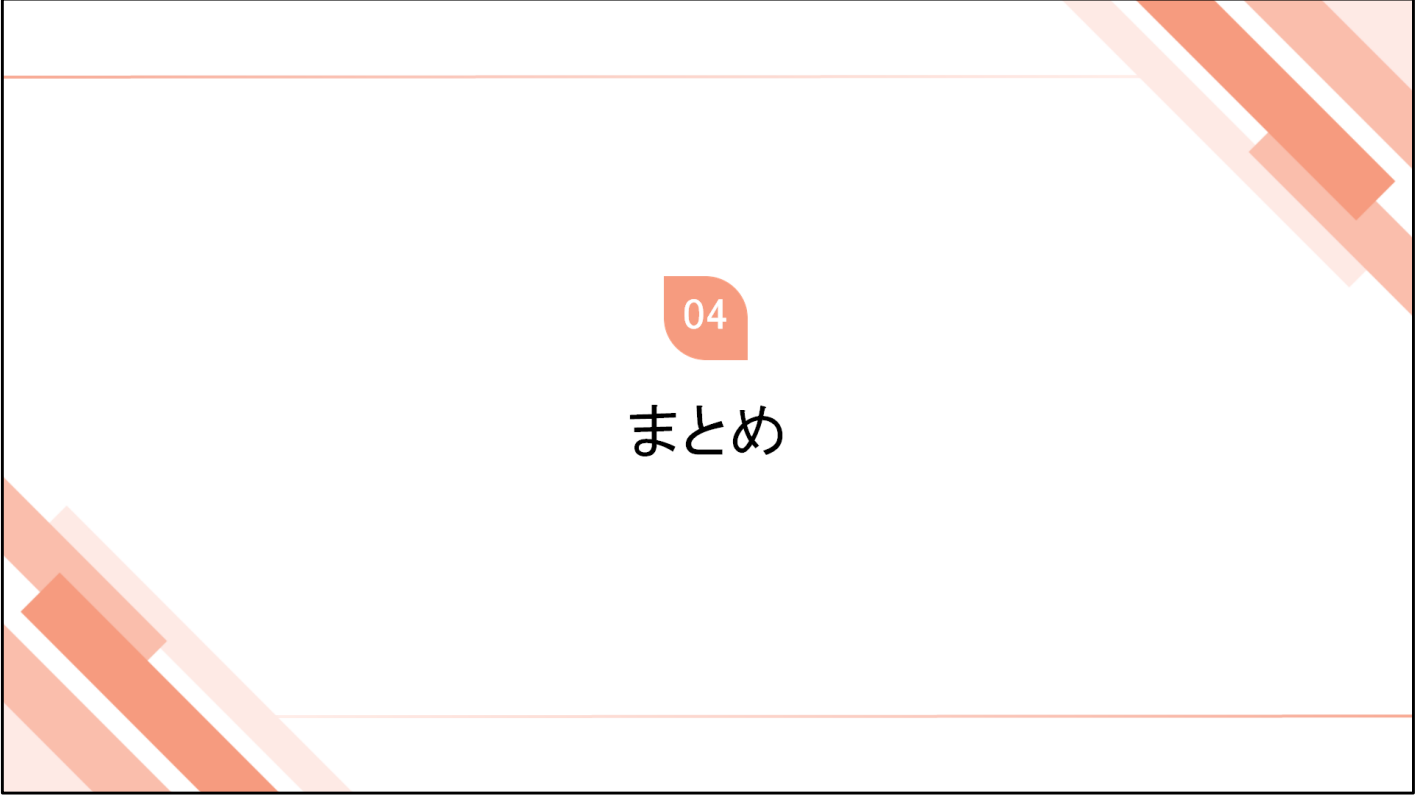
積極的に英語でコミュニケーション



デンマーク派遣中は、団長や先生と離れ、ホストファミリーと一緒に過ごす中で、英語のリスニングがどんどん上達し、相手が伝えたいことを理解できるようになる生徒が日に日に増えてきました。

また、スマホを駆使したり、とっさに知っている単語に置き換えられるようになったり、普段使用していない英語で、しかもたくさんのデンマークの方々と「積極的に」に交流する姿が見て取れ、大きな成長を感じました。

派遣生徒たちの成長の一過程を目の前で見れたことは大変嬉しいことでした。

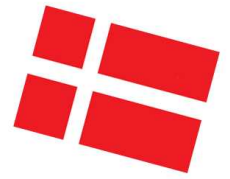


04

まとめ

次に、今回の派遣事業のまとめとなりますが・・・

まとめ



【派遣研修事業の主な効果・成果】

- 英語力の向上に寄与
- 積極性が身につく
- 集団行動力が身につく
- 一生忘れることのない思い出が育まれた
- 派遣生徒たちの海外への関心が高まった
- ファボ・ミッドフュン市との交流促進に寄与

派遣研修は、非常に多くの効果や成果があったなと感じています。
たくさんあるので、特に感じたものをいくつかあげさせていただきます。

1つ目は、

英語力の向上に寄与したことです。

いわゆる「生きた英語」に触れる機会というのは、非常に貴重であり、先ほど、お話ししたように、日に日に英語が上達する生徒たちを見て確信しました。

2つ目は、

積極性が身につくことです。

親元から離れ、海外へ行き、団長や引率教諭から離れ、ホストファミリーと過ごすわけですから、何もしないというわけにはいきません。

トイレに行きたいとき、お風呂に入りたいとき、おなかがすいた時、水を飲みたいとき・・・5日間も生活しているので、色々出てきます。

ホスト側も、色々気にかけて話しかけてくれるので、必然的に話すことが必要になってきます。

最初は、英語に自身がなかったり、人見知りだった生徒であっても、必ず英語を話すことになり、そこから生まれた成功体験が「積極性」につながっていているんだと感じました。

3つ目に

集団行動力が身につくこと です。

修学旅行と似た性質かと考えますが、修学旅行より長い期間の行程で、しかも、行程があまり決まっていない部分があったり、

例えば、荷物が重くて階段がきつい生徒を他の生徒がフォローしたり、困っていることを支えられるようになりました。

自然と周りが見れるようになって帰ってきたと思います。

4 つ目に

一生忘れることのない思い出が育まれること です。

今回の派遣生徒は、全員が海外旅行が初めてでした。

ホストファミリーとのお別れの時は、涙を流す生徒も何人もいて、とても濃い日々を過ごせたんだなと感じました。

また、派遣生徒どうしが非常に仲良くなり、今後、一生の友人になる可能性もあるのではないかな～と感じています。

5 つ目に

派遣生徒たちの海外への関心が高まったこと です。

例年の事業成果で、この事業をきっかけに海外への関心が高まった生徒の割合は100%ですが、今年も感想文で、「英語を話せるようになりたい。」

「また海外に行きたい。」という趣旨のことをほぼ全員が書いています。

また海外に行きたいと思う動機は、それぞれですが、特に、デンマークで体験した食文化や、これまでにしたことのない体験、見たことのない街並み、交流したデンマーク人の人柄の良さがそのような回答のもとになっているようです。

6 つ目に

ファボ・ミッドフュン市との交流促進に寄与している ことです。

ホストファミリーとの交流やリングフリー校での交流は、間違いなく、登別とリングの架け橋になっていると感じます。

加えて、デンマークで流行っているSNS、Instagramやスナップチャットを交換しており、今後も継続して交流が図られれば、

両市の交流にとっても良い影響になると思います。

この事業は、市民個々のレベルで交流のきっかけをつくることのできる事業だなと感じています。

関係者の皆様へ

最後に、お世話になった皆さま方へ、本来は、1人1人、お礼のご連絡、挨拶させていただくところではありますが、この場にいらっしゃる方につきましては、この場をお借りしてお伝えさせていただきます。

- ・まず、協賛事業者の皆様方へ

厚いご支援のおかげで、本当に十分なサポートを受けながら、安全に旅行することができました。

引率者として、安全な旅ができること以上に、ありがたいことはありません。

また、本日は、お忙しいところ、最後までご参加いただき、本当にありがとうございました。

- ・次に、参加していただいた生徒の保護者の皆さんへ

本事業に参加いただいたこと、そして、派遣中の私からのLINE報告、至らない点、行き届かなかった点、多々あったかと思いますが、温かく見守っていただき、本当にありがとうございました。

- ・企画調整グループの皆さんへ

事前研修から事後研修まで多大なサポートをありがとうございました。

特に、帰りの飛行機が台風で欠航になった時に、必死で振替を探してくれたおかげで無事に帰ってこれました。

本当に助かりました。ありがとうございました。

・職場の同僚や上司のみなさんへ

派遣研修で選んでいただきありがとうございました。

私が、派遣期間中だけでなく、事前研修や事後研修含め、派遣事業にフル参加させていただけたのは、皆さんの理解があつてのことです。

帰国の際の、バスのお迎えは、本当にたくさんの方がいて、少し恥ずかしかったですが、とてもうれしかったです。

本当に日ごろの業務では経験できない貴重な体験ができました。ありがとうございました。

・そして、派遣研修にあたって、私にアドバイスいただいたり、激励の言葉をかけていただいた皆さん

本当にありがとうございました。

・そして、本日、最後までご参加の皆さん

長時間、私たち派遣団の経験、発表を聞いていただき、本当にありがとうございました。

Tak ! !



ご清聴ありがとうございました。

改めまして、本事業にこれまで関わってこられた全ての方々に感謝を申し上げますとともに、
本事業の継続とさらなる発展、そして、派遣された生徒達の今後の大きな成長を祈念いたしまして挨拶とさせていただきます。
長時間のご静聴、ありがとうございました。

友好都市協定書

デンマーク王国リング市及びウィスリング市と日本国北海道登別市は、1997年に「友好の絆」を交わして以来、リング・ウィスリング・登別友好協会と登別デンマーク協会との両協会の活動を積極的に支援し、双方の市民の友好と相互理解を深め、友好交流を積み重ねてまいりました。

これらの交流は、両市民の文化・教育の面においても拡がりを持たせるものであります。

この度、リング市、ウィスリング市が近隣のまちと合併し、ファボー・ミッドフュン市として誕生したことを記念する年になお一層両市の絆を強め、ファボー・ミッドフュン登別友好協会（旧リング・ウィスリング・登別友好協会）と登別デンマーク協会の積極的な支援を継続するとともに、両市の相互理解と信頼のもとに市民交流、文化交流の推進を目指し、ここに友好都市協定を締結します。

平成19年(2007年)6月10日

The Establishment of Friendship Agreement

Since the signing on the Bond of Friendship between the municipalities of Ringe/Ryslinge and Noboribetsu City in 1997, our three cities have been positively supporting the activities of both the Ringe/Ryslinge-Noboribetsu Friendship Association and the Noboribetsu Denmark Association to deepen mutual understanding and build up friendship among our peoples, and the fruit of the activities has extended to cultural and educational fields.

According to the formation of the new Municipality of Faaborg-Midtfyn, both our cities will strengthen the ties of friendship even more, and continuously maintain the activities of both the Faaborg-Midtfyn-Noboribetsu Friendship Association and the Noboribetsu Denmark Association. Our goal is promote friendship and cultural exchanges based upon mutual appreciation and reliance.

In accordance with the above mentioned guiding principles, The Municipality of Faaborg-Midtfyn and The City of Noboribetsu will subsequently outline a more elaborate description of the fields of co-operation and how the goals of the agreement is best achieved.

We hereby give our signatures on the Establishment of Friendship Association.

June 10th, 2007



ファボー・ミッドフュン市長
Mayor of Faaborg-Midtfyn
ボー・アナスン
Bo Andersen



登別市長
Mayor of Noboribetsu
上野 晃
Akira Ueno